

清柳園焼却施設解体工事

仕様書

柳泉園組合

第1章 総則

清柳園焼却施設解体工事(以下、「本工事」という。)に係る本仕様書は、柳泉園組合(以下「甲」という。)の施設内で請負者(以下「乙」という。)が本工事を遂行する上で適用する総括事項であり、必要な事項を定めるものである。

第1節 一般概要

1 工事の概要

清柳園焼却施設は、昭和60年まで稼動していた施設で、廃止してから38年が経過し、施設の老朽化等により倒壊の危険がある。今回解体する準備が出来たため令和6年度から8年度にかけて解体工事を実施する。

2 件名

清柳園焼却施設解体工事

3 場所

東京都清瀬市下宿二丁目554番7外(清柳園敷地内)

4 契約期間

契約の確定した日から令和8年7月31日まで

第2節 工事内容

1 仮設工事

2 除染工事

3 焼却施設解体撤去工事

4 汚染土壌等除去工事

5 跡地整備工事

第3節 一般事項

1 適用範囲

本仕様書は、本工事の基本的内容について定めるものであり、本仕様書に明記されていない事項であっても、施工上又は性質上、当然必要と思われるものについては、仕様書等の記載の有無にかかわらず、乙の責任において施工するものとする。

2 疑義

本仕様書及び工事施工中に疑義が生じた場合は、乙は、甲と協議を行うものとする。ただし軽微なもの、若しくは本仕様書に明示されていない事項であっても工事の施工上当然必要なものは、甲の指示に従い、乙の負担で施工するものとする。

3 法令、条例、規則等の遵守及び手続きの代行

乙は、工事施工にあたり関係ある法令、条例、規則等を遵守し、必要な届出手続き等を遅滞なく代行し、工事の円滑な進捗を図らなければならない。

なお、手続き等に要する費用は、すべて乙の負担とする。

4 軽微な変更

原則として変更は認めないものとする。

ただし、現場取り合い上で生じた軽微な変更については、施工目的に反せず強度、機能等にも支障が生じない場合に限り、甲の許可を得て乙の負担により変更を認めるものとする。

5 夜間、休日作業

工事の施工時間は、原則として、午前8時30分から午後5時までとする。(柳泉園組合の休日を定める条例に規定する休日を除く。)

なお、施工の都合上必要ときは、事前に甲の承諾を得て、施工時間を変更し、又は休日に作業することができる。(ただし、緊急の場合はこの限りではない。)

6 工事用機械器具等

乙は、甲の所有する現場の機械器具等について、この仕様書で特記がない限り使用してはならない。ただし、甲が工事施工上やむを得ないと認めた場合は、甲の指示によりこれらの機械器具等を使用することができる。

7 工事現場の管理

(1) 工事に係わる現場代理人については、管理運営に必要な知識と経験を有するものでなければならない。

(2) 現場代理人は、法規等に従い遺漏なく現場の管理を行わなければならない。

- (3) 現場代理人は、工事現場で工事担当技術者、下請者等が工事関係者であることを着衣、記章等で明瞭に識別できるよう処置しなければならない。
- (4) 現場代理人は、工事現場において、常に清掃及び材料、工具その他の整理を行わなければならない。また火災、盗難その他災害事故の予防対策について万全を期さねばならない。

8 発生材

乙は、甲の立会いの上で発生材の受渡しを行い、甲の指定する場所へ運搬しなければならない。工事から発生する廃棄物の処分は、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律」に基づき適正に処理し、不法投棄等第三者に損害を与えるような行為のないように、乙の責任において行うこと。

なお、場外処分を行った場合には、必要に応じて搬出先の受入れ証明書並びに廃棄物処理許可証の写しを提出すること。

9 検査、点検及び分析、試験

- (1) 甲は、工事施工等に際し、工事等に使用する機械器具材料のうち特に必要と認めたものは、製作工場等において、立会い検査及び試験を行う。乙は、その試験成績表を提出すること。

この各検査及び試験に必要な一切の費用は乙の負担とする。

- (2) 工事範囲と定められた箇所、甲が施工後容易に点検できない箇所は、その施工過程において甲の立会いを求めなければならない。ただし、やむを得ない場合は、写真等をもって代行することができる。
- (3) この仕様書で特記のない限り、分析、試験は乙の責任で行うものとする。ただし対象供試体の採取、取り外し及び工事場所での試験には、甲の立会いを求めなければならない。

10 関連業務との調整

甲は乙の施工する工事及び甲の発注にかかる第三者の施工する他の工事が施工上密接に関連する場合において、必要がある時は、その施工につき調整を行うものとする。この場合において、乙は甲の調整に従い、第三者の行う工事の円滑な施工に協力しなくてはならない。

11 建物等の損傷部分補修

乙は、工事等の施工に際し、甲の建物及び財産等を損傷しないよう十分に注意して施工しなければならない。もし損傷した場合は、速やかに甲に報告するとともに、甲の指示に従い復旧しなければならない。

12 工事記録写真

乙は、工事完了検査日まで(一部完了のある場合はその検査日まで)に、工事記録写真を2部作成し甲に提出しなければならない。

13 その他

- (1) 乙が本仕様書の定めを守らぬために生じた事故は、例え検査終了後であっても乙の負担において処理しなければならない。
- (2) 工事等の工程上又は施工上において、甲の施設等の稼働及び業務に支障が生じないように甲と協議の上必要な処置を講じなければならない。

第4節 材 料

1 適用範囲

本仕様書でいう材料とは、単体として完成品を含めすべての材料をいう。

2 材料選定及び仕様

- (1) 原則として、使用する材料については、各々の用途に適合する欠点のない製品で、かつすべて新品とし、日本産業規格(JIS)、日本農林規格(JAS)、日本電気学会電気規格調査会規格(JEC)、日本電機工業会規格(JEM)、日本下水道協会規格(JSWAS)等が定められているものについては、これらの規格品を使用するものとする。
- (2) 本仕様書に明示されている材料のうちで、乙の理由によりこれを変更したい場合、機能に支障がなくかつ材料の全体としての性能が設計仕様を十分に満足する時は、甲の承諾を得て使用することができる。
- (3) 保温材を取り外す工程が含まれる場合、復旧は本仕様書に特記のないかぎり、取り外す前と同仕様とすること。
- (4) ボルト、ナットの取替に際しては、材質、寸法及び形状等に留意し、総体の機能及び性能を低下させるおそれのあるものは使用してはならない。
- (5) 石綿(アスベスト)製品を使用してはならない。
- (6) 塗装工程が含まれる場合、仕上げの程度、色合い等はあらかじめ見本を提出し、事前に甲と協議を行うこと。

3 材料検査

工事用材料は、検査に合格したものでなければ使用してはならない。また、試験に要する費用は乙の負担とする。

(1) 材料検査の内容

- ア 材質、構造、加工、主要寸法及び数量
- イ 関係法令及び規格の適合

ウ その他必要と認めたもの

エ 方法及び項目については事前に協議を行うものとする。

(2) 工場製作品の材料検査方法及び項目については事前に協議を行うものとする。

(3) 材料の試験特殊な材料試験は、原則として供試体を甲の立会いの上で採取し、公的な試験所で試験を行い、その成績表を提出するものとする。

4 材料保管

(1) 乙は、工所用材料を乙の責任において保管しなければならない。

(2) 甲の検査に合格後の材料であっても、保管中に損傷その他欠陥を生じ、使用に不適当と認められるものは、甲の指示に従い交換し、再検査を受けなければならない。

(3) 検査後の材料は、現場での取扱いに十分な注意を払い、不用意に屋外に放置したり、足場代わりに用いたりしてはならない。また、発錆、ペンキ、モルタル付着などで材料を損じることのないよう、カバーによる保護など必要な措置を講じなければならない。

(4) 乙は、支給材を工場現場まで運搬し、使用するまで乙の責任において保管しなければならない。

5 支給材料

支給材料の品名等は設計図書に明示する。支給材料に過不足を生じた場合は、甲と協議の上、若しくはその指示に従い返納又は補足しなければならない。

なお、支給材料の受渡し場所は、原則として甲の敷地内とする。

第5節 安全管理

乙は、「労働安全衛生法」その他関連法規等の定めるところにより、安全管理に必要な措置を講じ、労働災害防止に努めなければならない。

なお、これに伴う費用については乙の負担とする。

1 安全対策

(1) 作業に適した衣服を着用し、特別な場合のほか、保安帽、手袋は必ず着用し、安全作業に徹すること。

(2) 炉内清掃等に従事する作業員は、必ず上記のほか、防じんマスク、防じんメガネを着用すること。

(3) 火気を使用する場合は、周囲の状況を良く把握し、火気飛散による災害の防止に注意すること。

(4) 工事に使用するために危険物を持ち込む場合は、あらかじめ甲と搬入方法、貯蔵場所、貯蔵方法を協議しなければならない。

(5) 低所であっても、作業中に転落の恐れあるときは、確実な足場組をし、安全ベルト等にて転落防止に対処し、無理な作業は絶対にさけること。

- (6) 高所作業に際しては、常に足場の確保に注意し、如何なる転落事故に対しても即対処できる防護策を用意すること。荷上用に用いるウインチ又はゴンドラ等は十分に点検整備されたものを使用しなければならない。荷上時の玉掛けは確実にし、荷上途中からの機材落下等のないようにすること。また、作業に際しては、危険防止上適正な防具、工具、機材を使用し、なおかつ、下部区域の状況を把握し、機材の落下、溶接火花の落下に注意しながら作業すること。
- (7) 足場用機材及び架設方法は、施工する作業に適した確実なものでなければならない。
- (8) 作業目的に合わせ、適正な機械、工具を使用すること。不備な工具による無理な作業は禁止する。
- (9) 電気溶接器には、必ず感電防止器を取り付けて使用すること。ガス切断・溶接器を使用する際は、各ボンベの取扱いは丁寧にし、減圧弁、ホース等は正しい状態で使用すること。故障のある機材の使用は認めない。また、作業終了後及び休止時間中は必ず各ボンベ、元バルブを閉止すること。
- (10) 電動工具、投光器、電気機械器具は、十分に整備されたものを使用すること。電源は甲が指定する電源を使用し、勝手な場所に接続しないこと。また、小容量の電気機器にも、必ず漏電防止器を使用すること。
- (11) タンク内部、地下室、トレンチ及びごみピット等空気の流入の少ない場所、又はガス発生のおそれがある場所で作業する際は、酸素欠乏症防止規則を遵守して作業を行うこと。

2 事故報告

工事施工中に事故があった時には、速やかに適正な措置を講ずるとともに、事故発生の原因及び経過、事故による被害の内容等を甲に速やかに報告しなければならない。

3 交通及び保安上の措置

乙は、工事施工中に、交通の妨害となる行為又はその他公衆に迷惑を及ぼす行為のないよう交通及び保安上の注意をしなければならない。

4 免許、資格等

免許、資格を必要とする作業を行う場合、乙は、前もって免許資格証明の写しを甲に提出しなければならない。

5 後片付け

乙は、工事完了後は仮設物の取り払い、残材持ち出しなどの後片付けを、速やかに、かつ完全に行わなければならない。

その他、甲の指示箇所は清掃しなければならない。

6 養生

既成部分を汚損、又は損傷するおそれがある場合は、適切な材料で養生を行わなければならない。

第2章 特記仕様書

第1節 総則

1.1 適用範囲

本工事を実施するにあたっては、平成13年6月1日から施行された労働安全衛生規則の一部を改正する省令(平成13年厚生労働省令第 120 号(以下、「改正省令」という。))に伴う廃棄物焼却施設内作業におけるダイオキシン類ばく露防止対策について(平成13年4月25日付け基発第 401 号 2 及び平成26年1月10日付け基発 0110 第1号厚生労働省労働基準局長通知)及びその別添の廃棄物焼却施設内作業におけるダイオキシン類ばく露防止対策要綱を順守し、廃棄物焼却施設解体作業マニュアル(厚生労働省労働基準局化学物質調査編(以下、「解体工事マニュアル」という。))を熟知の上、解体工事における作業者のダイオキシン類ばく露防止対策の徹底を図るとともに、周辺地域に対する安全にも十分配慮して行うものとする。

また、建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律(平成12年法律第 104 号(以下、「建設リサイクル法」という。))等の関係法令等も併せて順守するものとする。

本工事は、性能発注(設計・施工一括発注)方式にて工事発注するものであり、本工事の施工にあたっては、下記に示す事項に配慮し、本仕様書の内容を十分に理解した上で、工事を実施すること。

また、本仕様書は本工事の基本的内容について定めるものであり、これを上回って設計、施工することを妨げるものではない。乙は本仕様書及び図面に明記されていない事項であっても、本工事の目的達成のために必要な工事、労働基準監督署の指導、地元住民の要望により発生する作業・調査または工事の性質上当然必要とされるものについては、乙の責任においてすべて実施するものとする。この場合、変更・追加に伴う工事請負代金額の変更は行わない。また、別添の資料及びその他資料はあくまでも参考であり、本工事に当然必要と思われるものについては受注者の責任において補則・完備させ、実施しなければならないものとする。この場合においても変更・追加に伴う工事請負代金額の変更は行わない。

1.2 工事概要

(1) 工事名称

清柳園焼却施設解体工事

(2) 工事場所

東京都清瀬市下宿二丁目554番7外

(3) 工事期間

契約の確定した日の翌日から令和8年7月31日まで

(4) 面積

敷地面積 : 3774.42 m²

本工事対象建物面積 : 283 m²

本工事対象延床面積 : 624 m²

(5) 本工事対象施設概要

施設名 : 清柳園焼却施設

処理能力 : 75t/日

処理方式 : キルン式機械炉(三機式連続機械炉)

稼動開始 : 昭和43年3月

使用廃止日：昭和60年11月稼働停止、昭和61年廃止

用途地域：第二種住居地域

建物構造：鉄骨鉄筋コンクリート造、地下1階・地上3階、煙突(一部解体済、約 **13m** 以下が残置)

設備概要：焼却炉(75t/日) 1基

押込送風機 1基

誘引送風機 1基

給塵クレーン 1基

回転式乾燥装置 1基

灰出しコンベヤ 1基

灰バンカ 1基

ガス温度調節装置 1基

煙突(一部解体済み、約 **13m** 以下が残置)

電気集塵機 【令和2年に解体撤去済み】

(昭和47年にマルチサイクロンに代えて設置された排ガスの除塵設備)

ごみピット 1基(※現状はピット中は土で埋めている状態)

その他ピット

基礎杭 35本程度

その他付帯設備 一式

(6) 工事範囲および内容

本工事は、清柳園焼却施設の解体撤去を行うとともに、土壤汚染対策法第 14 条の届出により、形質変更時要届出区域として指定された土地の指定解除を目的とする。

なお、本工事にあたり、土壤汚染対策法、ダイオキシン類対策特別措置法、廃掃法、建設リサイクル法、安衛法、その他関係法令、規則、要綱、ガイドライン等を遵守し施工すること。また、汚染土壤の撤去にあたっては、適正に運搬処分するとともに汚染水等が場外に拡散しないように配慮して実施するものとする。本工事後の跡地利用は未定であるが、解体撤去後は整地造成して更地にて引き渡すものとする。

本工事の工事範囲は以下に示すとおりとする。なお、本工事は設計・施工一括発注であるため、乙は本仕様書及び図面に明記されていない事項であっても、本工事の目的達成のために必要な工事及びその費用、並びに工事の性質上、当然必要とされる全ての工事及びその費用は、乙が全て負担しなければならない。

1) 解体撤去工事

- ① 汚染物除去工(機器設備・建屋内除染・清掃及び除染排水処理設備等を含む)
- ② 機器設備等解体撤去工事
- ③ アスベスト含有建材及び部品等撤去工
- ④ 焼却施設建屋及び地下構造物解体撤去工事

2) 汚染土壤除去工事

3) ダイオキシン類ばく露防止対策

- ① 保護具等
- ② 集じん機、セキュリティー設備
- ③ 測定機器
- 4) 汚染物及び解体廃棄物の処理・処分
 - ① 廃棄物運搬・処分工(除染排水及び排水処理汚泥を含む)
- 5) 解体跡地整備
 - ① 構造物撤去後の空隙の良質土による埋戻し
 - ② 縁石、雨水側溝及び柵の復旧、補修
 - ③ 雨水浸透柵等周辺環境対策
 - ④ 再生砕石等による転圧仕上げ等による整地
- 6) 上記工事に係る仮設工事
- 7) 調査・測定
 - ① 設備内付着物等のダイオキシン類・重金属類測定(除染前・除染後)
 - ② 周辺環境調査測定(工事前、工事中、工事後)
 - ③ 管理区域内作業環境測定(除染前、除染後)
 - ④ 排水処理水・処理汚泥及び解体廃材(耐火物等)のダイオキシン類・重金属類測定

8) 周辺住民への対応

工事着工前に、周辺住民に対する説明会(2回程度を想定)を行う際に使用する資料の作成を行うこと。なお、説明会には同席し、技術的な説明を行うこと。また、周辺住民が集まりやすい近隣会場の確保を行うこと。

工事中は定期的(毎月月初を想定)に工事の進捗状況や直近の予定、周辺住民へのお知らせ等を記載した配布・HP 掲載用資料「工事かわら版」を作成して組合に提出するものとする。また、かわら版は現場掲示版にも掲示すること。騒音・振動が発生する作業がある場合や、大型車両の通行がある場合、工事車両の通行が極端に増える場合など、周辺住民の生活環境に影響がある事項については必ず記載するものとする。

また、周辺住民からの苦情・要望などがあった場合は速やかに甲と情報共有し、対応策を提出するものとする。

9) 関係機関等への連絡・協議

工事前には敷地周辺にある関係機関、民間企業等への連絡・協議は受注者において行い、議事録等を提出すること。特に本施設は JR 武蔵野線の高架下の敷地と隣接しているため、解体工事の際に支障のないように受注者において JR と事前に協議するものとする。

10) 防犯対策(不法侵入、不法投棄等)

工事期間中の不法侵入、不法投棄等については十分の予防対策を講じるものとする。

1.3 工事施工に関する法令等

解体撤去工事にあたっては、以下の関係法令を遵守するものとする。

(1) 公害防止関係

- 1) 環境基本法
 - 2) 廃棄物の処理及び清掃に関する法律
 - 3) 循環型社会形成推進基本法
 - 4) 資源の有効な利用の促進に関する法律
 - 5) 建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律
 - 6) ダイオキシン類対策特別措置法
 - 7) 大気汚染防止法
 - 8) 水質汚濁防止法
 - 9) 騒音規制法
 - 10) 振動規制法
 - 11) 悪臭防止法
 - 12) 土壌汚染対策法
 - 13) 廃棄物焼却施設内作業におけるダイオキシン類ばく露防止対策(基発 0110 第 1 号)
 - 14) 廃棄物焼却施設解体作業マニュアル(公益社団法人 日本保安用品協会)
 - 15) 建築物等の解体等に係る石綿ばく露防止及び石綿飛散漏えい防止対策徹底マニュアル
 - 16) 廃棄物処理施設解体時等の石綿飛散防止対策マニュアル
 - 17) 石綿粉じんへのばく露防止マニュアル
 - 18) アスベスト分析マニュアル
 - 19) 都民の健康と安全を確保する環境に関する条例
 - 20) 東京都廃棄物条例
 - 21) 石綿障害予防規則
 - 22) 東京都環境確保条例
- (2)機械電気関係
- 1) 日本産業規格(JIS)
 - 2) 労働安全衛生法
 - 3) 電気事業法
 - 4) 電気設備技術基準(経済産業省)
 - 5) 日本電機工業会規格(JEM)
 - 6) 日本電気規格調査会標準規格(JEC)
 - 7) 工場電気設備防爆指針(労働安全衛生総合研究所)
 - 8) 電気用品安全法
 - 9) 日本電線工業会標準規格(JCS)
 - 10) 電気設備に関する技術指針を定める省令、内線規程

- 11) 電力会社供給約款
 - 12) 電気通信事業法
 - 13) 高圧ガス保安法
 - 14) 計量法
 - 15) クレーン等安全規則
 - 16) クレーン構造規格
 - 17) 日本照明工業会規格
 - 18) フロン等の使用の合理化及び管理の適正化に関する法律
- (3) 土木建築関係・その他
- 1) 建築基準法
 - 2) 消防法
 - 3) 建設業法
 - 4) 都市計画法
 - 5) 作業環境測定法
 - 6) 水道法
 - 7) 河川法
 - 8) ガス事業法
 - 9) 労働安全衛生法
 - 10) 労働基準法
 - 11) 宅地造成等規制法
 - 12) 土木工事標準示方書、コンクリート標準示方書
 - 13) 建築物解体工事共通仕様書 令和5年版
 - 14) 公共建築工事標準仕様書(建築工事編)(令和5年版 国土交通大臣官房官庁営繕部監修)
 - 15) 公共建築工事標準仕様書(建築機械工事編)(令和5年版 国土交通大臣官房官庁営繕部監修)
 - 16) 公共建築工事標準仕様書(電気設備工事編)(令和5年版 国土交通大臣官房官庁営繕部監修)
 - 17) 日本建築規格及び鋼構造計算基準
 - 18) 鉄筋コンクリート構造計算基準
 - 19) 道路法
 - 20) 道路交通法
 - 21) 補助金に係る予算の執行の適正化に関する法律
 - 22) 建設リサイクル法
 - 23) 東京都受動喫煙防止条例
 - 24) その他関係諸法令等

1.4 公害防止対策

(1) 騒音・振動

「特定建設作業の騒音及び振動の規制基準」及び「都民の健康と安全を確保する環境に関する条例」を遵守すること。また、本工事で使用する重機等は、低騒音・低振動対策型、排出ガス対策型とすること。

特定建設作業の規制基準(条例)を表 1 に示し、日常生活等の規制基準(条例)を表 2 に示す。

表 1 特定・指定建設作業の規制基準

(騒音・振動規制法、都民の健康と安全を確保する環境に関する条例)

建設作業の種類	騒音 dB	振動 dB
くい打機・くい抜機・くい打くい抜機 (もんけん・圧入式くい打くい抜機・アースオガー併用を除く)	85	—
くい打機・くい抜機・くい打くい抜機 (もんけん・圧入式くい打機・油圧式くい抜機・圧入式くい打くい抜機を除く)	—	75
せん孔機	80	70
びょう打ち機	85	—
インパクトレンチ	80	—
ブレーカー(手持ち式を除く)	85	75
さく岩機(手持ち式ブレーカーなど)	85	70
コンクリートカッター	80	—
バックホウ(原動機の定格出力が80kw以上)、トラクターショベル(原動機の定格出力が40kw以上)(低騒音型を除く)	85	—
バックホウ、パワーショベル、ブルドーザー (低騒音型)	80	70
空気圧縮機(15kw以上)	85	65
振動ローラー、タイヤローラー、ロードローラー、振動プレート、振動ランマ等の締固め機械	80	70
コンクリート(アスファルト)プラント	85	—
コンクリートミキサー車	80	—
はつり作業、コンクリート仕上げ作業(さく岩機を使用する作業を除く)	80	—
剛球を使用する破壊作業	85	75
動力、火薬を使用する解体破壊作業	85	75

表 2 日常生活等に適用する規制基準(都民の健康と安全を確保する環境に関する条例)

日常生活等に適用する 騒音の規制基準	音源の存する敷地と隣地との境界線における音量			
	6～8時	8～19時	19～23時	23～6時
第2種住居地域	45dB	50dB	45dB	45dB
日常生活等に適用する 振動の規制基準	振動源の存する敷地と隣地との境界線における地盤の振動の大きさ			
	8～19時		19時～8時	
第2種住居地域	60dB		55dB	

(2) 粉じん

本工事で発生する粉じんは可能な限り低減するよう配慮するものとし、特に、管理区域内で発生した粉じん等については適正に処理するものとし、集じん装置の排気口においては表3の基準値を満足すること。

表 3 集じん装置出口の粉じん等排出基準値(環境基準)

項目	基準値
粉じん	0.1mg/m ³ 以下
ダイオキシン類	0.6pg-TEQ/m ³ N以下

(3) 悪臭

腐敗等により悪臭を伴う污水・汚物等は、すみやかに密閉容器に入れて保管するとともに、これらを貯留していた水槽等の洗浄を行い、洗浄水とあわせて場外処分することにより悪臭の発生防止に努めること。また、場内において汚泥の乾燥など悪臭の発生を伴う作業は禁止とし、敷地境界においては東京都環境確保条例で定められた表4の基準値を満足すること。

表 4 悪臭の基準値(東京都環境確保条例)

項目	基準値
臭気指数(第二種住居地域)	10

(4) 水質

本工事で発生した排水については無放流とし、汚染物の高圧洗浄用水として再利用する場合は、ダイオキシン類及び重金属類を排水基準以下まで適切に処理することができる排水処理設備を仮設して排水処理を行うこと。なお、最終的に残留した排水については場外処分とする。

1.5 疑義

乙は、本仕様書及び設計図書等、又は工事中に不備や疑義が生じた場合、甲と十分協議の上、工事を行うものとする。

1.6 変更

工事費に関する契約変更は、軽微なものについては原則として行わないものとする。

1.7 届出・手続き

本工事に必要な届出・手続き等は乙が代行し、これに要する費用は全て乙の負担とする。特に解体作業に関しては、廃棄物焼却施設内作業におけるダイオキシン類ばく露防止対策要綱第3の3の(5)に従い、三鷹労働基準監督署長に対し、計画の届出をすみやかに行うこと。

その他関係官公庁(環境省、東京都多摩環境事務所等)及び関係各所(JR、東京電力、東京都水道局等)への届出、手続き等についても乙が作成または代行し、これに要する費用は全て乙の負担とする。

1.8 性能の確保

(1) 適用範囲

本仕様書及び図面に明記されていない事項であっても、本工事の目的達成のために必要な工事及びその費用、並びに工事の性質上、当然必要とされる全ての工事及びその費用は、乙が全て負担すること。

(2) 疑義

本仕様書、添付図面の記載のない部分、判明しがたい部分について不都合な箇所が生じた場合は、甲と協議の上、その指示に従うこと。

(3) 変更

- 1) 本工事の施工にあたり、図面等による数量、寸法、重量及び測定結果が基準値を上回る場合の追加サンプリング等の軽微な変更による受注金額の変更は行わない。
- 2) 工事の施工は乙が施工計画図書(以下「施工計画書」という。)を作成し、甲の承認を得たうえで実施するものとする。なお、承認後の施工計画書の変更は原則として認めないものとする。ただし、本工事の施工上必要と認められるときで、甲の承認を得た場合、または甲の指示による場合はこの限りでない。
- 3) 施工計画書に本仕様書と適合しない箇所が発見されたとき、施工計画書による施工が困難なときまたは仕様書の要求事項を遂行することができない箇所が発見されたときで施工計画書を変更しようとする場合には、当該変更部分が仕様書の要求事項の内容と同等以上の場合に限り、乙の責任において甲の承認を得たうえで施工計画書の変更を行うものとする。
- 4) 変更に伴う請負代金額の変更は行わないものとし、施工計画書などの変更により乙が損害を受けた場合においても甲は損害賠償の責めを一切負わないものとする。

(4) 第三者による工事施工監理業務委託

甲は、第三者による工事施工監理業務委託を別途予定している。工事施工監理者が行う工事施工監理に必要な図書等の提出、工程会議への出席等、工事施工監理者の指示(調査、立会、検査、改善点の指摘等)を順守すること。

1.9 下請負業者の承諾

乙は、工事に先立ち、各下請業者、各職種別下請人名簿、一覧表を提出し、甲の承諾を得るものとする。乙は、下請業者を選定することに際し、できる限り地元業者を選定するとともに、下請業者に対し指導・助言・援助を行い、適切な施工に努めること。

なお、ダイオキシン類ばく露防止に係る

- (1) サンプルング等ダイオキシン類分析業者
- (2) 作業環境測定業者
- (3) 廃棄物処理業者等

以上は関係法令で定められた有資格者を選定すること。

1.10 提出図書等

乙は、本仕様書に基づき、次の図書を提出すること。図書は必要に応じ図示を用い、明瞭なものとする。また、必要に応じて地元住民説明会用資料を作成すること。

(1) 実施設計図書及び施工承諾申請図書

乙は、契約締結時又は工事の開始前に、以下の工事関係書類を甲に提出し、承諾を受けること。

なお、これらの書類のうち、工事の開始前に提出することが難しい書類等については、工事開始後適切な時点でこれを提出すること。

1) 契約締結時

- ① 業務計画書(業務体制、業務工程、業務方針など)
- ② 全体工程表
- ③ 着工届
- ④ 建設業退職金共済制度加入届、建設業退職金共済組合掛金収納書、証書購入状況報告書
- ⑤ 現場代理人及び監理技術者・主任技術者等届(経歴書・監理技術者証写し含む)
- ⑥ その他必要な書類

2) 工事の開始前

- ① 施工体制台帳及び施工体系図
- ② 施工前調査報告書(解体対象物、埋設物等調査)
- ③ 事前調査計画書
- ④ 工事中ダイオキシン類等調査計画書
- ⑤ 事後調査計画書
- ⑥ 解体工事計画書、工種別施工計画書
 - ・工事概要
 - ・組織・体制表
 - ・安全衛生管理計画書及び体制
 - ・仮設・準備工事施工計画書(施設養生計画、粉じん飛散防止計画を含む)

- ・除染工事計画書
 - ・解体工事計画書(各施設、設備毎に提出すること)
 - ・汚染物の処分及び有価物の売却に関する搬出計画書
 - ・専門業者、下請業者及び法的資格リスト
 - ・使用機材リスト
 - ・ダイオキシン類等調査結果報告書
 - ・その他監督職員が指示する図書
- ⑦ 工事工程表
- ⑧ 工事設計書等
- ・工事内訳書
 - ・数量計算書
 - ・解体撤去工事図
 - ・単価表・単価見積等の単価根拠
 - ・搬入・搬出車両通行計画書
 - ・その他監督職員が指示する図書
- ⑨ 関係官庁等届出書(土対法関係、廃掃法関係、労基関係)
- ⑩ 周辺住民説明資料
- ⑪ 施工要領書(解体各機器、建屋ごとの除染及び解体、廃棄物搬出容量等)
- ⑫ 建築工事届、建築物除去届
- 3) 工事中
- ① 検査要領書
- ② リサイクル計画書(建設廃材処理計画含む)
- ③ 打合せ議事録
- ④ 各種承諾図・施工図等
- ⑤ 立会検査願
- ⑥ 関係官庁等届出書
- ・廃棄物焼却施設解体工事計画届
 - ・建設物除去届
 - ・その他監督職員が指示する図書及び許認可等必要図書
- ⑦ その他必要な書類
- 4) 工事着手後随時提出
- ① 工事進捗報告書(日報、月報、週間及び月間工程表)
- ② その他必要な書類

③ 完了検査願(監督職員と協議により)

④ 工事履行報告書

(2)完了図書

乙は、工事の完了に際し、以下の完了図書を作成し提出すること。(紙・電子データ)

1) 完了図各2部

① 仕上測量図を含む完了図(A4版)

② 仕上測量図を含む完了図(見開きA1版)

③ 同上CADデータ(Jww形式)

④ 電子データ(PDF形式、ワード、エクセル)

2) 工事記録簿等各2部

① 特別教育記録簿(A4版)

② 調査測定報告書(A4版)

③ 工事日報・月報(A4版)

④ 週間、月間工程表(A4版)

⑤ 出来高進捗状況報告書(A4版)

⑥ 保護具管理記録簿(A4版)

⑦ 安全衛生設備管理記録簿(A4版)

⑧ 機器管理記録(治具・工具・重機・運搬車等の洗浄)(A4版)

⑨ 負圧管理記録簿(A4版)

⑩ 粉じん監視記録簿(A4版)

⑪ 工事写真帳(A4版)

⑫ 車両運行記録

⑬ 廃棄物運搬処分報告書

⑭ 収集運搬、処理処分契約書(写し)

⑮ 建築廃棄物処理実績報告書

⑯ 処理処分許可書(写し)

⑰ 収集運搬許可書(写し)

⑱ 計量表、マニフェスト伝票(写し)

⑲ 上記の集計表

⑳ スクラップ取得費証明書、契約書の写し

㉑ 中間処理、最終処分運搬経路の地図と施設搬入、処分状況写真

㉒ 収集運搬、処理処分のフロー図

㉓ 再資源化完了報告書

④ 工事内訳書、清算書

1.11 解体対象範囲外の損傷部補修

解体等の工事に際しては、あらかじめ必要箇所の養生等を行い、解体対象範囲外を損傷しないよう注意すること。損傷した場合は、甲の指示に従い原型に復旧すること。工事着工前に認められる損傷部については、あらかじめ乙と甲の双方で確認し、写真撮影等により記録しておくものとする。工事完了後に、新たな損傷が認められた場合は双方で確認し、甲乙協議の上で補修範囲を確定し、乙が補修等を行うものとする。

1.12 除染・解体工事中の立会

工事施工に際し、汚染物除去作業や解体作業の後において確認が不可能となる施工箇所は、原則として、その過程において甲の立会を求めなければならない。また、作業前、作業中、作業後が確認できるように、写真撮影を行うこと。

なお、主な除染・解体工事中の立会項目は、下記に示す通りとする。

- (1) 周辺道路の破損状況の確認：【工事前・後】
- (2) 周辺環境調査(標準土壌、大気、騒音・振動等)：【工事前・中・後】
- (3) 追加的サンプリング調査(3ng-TEQ/gを超過した箇所)
- (4) 密閉養生状況の確認(負圧状態確認・作業環境)：【除染前・中】
- (5) 各設備の汚染物除去前後の確認(目視確認・分析試料採取)：【除染前・後】
- (6) 特別産業廃棄物処理施設の確認
- (7) トラックスケール等の基礎撤去状況の確認
- (8) 残置構造部のレベル確認
- (9) 工事完了検査

1.13 工事管理及び検査

- (1) 労働安全衛生法に基づく労働災害防止措置

労働安全衛生法第 30 条第 1 項に規定する措置を講じること。

- (2) 工程管理

乙は、工事着手前に全体工程表、工事中においては週間及び月間工程表を提出し、甲の確認を受け、工事を円滑に遂行しなければならない。なお、実施工程に変更が生じた場合は、変更工程表を甲に提出して承諾を受けること。

本工事期間中は、工事施工監理者と定例会議を原則月 1 回以上、工程会議を原則 2 週につき 1 回以上開催し、うち半数程度は web を利用したオンライン会議を可とする。

- (3) 工事記録写真

工事着手前に工事前現況写真、工事中は工程写真及び工程進捗写真、工事完了後は完了工事写真を撮影し、甲に提出すること。

工事写真の撮影方法は、「工事写真の撮り方(建築編、建築設備編)国土交通省大臣官房官庁営繕部監修」によるものとする。

工事前の現況写真及び工事後の完了写真については、工事着工前及び完了後の全景、代表部分及び現場周辺の現況を撮影すること。工程写真は、各工程における仮設、除染、解体、積込、運搬、処分状況等を撮影し、施工が適切に行われていることが証明できるものとする。工事進捗写真は、工事現場の見通しが良い場所に定点を設け、全景を週1回以上撮影しておくことを原則とする。

(4) 洗浄・解体工事の検査

洗浄・解体工事では、甲が指定した工程に達した時は必ず検査を受け、合格を得た後、次の工程に移るものとする。

特に、付着物除去作業の完了の確認、洗浄作業の検査確認に際しては、作業日報と作業場状況確認写真、付着物除去前後の写真、洗浄前後の写真を合わせて提出すること。なお、写真撮影は原則として甲の立会のもと行うものとする。

解体撤去する部分の工事が確実になされていることを、甲の立会のもとレベル等で確認する。

(5) 完了検査

完了検査は、工事完了後に実施する調査測定結果が得られた後に受けること。甲が手直し指示した事項は直ちに措置し、再度確認を受けること。なお、写真撮影は原則として甲の立会のもと行うものとする。

なお、工事完了後も書類、資料等に訂正・記載漏れ等の不備が発見され、または関係機関からの資料提出または内容変更等の要望があった場合には、速やかに対応することとする。

1.14 工事用の電力及び用水

(1) 工事用電力

本工事に必要な仮設電気工事及び電力使用料は乙の負担とする。

(2) 工事用水

本工事に必要な用水、水槽、配管等は乙にて、用意(費用負担共)するものとする。

1.15 契約不適合責任

本工事の不適合責任期間は、正式引渡しの日より2年間とする。

期間中に生じた設計、施工及び材質ならびに構造上の欠陥によるすべての破損及び不具合等は乙の負担にて速やかに補修、改造、または取替え等を行わなければならない。ただし、甲の過失及び天災等の不測の事故に起因するものはこの限りではない。

1.16 賠償責任保険等

乙は、本施設の施工に際しては、賠償責任保険、労働災害総合保険等、本工事を実施するにあたり必要な保険に加入し、その証書の写しを甲に提出する。

1.17 建設業退職金共済制度の適用

乙は、建設業退職金共済制度(以下、「建退共」という。)の対象となる労働者を雇用する場合は、「建退共」に加入し、「掛金収納書」を貼付した「建設業退職金共済証紙購入状況報告書(第1号様式)」を契約締結後1か月以内に提出すること。契約締結後1か月以内に掛金収納書を提出できない場合、または、対象となる労働者を雇用しない場合は、「建設業退職金共済証紙購入状況報告書未提出等理由書(第2号

様式)」を提出すること。

1.18 その他工事に関する留意点

(1) 平日、土曜、休日及び夜間における作業

本工事の作業は、平日(月～金)の午前8時半から午後5時までとし、土曜日・日曜日・祭日等の休日及び早朝(午前8時半以前)・夜間作業(午後5時以降)は原則として工事を行わないこと。なお、この場合、緊急作業、中断が困難な作業、交通処理上止むを得ない作業または騒音・振動を発する恐れのない作業であり、甲が認めた場合はこの限りではない。なお、土曜・休日及び上記の時間外に工事を行う必要がある場合は甲と協議すること。

また、状況によって甲の指示により、作業日時を変更する場合がある。

(2) 排出ガス対策型建設機械の使用

本工事において建設機械を使用する場合は、「排出ガス対策型建設機械指定要領(平成3年10月8日付建設省経機発第 249 号最終改正平成22年3月18日国総施環第 291 号)」に基づき指定された排出ガス対策型建設機械、またはこれと同等の排出ガス浄化装置を装着した建設機械を使用すること。

(3) 低騒音・低振動型建設機械

本工事の作業において建設機械を使用する際は、「低騒音・低振動型建設機械の指定に関する規定(平成9年建設省告示第 1536 号)最終改正平成13年4月9日国土交通省告示第 487 号)」に基づき指定された低騒音・低振動型建設機械を使用すること。

(4) 悪臭・粉じん・排気対策

悪臭については、悪臭防止法に基づく規制基準を遵守すること。

本工事に伴い発生する粉じん等については、作業場所を湿潤状態にすることや、換気設備を設けること等により周辺環境及び作業環境を保全すること。排気については、公害防止対策に示される基準値を遵守すること。

(5) 工事車両

工事車両の往来については、以下の対策等を実施すること。

- 1) 全ての工事関係車両は、甲と協議の上、決定した搬入ルートを通行するものとし、工事車両や大型車が通行する場合は、誘導員を適所に配置すること。
- 2) 通行に際しては、一般車両優先及び民家付近では徐行運転とすること。また、登下校時は学童等の安全確保に十分配慮すること。
- 3) 解体廃棄物等を搬出する車両は、原則として幌付き又は荷台をシートなどで覆うこと。
- 4) 城前橋手前の進入路には工事看板を設置し、大型車両の通行が増加する期間はその期間を掲示し、交通誘導員を配置すること。
- 5) 周辺地域における路上駐車や、近隣店舗等の駐車場における車両の待機等はしないよう、周辺地域に配慮した車両運行計画とすること。
- 6) 柳瀬川沿いの進入路は河川管理用道路(東京都建設局北多摩北部建設事務所所管)であり、清瀬市の管理下にあるため、工事前には受託者において清瀬市と協議・調整すること。

(6) 掲示板の設置

本工事の進捗状況を周辺住民等が適切に把握できるように、掲示板を設置して工事内容等を示し、工事の進捗にあわせて適宜更新すること。なお、設置場所については、甲との協議により決定すること。

(7) 仮設事務所等

乙の仮設事務所及び仮設トイレ等は、敷地内であれば甲の承諾を得て設置できる。また、甲及び施工監理委託業者用の現場立会に必要な防護服、呼吸用保護具、保護手袋、保護靴、安全带等も乙が提供すること。

(8) 地元説明会の支援

本工事の実施にあたり地元説明会を開催する。乙は説明会用の資料をパワーポイント等で作成して説明会に出席し、内容の説明を行うこと。また、甲が指示する部数の説明会用資料を作成すること。会場は周辺住民が集まりやすい場所を甲と協議の上、乙において確保、準備すること。

(9) 地元対応

本工事について、周辺住民等から説明を求められた場合は、甲と協議の上、説明及び記録の保存を行うこと。なお、周辺住民との接触や工事の実施を、甲に無断で行いトラブルが発生した場合、乙は甲が受ける損害はもとより、それらに係る損害額の全額を負担すること。

(10) ワンデーレスポンス

ワンデーレスポンスとは、周辺住民等からの質問、協議に対して甲が基本的に「その日のうちに」回答するよう対応することである。なお、即日回答が困難な場合には、いつまでに回答が可能かについても工事施工監理者と協議を行い、回答期限を設けるなど何らかの回答を「その日のうち」にすることを含んでいる。

乙は、周辺住民等からの質問、協議のうち本工事に関する事項について、甲が「その日のうち」に何らかの対応が可能な体制を整備するなど、必要な協力をしなければならない。なお、質問、協議の内容によりワンデーレスポンスの実施が困難な場合には甲と協議するものとする。

(11) 暴力団員等による不当介入を受けた場合の措置について

- 1) 暴力団員等による不当介入を受けた場合は、断固としてこれを拒否すること。また不当介入を受けた時点で速やかに警察に通報を行うとともに捜査上必要な協力を行うこと。乙が不当介入を受けたことを認知した場合も同様とする。
- 2) 1)により警察に通報または捜査上必要な協力を行った場合には、速やかにその内容を記載した書面により甲に報告すること。
- 3) 1)及び2)の行為を怠ったことが確認された場合には、指名停止等の措置を講じることがある。
- 4) 本工事において暴力団員等による不当介入を受けたことにより工程に遅れが生じる等の被害が生じた場合は、甲と協議を行うこと。

第2節 解体工事及び汚染土壌除去工事の一般事項

2.1 解体対象設備の事前調査結果

参考資料として、令和3年度に実施した有害物質調査結果を以下に示す。本結果は参考値であり、乙の判断において解体工事に必要と思われる設備の堆積物、付着物の調査分析及び作業環境測定を乙の負担で実施するものとし、詳細な位置については甲と協議すること。なお、その費用は乙が全て負担すること。

2.2 ダイオキシン類・重金属類調査及び分析結果

(1) 調査箇所と分析項目

「廃棄物焼却施設関連作業におけるダイオキシン類ばく露防止対策要綱」(平成13年4月25日基発第401号の2)第33(4)イ(イ)に示されているサンプリング調査の対象設備及び対象物に従い、また、本施設は稼働停止より年月が経過しており、経年劣化により設備や機器類の欠落や設備内部の確認が不可能な箇所があり、堆積物や付着物の採取が困難な設備や機器類があるため、表5の「本業務における分析対象」に示す採取可能かつ汚染のおそれの可能性が高い設備を分析対象とした。

分析項目は、表6に示す特別管理産業廃棄物の判定基準(廃棄物処理法施行規則第1条の2)の「燃え殻、ばいじん」で規定されている8項目とする。

表 5 本施設におけるサンプリング調査の対象設備の確認結果

ばく露防止対策要綱※1 に示されている対象設備		本施設における設備				本業務における分析対象	
		設備名称	採取試料	採取の可否		ダイオキシン類	重金属類
a 焼却炉本体	炉内焼却灰	焼却炉	堆積物	○	可能	○	○
	炉壁付着物		付着物	○	可能	○	—
b 廃熱ボイラー	—	熱交換器室	堆積物	△	内部未確認	○	—
	缶外付着物		付着物	△	内部未確認	—	—
c 煙突	—	煙突	堆積物	○	底部に雨水滞留	—	—
	煙突下部付着物		付着物	○	可能	○	—
d 煙道	—	煙道	堆積物	×	堆積物なし	—	—
	煙道内付着物		付着物	○	可能	○	—
e 除じん装置	装置内堆積物	排ガス集じん装置	堆積物	×	底部欠落につき採取不可	—	—
	装置内付着物	(マルチサイクロン)	付着物	○	おそらく可能	○	—
f 排煙冷却設備	—	ガス冷却室	堆積物	○	可能	○	○
	設備内付着物		付着物	○	可能	—	—
g 排水処理設備	—	排水溜	堆積物	×	排水溜確認困難	—	—
	設備内付着物		付着物	×	排水溜確認困難	—	—
h その他の設備	—	乾燥装置	堆積物	△	内部未確認	○	—
			付着物	△	内部未確認	—	—
	灰ピット (バルコンペアーピット)	堆積物	○	可能	○	○	
		付着物	○	おそらく可能	—	—	
	灰バンカ	堆積物	×	採取作業の安全性確保困難	—	—	
		付着物	×	採取作業の安全性確保困難	—	—	
	誘引通風機	堆積物	○	可能	—	—	
		付着物	○	おそらく可能	—	—	
EP灰排出コンベア	堆積物	△	内部未確認	○	○		
	付着物	△	内部未確認	—	—		

表 6 分析項目及び判定基準

項目	単位	燃え殻・ばいじん・鉱さいの 特別管理産業廃棄物の 判定基準
1 ダイオキシン類	(ng-TEQ/g)	3.0
2 アルキル水銀化合物 水銀又はその化合物	(mg/L)	ND (検出されないこと)
	(mg/L)	0.005
3 カドミウム又はその化合物	(mg/L)	0.09
4 鉛又はその化合物	(mg/L)	0.3
5 六価クロム化合物	(mg/L)	1.5
6 砒素又はその化合物	(mg/L)	0.3
7 セレン又はその化合物	(mg/L)	0.3
8 1,4-ジオキサン	(mg/L)	0.52

(2) 計量・分析方法

各項目の計量・分析方法を表7に示す。

表 7 ダイオキシン類・重金属類の計量・分析方法

項目	計量・分析方法
ダイオキシン類	平成4年厚生省告示第192号 特別管理一般廃棄物及び特別管理産業廃棄物に係る基準の検定方法
アルキル水銀	環境庁告示第59号付表3 ガスクロマトグラフ法
水銀又は その化合物	環境庁告示第59号付表2 還元気化原子吸光法
カドミウム又は その化合物	JIS K 0102 55.4 ICP 質量分析法
鉛又は その化合物	JIS K 0102 54.4 ICP 質量分析法
六価クロム化合物	JIS K 0102 65.2.1 ジフェニルカルバジド吸光光度法
砒素又は その化合物	JIS K 0102 61.4 ICP 質量分析法
セレン又は その化合物	JIS K 0102 67.4 ICP 質量分析法
1,4-ジオキサン	環告第59号(S46)付表8第3 ヘッドスペース GC/MS 法

(3) 分析結果

付着物及び堆積物の分析結果及び基準値との比較を表8に示す。

熱交換器の堆積物、排ガス集じん装置の付着物、ガス冷却室の堆積物のダイオキシン類が特別管理産業廃棄物判定基準を超過している。

重金属類については、全て基準値以下である。

表 8 分析結果(ダイオキシン類、重金属類)

物質名		ダイオキシン類	アルキル水銀	水銀又はその化合物	カドミウム又はその化合物	鉛又はその化合物	六価クロム化合物	砒素又はその化合物	セレン又はその化合物	1,4-ジオキサン
単位		ng-TEQ/g	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L	mg/L
	基準値	3	ND	0.005	0.09	0.3	1.5	0.3	0.3	0.5
1	焼却炉 堆積物	0.07	<0.0005	<0.0005	<0.001	0.001	<0.02	0.002	<0.001	<0.005
2	焼却炉 付着物	0.000013	-	-	-	-	-	-	-	-
3	熱交換器 堆積物	9.8	-	-	-	-	-	-	-	-
4	煙突 付着物	2.0	-	-	-	-	-	-	-	-
5	煙道 付着物	0.001	-	-	-	-	-	-	-	-
6	排ガス集じん装置 (マルチサイクロン) 付着物	4.6	-	-	-	-	-	-	-	-
7	ガス冷却室 堆積物	4.2	<0.0005	<0.0005	<0.001	0.001	<0.02	<0.001	0.006	<0.005
8	乾燥装置 堆積物	1.3	-	-	-	-	-	-	-	-
9	灰ピット 堆積物	1.2	<0.0005	<0.0005	<0.001	0.001	<0.02	<0.001	<0.001	<0.005
10	灰出しコンベヤ 堆積物	1.9	<0.0005	<0.0005	0.004	0.11	<0.02	0.01	<0.001	<0.005

※基準値を超過している項目を黄色で示す。

2.3 残留水水質

(1) 調査箇所と分析項目

本施設敷地内には、竣工時の図面等にはない排水枳があり、トタンの簡易蓋で覆われており、現在も水が溜まっている状態である。排水枍の位置を図 1 に、排水枍の様子を図 2 に示す。本工事においてはこの溜水も排水処理の対象となることから、水質の分析を実施した。

分析項目及び基準値、並びに分析結果を表9に示す。

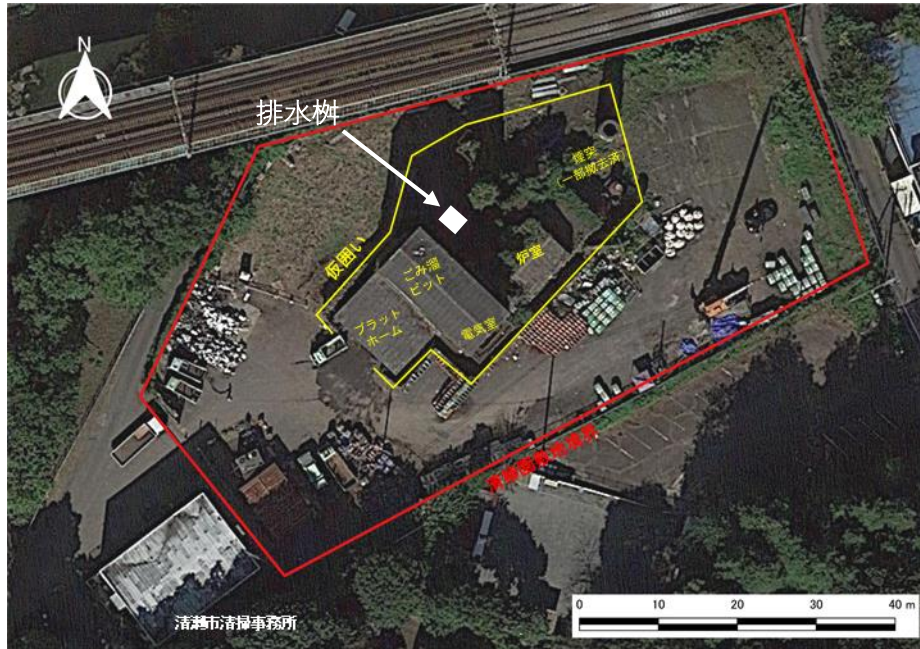


図 1 排水枍の位置

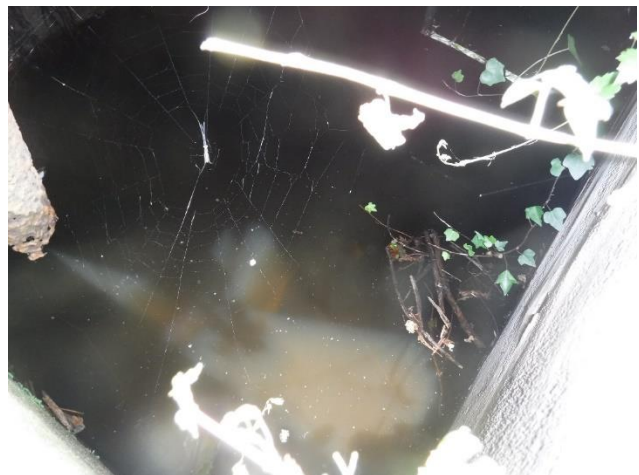


図 2 排水枍の様子(左:外観、右:トタン蓋を開けた状態の溜水)

表 9 排水柵残留水の水質分析項目

項目	単位	排水基準	排水柵溜水 分析値
DXNs	pg-TEQ/L	10	0.48
有害物質			
カドミウム及びその化合物	mg/L	0.03	<0.001
シアン化合物	mg/L	1	<0.1
有機燐化合物	mg/L	1	<0.1
鉛及びその化合物	mg/L	0.1	<0.001
六価クロム化合物	mg/L	0.5	<0.2
砒素及びその化合物	mg/L	0.1	<0.001
水銀及びアルキル水銀その他の水銀化合物	mg/L	0.005	<0.0005
アルキル水銀化合物	mg/L	ND	<0.0005
ポリ塩化ビフェニル	mg/L	0.003	<0.0005
トリクロロエチレン	mg/L	0.1	<0.002
テトラクロロエチレン	mg/L	0.1	<0.0005
ジクロロメタン	mg/L	0.2	<0.002
四塩化炭素	mg/L	0.02	<0.0005
1,2-ジクロロエタン	mg/L	0.04	<0.002
1,1-ジクロロエチレン	mg/L	1	<0.0005
シス-1,2-ジクロロエチレン	mg/L	0.4	<0.0004
1,1,1-トリクロロエタン	mg/L	3	<0.001
1,1,2-トリクロロエタン	mg/L	0.06	<0.0006
1,3-ジクロロプロペン	mg/L	0.02	<0.0002
チウラム	mg/L	0.06	<0.0006
シマジン	mg/L	0.03	<0.0003
チオベンカルブ	mg/L	0.2	<0.002
ベンゼン	mg/L	0.1	<0.001
セレン及びその化合物	mg/L	0.1	<0.001
ほう素及びその化合物	mg/L	10	0.02
ふっ素及びその化合物	mg/L	8	<0.08
1,4-ジオキサン	mg/L	0.5	<0.006
その他			
クロム含有量	mg/L	2	<0.03
銅含有量	mg/L	3	<0.01
亜鉛含有量	mg/L	2	<0.01
フェノール類含有量	mg/L	5	<0.01
溶解性鉄含有量	mg/L	10	0.26
溶解性マンガン含有量	mg/L	10	<0.01
生物化学的酸素要求量(BOD)	mg/L	160	2.3
浮遊物質(SS)	mg/L	200	4
ノルマルヘキサン抽出物質含有量(鉱油類含有量)	mg/L	5	<0.5
ノルマルヘキサン抽出物質含有量(動植物油脂類含有量)	mg/L	30	<0.5
窒素含有量	mg/L	120	1.7
燐含有量	mg/L	16	0.25
pH	mg/L	—	7.6
水温	mg/L	—	20.7
よう素消費量	mg/L	—	<5

(2)計量・分析方法

各項目の計量・分析方法を表10に示す

表 10 水質の計量・分析方法

項目	計量・分析方法
ダイオキシン類	JIS K 0312 (2020)
カドミウム及びその化合物	JIS K 0102 55 4JCP質量分析法
シアン化合物	JIS K 0102 38 1 2-38 5流れ分析法
有機燐化合物	環境庁告示第64号付表1ガスクロマトグラフ法
鉛及びその化合物	JIS K 0102 54 4ICP質量分析法
六価クロム化合物	JIS K 0102 65 2 1ジフェニルカルバジド吸光光度法
砒素及びその化合物	JIS K 0102 61 4ICP質量分析法
水銀及びアルキル水銀その他の水銀化合物	環境庁告示第59号付表2還元気化原子吸光法
アルキル水銀化合物	環境庁告示第59号付表3ガスクロマトグラフ法
ポリ塩化ビフェニル	環境庁告示第59号付表4ガスクロマトグラフ法
トリクロロエチレン	環告第59号 (S46) 付表8第3 ヘッドスペースGC/MS法
テトラクロロエチレン	環告第59号 (S46) 付表8第3 ヘッドスペースGC/MS法
ジクロロメタン	環告第59号 (S46) 付表8第3 ヘッドスペースGC/MS法
四塩化炭素	環告第59号 (S46) 付表8第3 ヘッドスペースGC/MS法
1,2-ジクロロエタン	環告第59号 (S46) 付表8第3 ヘッドスペースGC/MS法
1,1-ジクロロエチレン	環告第59号 (S46) 付表8第3 ヘッドスペースGC/MS法
シス-1,2-ジクロロエチレン	環告第59号 (S46) 付表8第3 ヘッドスペースGC/MS法
1,1,1-トリクロロエタン	環告第59号 (S46) 付表8第3 ヘッドスペースGC/MS法
1,1,2-トリクロロエタン	環告第59号 (S46) 付表8第3 ヘッドスペースGC/MS法
1,3-ジクロロプロペン	環告第59号 (S46) 付表8第3 ヘッドスペースGC/MS法
チウラム	環境庁告示第59号付表5固相抽出-HPLC法
シマジン	環境庁告示第59号付表6 1固相抽出-GC/MS法
チオベンカルブ	環境庁告示第59号付表6 1固相抽出-GC/MS法
ベンゼン	環告第59号 (S46) 付表8第3 ヘッドスペースGC/MS法
セレン及びその化合物	JIS K 0102 67.4 ICP質量分析法
ほう素及びその化合物	JIS K 0102 47.4 ICP質量分析法
ふっ素及びその化合物	JIS K 0102 34.4 流れ分析法
1,4-ジオキサン	環告第59号 (S46) 付表8第3ヘット'スへ`-ス-GC/MS法
クロム含有量	JIS K 0102 65.1.5 ICP質量分析法
銅含有量	JIS K 0102 52.5 ICP質量分析法
亜鉛含有量	JIS K 0102 53.4 ICP質量分析法
フェノール類含有量	JIS K 0102 28.1.3 流れ分析法
溶解性鉄含有量	JIS K 0102 57.4 準拠No5Cろ液-ICP質量分析法
溶解性マンガン含有量	JIS K 0102 56.5 No5Cろ液- ICP質量分析法
生物化学的酸素要求量 (BOD)	JIS K 0102 21 (20° C.5日間) 及び32 300 (隔膜電極法)
浮遊物質質量 (SS)	環境庁告示第59号付表9 懸濁物質1μmろ過-重量法
ノルマルヘキサン抽出物質含有量 (鉱油類含有量)	JIS K0102附属書1 II 1ヘキサン抽出-フロリジル精製-重量法
ノルマルヘキサン抽出物質含有量 (動植物油脂類含有量)	JIS K0102附属書1 II 2 ヘキサン抽出-フロリジルカラム-重量法
窒素含有量	JIS K 0102 45.6 流れ分析法
磷含有量	JIS K 0102 46.3.4 流れ分析法
pH	JIS K 0102 12.1 ガラス電極法
水温	JIS_K 0102 7.2 一般用ガラス製棒状温度計
よう素消費量	厚・建令第1号 (S37) 別表2 よう素滴定法

2.4 アスベストの調査及び分析結果

(1) 調査箇所

資料調査及び現地調査より、アスベストが含有されている可能性が高い箇所を抽出し、分析対象とした。試料採取箇所を表 11 に示す。

表 11 アスベストの試料採取箇所

No.	試料採取箇所		部位	製品
1	建築設備	外部	外壁	小波スレート
2		外部	屋根	大波スレート
3		2階 乾燥機室	壁	吹付塗材
4	プラント設備	焼却系	連絡ダクト	保温材
5			連絡ダクト	不定形耐火材 (キャストブル)
6		押込送風機	吐出側ダクト	ダクトパッキン

(2) 調査方法

アスベストの分析方法を表 12 に示す

表 12 アスベスト分析方法

項目	分析方法
アスベスト	実体顕微鏡・偏光顕微鏡による定性分析

(3) 調査結果

アスベスト含有調査結果を表 13 に示す。外壁、屋根、押込み送風機吐出側ダクトパッキンからクリソタイルが検出されている。

表 13 分析結果(アスベスト)

設備	場所		製品	分析結果
建築設備	外部	外壁	小波スレート	クリソタイル含有
	外部	屋根	大波スレート	クリソタイル含有
	2階乾燥機室	壁	吹付塗材	含有せず
プラント設備	焼却炉	連絡ダクト	保温材	含有せず
	焼却炉	連絡ダクト	キャストブル	含有せず
	押込送風機	吐出側ダクト	ダクトパッキン	クリソタイル含有

※アスベスト含有箇所を黄色で示す

2.5 PCB 使用機器の把握(受変電設備)

1 階電気室に残置されている油しゃ断器及び変圧器について、機器銘板を基にメーカーに問い合わせをした結果、微量 PCB 使用の可能性が否定できないこと、絶縁油の交換履歴が不明であることから、表 14 に示す機器について絶縁油中の PCB 含有の有無について分析を実施した。

分析結果は、全ての機器において定量下限値以下であった。

表 14 PCB 使用の有無を確認した機器及び含有量分析結果

No.	機器名称	形式	メーカー	仕様	設置室名称	PCB 含有量 (mg/kg)
1	油しゃ断器	BBG2-610	中立電機(株)	しゃ断容量:100MVA (電圧 7.2kV)	1階電気室	<0.15
2	変圧器	SOB 3YC	日立製作所	出力:100kVA 3相	1階電気室	<0.15
3	変圧器	内鉄 HE-CR	日立製作所	出力:10kVA 単相	1階電気室	<0.15
4	変圧器	ONAN OD	日本変圧器(株)	出力:125kVA 3相	1階電気室	<0.15

2.6 残留・残置物

施設内に薬品、油脂、貯留タンク残留物等が残留・残置している場合は全て引抜・撤去し、乙の負担で適切に処分すること。

2.7 土壌汚染に関する調査結果

対象地においては、令和3~4年度に実施した土壌汚染状況調査及び土壌汚染詳細調査において、「鉛及びその化合物」「ふっ素及びその化合物」について基準不適合が確認されている。以下に、基準不適合区画情報を表15に示し、基準不適合土壌の深さの範囲を表16に示す。

調査結果の詳細については添付資料を確認のこと。

表 15 基準不適合区画の情報

No.	基準不適合区画	水準高 ^{※1}	区画面積	水準高参照 調査地点
		T.P. (m)	(㎡)	
1	A2-4	23.56	63.62	A2-4-1
2	A2-7	23.54	100.00	A2-7-1
3	A2-8	23.12	121.74	A2-8
4	A3-1	23.36	100.00	A3-1
5	A3-2	23.25	100.00	A3-2
6	A3-3	23.13	78.50	A3-3
7	A3-7	22.96	81.60	A3-7
8	B1-7	23.71	33.57	B1-7
9	B2-1	23.66	100.00	B2-1
10	B2-2	23.63	83.92	B2-2
11	B2-4	23.61	100.00	B2-4-1
12	B2-5	23.50	100.00	B2-5-1
13	B2-6	23.66	120.97	B2-6
14	B2-8	23.56	100.00	B2-8
15	B2-9	23.56	100.00	B2-9-1
16	B3-1	23.64	100.00	B3-1-1
17	C2-3	23.65	99.75	C2-3
18	C2-6	23.50	100.00	C2-6-1
19	C2-7	23.63	100.00	C2-7
20	C3-1	23.54	94.60	C3-1
21	C3-3	23.59	100.00	C3-3
22	D3-3	23.46	56.21	D3-3
基準不適合区画面積 ^{※2}			2034.48 ㎡	

表 16 基準不適合土壌の深さの範囲

No	区画名称	基準不適合項目	基準不適合 区分	基準不適合土壌の深さ		層厚 (m)
				T.P.	(m)	
1	A2-4	鉛	含有量	23.56	~ 22.39	1.17
2	A2-7	ふっ素	溶出量	23.54	~ 21.54	2.00
		鉛	含有量	23.54	~ 21.54	2.00
3	A2-8	鉛	含有量	23.12	~ 21.52	1.60
4	A3-1	鉛	含有量	23.36	~ 22.41	0.95
5	A3-2	鉛	含有量	23.25	~ 20.65	2.60
6	A3-3	鉛	含有量	23.13	~ 21.18	1.95
7	A3-7	鉛	含有量	22.96	~ 19.96	3.00
8	B1-7	鉛	含有量	23.71	~ 22.61	1.10
9	B2-1	鉛	含有量	23.66	~ 22.51	1.15
10	B2-2	鉛	含有量	23.63	~ 22.53	1.10
11	B2-4	鉛	含有量	23.61	~ 22.61	1.00
12	B2-5	鉛	含有量	23.50	~ 22.50	1.00
13	B2-6	鉛	含有量	23.66	~ 22.66	1.00
14	B2-8	鉛	含有量	23.56	~ 22.56	1.00
15	B2-9	鉛	含有量	23.56	~ 22.56	1.00
16	B3-1	鉛	含有量	23.64	~ 21.84	1.80
17	C2-3	鉛	含有量	23.65	~ 22.95	0.70
18	C2-6	鉛	含有量	23.50	~ 21.50	2.00
19	C2-7	鉛	含有量	23.63	~ 22.23	1.40
20	C3-1	鉛	含有量	23.54	~ 20.54	3.00
21	C3-3	鉛	含有量	23.59	~ 21.59	2.00
22	D3-3	鉛	含有量	23.46	~ 20.46	3.00

※廃棄物混じり土、廃棄物層も含んで基準不適合土壌の深さを判定。

第3節 安全衛生管理体制

解体作業に従事する作業者の安全を確保するため、「廃棄物焼却施設内作業におけるダイオキシン類ばく露防止対策要綱」及び「廃棄物処理施設解体作業マニュアル」に準拠した安全衛生管理体制を整備し、甲の承諾を得ること。

3.1 統括安全衛生責任者及び安全衛生管理者の選任

- (1) 統括安全衛生責任者及び安全衛生管理者は、乙自らが責任をもって選任すること。
- (2) 統括安全衛生責任者及び安全衛生管理者は、安全衛生協議会の設置、防災計画の立案並びに実施、用具及び使用機器の保守点検、作業間調整、パトロール、教育・指導等を行い、工事の安全衛生が確保されるようにすること。

3.2 作業指揮者の選任

- (1) 保護具等の使用、粉じんの飛散防止措置等について知識、経験を有する者を常時解体本作業現場に配置し、作業の指揮にあたらせること。
- (2) 作業従事者の保護具着用状況及びダイオキシン類を含むものの飛散源の湿潤化の確認を行わせること。
- (3) 作業中常時作業場所内の作業の指揮・監督及び作業場所の管理を行うこと。このため、交代制で作業を行う場合、作業指揮者の不在に備え、複数名を作業指揮者として選定させ、作業指揮者が不在となることがないようにすること。
- (4) 作業指揮者には、化学物質について知識を有する者であることを示す資料(資格証明書、職履歴)を甲に提示し、承諾を得ること。
- (5) 「石綿障害予防規則」に従い、作業主任者を選任し作業指導、保護具の使用状況を監視させること。

3.3 解体作業主任者の選定

コンクリート構造物の解体作業においては、コンクリート造の工作物の解体等作業主任者を選定し、甲の承諾を得ること。

3.4 特別教育

- (1) 作業従事者には、安全衛生規則 592 号の7及び特別教育規定に定められるところにより、作業開始前に作業者に対してダイオキシン類の危険性、当該施設の汚染度、保護具の適切な使用方法及び作業方法についての特別教育を行い、その特殊性を把握させ周知徹底を図ること。
- (2) 各工程により作業従事者が新たに加わる場合は、その作業者に対しても、その都度特別教育を行うこと。
- (3) 「石綿障害予防規則」に従い、特別教育を実施すること。

3.5 健康管理

- (1) 乙は、作業従事者に対し、労働安全衛生法に基づく一般健康診断を実施すること。全作業員の健康診断が終了していることを示す記録を甲に提示すること。

- (2)ダイオキシン類へのばく露による健康不安を訴える労働者に対して、産業医等の意見を踏まえ、必要があると認められる場合には、職業上の措置を適切に行うこと。
- (3)除染作業中及び解体作業中にばく露の可能性が生じた場合は、当該作業員に医師による診断若しくは処置を受けさせること。また、この場合には当該作業員の血中ダイオキシン濃度を測定し、その結果を30年間保存すること。
- (4)「職場における熱中症予防対策マニュアル」(令和3年4月 厚生労働省)に基づき、作業場所の温度、湿度や作業内容によって適切な休憩時間の設定や休憩場所の設置等、熱中症予防対策には十分配慮した作業計画とすること。

3.6 感染症等に関する対策

乙は、「建設業における新型コロナウイルス感染予防対策ガイドライン」(令和5年3月改訂版)に示された「感染防止のための基本的な考え方」と「講じるべき具体的な対策」等を踏まえ、現場の様態等を考慮した創意工夫を図りながら、新型コロナウイルス等の感染症の感染予防に取り組むよう努めていくこと。

3.7 就業上の配慮

乙は、女性労働者について女性労働基準規則に基づき就業上の配慮をすること。ただし、就業可能な作業環境であるにもかかわらずそこで仕事をさせないことはあってはならない。

3.8 休憩場所での留意事項

作業従事者の作業衣服に付着した焼却灰等により、休憩所が汚染されないように配慮すること。休憩所の床は、電気掃除機等により毎日1回以上の清掃を行うこと。

東京都受動喫煙防止条例により屋内では全面禁煙とし、屋外においても原則禁煙とする。

3.9 保護具

(1) 保護具の選定

保護具は、甲が行ったダイオキシン類等調査結果及び乙が行うダイオキシン類等調査結果を踏まえ、労働安全衛生規則第 592 号 5 に定める方法により選定すること。

但し、汚染物のサンプリング等調査にあたっては、レベル3の保護具を着用すること。

(2) 保護具の管理

1) 労働者に対する脱着訓練の実施

労働者に対して、作業開始前に呼吸用保護具のフィットテストの方法、緊急時の対処方法、呼吸用保護具の正しい着脱方法、着脱手順について訓練を行うことにより修得させること。

2) 保護具の着用

保護具は適切な方法・手順で着用すること。労働者に保護具の着用状況の相互確認を行わせること。

(3) 保護具の取り外し

1) 作業後の保護具は汚染除去設備(セキュリティールーム)で焼却灰等を取り除いた後に取り外すこと。

2) エアシャワー使用時は、粉じん等の飛散によるばく露を防止するように、保護具は着用したままとすること。

- 3) 保護具の着脱はセキュリティールームで焼却灰等を除去した後に、別途設けた更衣室で行うこと。
- 4) 取り外された保護具は、更衣所等から汚染された状態で持ち出さないこと。
- 5) 汚染された保護具は、作業着等と隔離して保管し、かつ洗浄機により速やかに除染を行うこと。

(4)その他

- 1) 保護具の日常点検を適切に行うこと。
- 2) 使い捨て保護具の再使用は行わないこと。
- 3) 保護具、治具、工具の維持管理を適切に行うこと。
- 4) プレッシュダイヤモンド型エアラインマスクには、清浄な空気を供給すること。
- 5) 「石綿障害予防規則」に従い、保護具等を使用し、作業者の安全に万全を期すこと。

3.10 その他

- (1) クレーン作業時等の合図、標識等の統一を図り、ダイオキシン類対策工事以外においても、安全衛生の確保を行うこと。
- (2) 使用する工具、機器等は予め検査を行い、的確に作動、運転が行えることを確認し、使用中の日常点検も常に行い、的確に保守点検整備を行うこと。
- (3) 各種工事の施工に際し、資格者が必要とされる場合は、適切な有資格者を配置して作業に当たらせること。

第4節 施工体制及び施工手順

4.1 施工体制

(1) 現場代理人

乙は、本工事の現場代理人を定め、その氏名、連絡先、経歴等を書面により甲に通知すること。現場代理人を変更する際も同様とする。なお、現場代理人は工事期間中現場に常駐し、各工事の指揮連絡、現場管理及び保全について責任を持って行うこと。また、現場代理人は工事工程表、工事日報、工事写真、労務者点検簿等を備えて毎日記載するとともに、甲が必要と認めたとときには遅滞なく提出または閲覧に供すること。

(2) 主任技術者及び監理技術者

配置する主任技術者は、本工事と同種のごみ焼却施設解体工事の管理実績を有するものでなければならない。なお、下請契約の予定額が 4,500 万円以上となる場合は、主任技術者に代えて前記の工事管理実績を有する監理技術者を配置すること。

主任技術者または監理技術者は、現場代理人を兼務できるものとする。

(3) 施工体制台帳及び施工体系図

乙は、下請負者の商号または名称、当該下請負者に係る建設工事の内容及び工期その他の国土交通省令で定める事項を記載した施工体制台帳を作成し、備え置き、甲が必要と認めたとときには、遅滞なく閲覧に供すること。

下請負者がその請け負った工事を他の下請負者に請け負わせたときには、乙に対して同様の施工体制台帳を提出し、乙はその施工台帳を保管し、甲が必要と認めたとときには、遅滞なく提出または閲覧に供すること。

乙は、本工事における各下請負人の施工の分担関係を表示した施工体系図を作成し、これを工事現場の見易い場所に設置すること。

(4) 施工計画書・工程表

乙は、工事着手に先立ち施工計画書(総合・工種別)及び工程表を作成し、甲の承諾を得ること。

(5) 現場管理

乙は、労働基準法等関係法令に従って現場を管理し、整理整頓の励行、火災、盗難等の事故防止に努めること。工事施工場所への一般人及び労務者の出入監視や風紀・公衆衛生の取締りを行うこと。

資材置場、資材搬入路、仮設事務所等については、原則として工事範囲内に設置すること。施工場所までの搬入は乙の負担で行うこと。

(6) 技術管理

乙は、工種毎に円滑な工事進捗に十分必要な人員数の労務者を計画的に配置し、秩序正しい作業を行わせること。熟練を要する工種、危険物及びダイオキシン類等の知識を要する工種等の施工にあたっては、相当の経験並びに知識を要する者を配置すること。

(7) 工程管理

乙は、工事着手前に全体工程表、工事实施中には月間及び週間工程表を提出し甲の承諾を受ける共に、工程の完全な遂行を図ること。実施工程に変更が生じた場合には、変更後の実施工程表を提出し、甲の承諾を得ること。災害その他の事情により工事が遅延したときは、その理由を甲に報告し、工程計画の見直しを速やかに行うと共に進捗の回復に努めること。

(8) 地元への配慮

工事着手に際し、周辺住民への説明会を開催する。その際には説明会用の資料の作成及び説明会への出席、内容の説明等について協力すること。また、周辺住民からの意見や苦情等については、甲に報告、指示を仰いだ上で誠意を持って話し合いにより解決に努めること。

なお、工事により発生したと思われる近隣への損傷については、乙の負担で速やかに原形に復旧させること。

(9) 作業日及び作業時間

本工事の作業は、平日(月～金)の午前8時半から午後5時までとし、土曜日・日曜日・祭日等の休日及び早朝(午前8時半以前)・夜間作業(午後5時以降)は原則として工事を行わないこと。なお、この場合、緊急作業、中断が困難な作業、交通処理上止むを得ない作業または騒音・振動を発生する恐れのない作業であり、甲が認めた場合はこの限りではない。なお、土曜・休日及び上記の時間外に工事を行う必要がある場合は甲と協議すること。

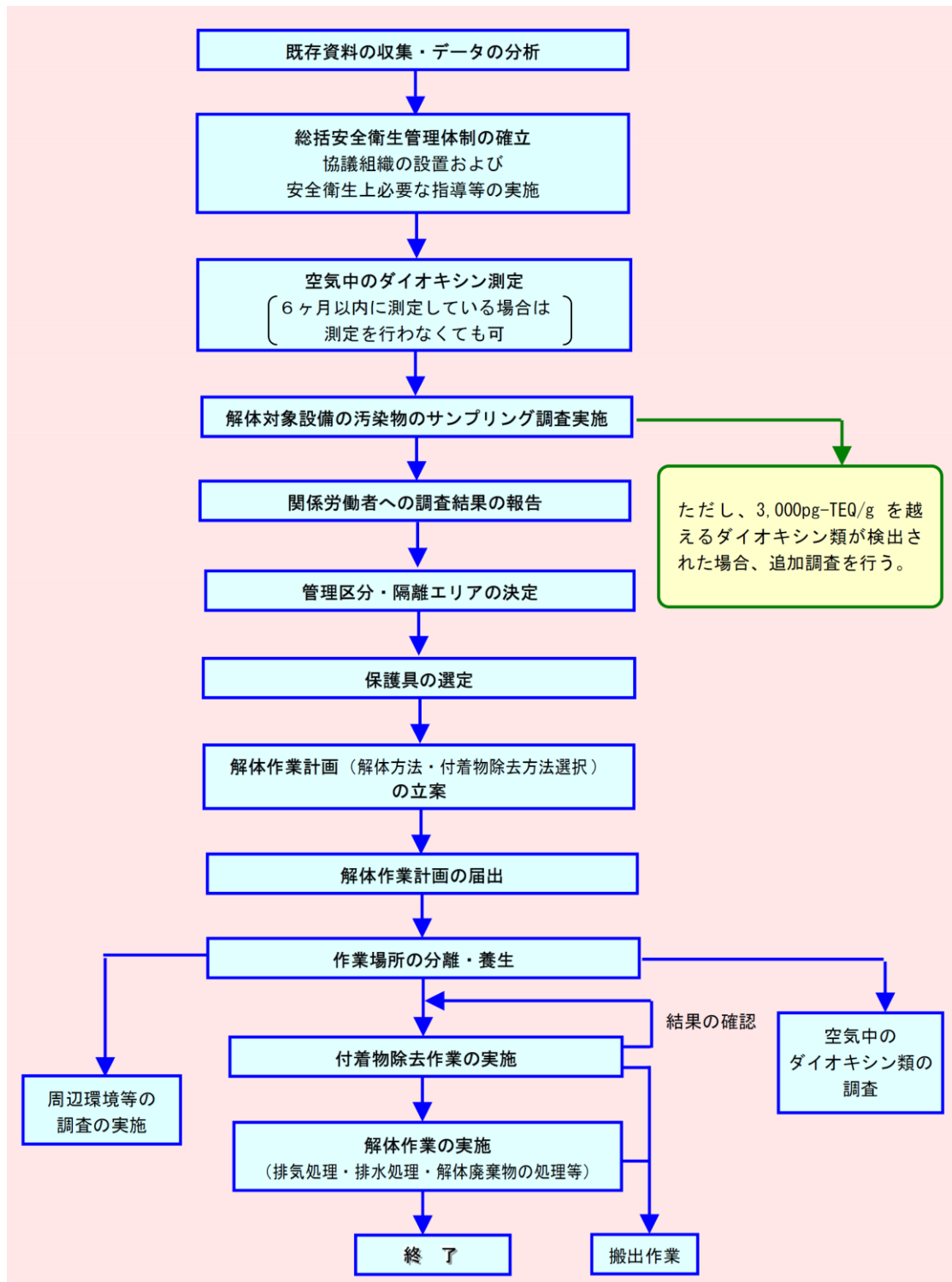
また、状況によって甲の指示により、作業日時を変更する場合がある。

4.2 施工手順

「廃棄物焼却施設内作業ダイオキシン類ばく露防止対策要綱」(以下、「ばく露防止対策要綱」という。)はダイオキシン類対策特別措置法の別表第1第5号に掲げる廃棄物焼却炉を有する焼却施設の焼却炉等の運転、点検等作業及び解体作業に従事する労働者のダイオキシン類ばく露の未然防止について改正労働安全衛生規則で規定された事項を踏まえ、乙が講ずべき基本的な措置が示されている。

本施設の解体工事はこの「ばく露防止対策要綱」に従い、適切な作業方法を盛り込んだ施工計画書を作成し、所轄の労働基準監督署への届け出、且つ指導の基に解体作業を行うこと。解体工事は、事前調査結果に基づいて解体作業に従事する作業者の安全確保、汚染物の飛散防止・流出による周辺環境への汚染防止及び廃棄物の適切な処理の作業計画を立案し、安全教育、汚染物除去、解体作業を実施する。

主な解体工事手順を図3に示す。



廃棄物焼却炉の解体工事の進め方(環境省大臣官房 廃棄物・リサイクル対策部 廃棄物対策課)

図 3 解体工事フロー

4.3 工事記録写真

工事着手前に工事前写真、施工中に工程写真及び工事進捗写真、工事完了後に工事完了後写真を撮影し、甲に提出すること。それぞれの写真撮影の箇所、枚数、整理等については、甲の指示に従うこと。

なお、撮影にあたっては、国土交通大臣官房長官官繕部監修「工事写真の撮り方・建築編」を参考とすること。

(1) 工事前現況写真及び完了写真

工事前現況写真及び工事完了後写真は、できる限り同じ位置から、現場全景、代表部近景及び現場周辺を撮影し、工事前後で対比できるようにすること。また、工事前現況写真は、主要機械設備等についても撮影を行うこと。

(2) 工程写真及び進捗状況写真

工程写真は、各工程における施工進捗状況、出来高等を撮影し、特に工事完了後に確認が困難となる箇所については、施工が適切であることを証明すること。

4.4 交通安全

工事関係車両は甲が指定したルートを通行し、交通安全に努めること。
一般道の道路の使用にあたっては、一般車両等の通行を優先とし、作業車、運搬車等は十分に交通安全に留意すること。

また、必要に応じて工事予告看板等を設置し、進入退出路に誘導員を配置して交通整理にあたること。

4.5 工事監理

(1) 乙は、甲が別途委託する工事監理者が行う工事監理に必要な書類等の提出を行うとともに、甲に対する工事施工の事前・事後説明及び工事施工状況の説明を行うこと。

(2) 工事監理者は、工事監理上必要な調査・検査及び試験を乙に求めることができる。

4.6 工事報告

現場代理人は、工程会議において工事進捗状況、出来高及び工事予定等について打ち合わせ・協議を行った後、議事録を提出すること。また、月間の工事進捗状況及び出来高等を報告書としてまとめ、工事日報、工事写真と共に甲に提出すること。

4.7 検査

(1) 施工検査(段階確認)

除染、煙突の撤去等主要な工程を終了した場合、必ず段階確認検査を受験し、合格承諾を得た後、次工程に移ること。

なお、段階確認の時期については解体撤去工事計画書にて明確にすること。また、施工後に検査が不可能または困難な工事は、その施工にあたり甲の立会、承諾を得ること。

(2) 工事完了時・支払いを伴う検査時の提出書類

乙は、工事完了時、支払いを伴う検査時において、以下の書類を提出すること。また、詳細は甲と協議して決定すること。

1) 完工届

2) 実施(出来高)工程表

- 3) 中間検査願(出来高)及び完了検査願
- 4) 履行部分内訳書(出来高検査時)
- 5) 請求書
- 6) その他必要な書類

4.8 性能の確保

「第2章第1節 1.8 性能の確保」を参考に、以下の内容の性能を確保すること。

(1) 保証事項

1) 責任施工

本工事の保証事項は、全て乙の責任により執り行うこと。また、乙は、本仕様書及び図面等に明示されていない事項であっても、工事の性質上当然必要なものは甲の指示に従い、全て乙の負担で行うこと。

2) 性能保証事項

- ① 「廃棄物焼却施設内作業におけるダイオキシン類ばく露防止対策要綱」並びに関係法令、規則、諸通達を順守し、安全かつ適正な解体工事を乙の負担で実施すること。
- ② 公害防止基準を順守すること。
- ③ 搬出する廃棄物及び有価物は、廃棄物処理法、建設リサイクル法等各種法令を順守すること。
- ④ その他本仕様書に明記されている事項

4.9 解体工事計画

- (1) 事前調査の結果を踏まえ、管理区域、保護具のレベル決定、除染、解体工法を決定し、廃棄物の処分方法の決定を行い、施工計画を立案すること。第2章第6節以降に示す仕様に基づき、解体工事計画書を提出し甲の承諾を得ること。
- (2) 管理区域、保護具のレベル決定の根拠を明らかにした書面を提出すること。
- (3) 「第2章 1.7届出・手続き」にあるように工事の14日前までに必要な書類を提出する必要があるため、工事開始1ヶ月前までに工事施工計画書を作成し、甲と協議すること。
 - 1) 作業を行う場所の周囲の状況及び四隣との関係を示す図面
 - 2) 解体等をしようとする焼却施設等の概要を示す図面
 - 3) (平面図、立面図、焼却炉本体、煙道設備、排ガス処理設備、燃焼ガス冷却設備、排水処理設備等の概要を示すもの。)
 - 4) 工事用の機械、設備、建設物等の配置を示す図面
 - 5) 工法の概要を示す書面または図面
 - 6) 労働災害を防止するための方法及び設備の概要を示す書面及び図面
 - ① ダイオキシン類ばく露を防止するための方法及び設備の概要を示す書面及び図面(除去処理工法、作業の概要、除去後の汚染物管理計画、使用する保護具及びその保護具を決定した根拠等)
 - ② 統括安全衛生管理体制を示す書面
 - ③ 特別教育等の労働衛生教育の実施計画

- ④解体作業対象施設における事前の空气中ダイオキシン類濃度測定結果
 - ⑤解体作業対象施設における事前の汚染物サンプリング調査結果
 - ⑥解体作業中の空气中ダイオキシン類濃度測定計画
- (4)届出に合わせ、関係諸官庁との事前協議を適時行い、届出の受理を円滑に行うこと。
- (5)事前調査等によりレベル1, 2のアスベスト含有材が発見された場合は、「石綿障害予防規則」に従い、作業計画を作成し、工事開始の14日前までに所轄労働基準監督署長に届出を行った上で、作業に着手すること。

第5節 仮設計画

5.1 仮設構造物

(1) 基本的事項

解体対象建屋及び各設備の足場組立及びシート養生については、下記の事項を遵守すること。

- 1) 乙は、解体撤去工事に伴う粉じん等の飛散を防止するため、工事施工区域の適正な範囲（敷地境界付近）に進入防止及び飛散防止等の目的で仮囲い等を設置すること。
- 2) 屋外煙道ダクト部及び煙突部の周辺の土間養生を行い、除染作業時における洗浄排水流出による土壌汚染防止対策を実施すること。本場所以外においても設備除染作業の際、土壌汚染の可能性のある場所は、同様な対策を講じること。
- 3) 汚染物除去作業の実施に当たっては対策要綱に「当該付着物除去作業の際には、作業場所を仮設構造物(天井・壁等)又はビニールシート等により他の作業場所と隔離すること。」と規定されていることから、洗浄作業による灰、付着物の飛散、拡散を防ぐため、設備の密閉養生を行うこと。

(2) 作業場所の分離・養生

1) 建屋

- ① 焼却施設における作業場所の分離・養生は、建屋にて行うものとし、除染作業等に伴うダイオキシン類等の汚染物の飛散防止を万全に行うため、窓、ドア、ガラリ、シャッター等の開口部や隙間はガムテープ、プラスチックシート、発泡ウレタン等で養生すること。
- ② 焼却施設の解体に伴う粉じんの飛散防止と騒音・振動の低減のため、建屋廻りに枠組み足場と防音シート等を張り巡らして、周辺との分離・養生を行う。この場合、枠組み足場と防音シート等の設置期間は設備機器等の除染作業の開始から、解体完了までとする。
- ③ 汚染物や解体廃棄物の搬出車両や重機の出入口については、前室を設けて区画内部を負圧にし、開口部分を二重膜構造にするなどして汚染物の流出がないようにすること。

2) 煙突

- ① 煙突は頂部まで周囲を枠組み足場で組んだ上で防音シート等を設置し、外部と分離・養生すること。
- ② 煙突外筒の開口部は、ガムテープ、プラスチックシート等で養生すること。
- ③ 除染時及び解体時に頂部から洗浄水や粉じんが飛散しないように、開口部全体に覆いを掛けるなどの対応を行うこと。
- ④ 煙突下部には、建屋と同様の仕様の前室を設けること。

3) 機械設備

ダイオキシン類に汚染されている機械設備は、密閉した建屋または密閉養生したシート内で除染作業を行うことにより、外部への汚染物の飛散を防止すること。

5.2 土間養生

機械設備や煙突の洗浄などで発生した汚水等については、地下に浸透しないよう必要な措置を構ずること。なお、具体的な仕様については下記を基本とすること。

(1) 措置の方法

- 1) 焼却施設の煙突周辺は、ビニール敷き込みの上、土間コンクリートと防液堤の組み合わせにより養生する。
- 2) 焼却施設と建屋内部については、床面にクラックあるいは壁面に隙間等があればこれを補修する。
- 3) 出入口部分については、防液堤を設置する。

(2) 措置を行う範囲

土間養生は以下の設備廻りに計画する。

- 1) 煙突・煙道廻り
- 2) 灰積出場の出入り口
- 3) 炉室の出入り口
- 4) 誘引送風機室の出入り口
- 5) その他必要な箇所(建屋内において床面等にクラックが認められる場所など)

5.3 排気処理装置

汚染物の除染作業等、ダイオキシン類等の汚染物の飛散が想定される作業において換気を行う場合は、作業を行う区画ごとに排気の処理方法を定め、HEPA フィルタやチャコールフィルタ等を装着した排気処理設備で適切に処理を行い、排出基準を遵守した上で排出すること。なお、換気回数は4回/時間以上とし、定期的に排気風量や差圧の記録を行い、所定の能力が維持されていることを確認するとともに、適宜報告すること。排気処理装置の基本的な仕様を以下に示す。なお、本設備は除染の結果、第2あるいは第3管理区域が第1管理区域となったことが確認されるまでの間、設置するものとする。

5.4 セキュリティー設備

作業に使用した保護具は、下記に示す仕様を満足する汚染物除去設備(エアシャワー等)を設けて汚染物の拡散を防止するとともに、作業員の安全と健康管理のための休憩室・靴拭きマット、保護具脱着室等を設置すること。

- (1) 形式 エアシャワー
- (2) 数量 1基以上
- (3) 能力 集じん効率 **99.9%**以上(**0.3 μ m**)
- (4) その他 靴底洗浄機、使用済み洗浄水貯水槽
※粉じんはエアシャワー設備の集塵機で除去し、靴洗浄水・洗面水などの排水は排水処理設備に移送・処理することにより、排気または排水による周辺の汚染を防止すること。

5.5 洗車設備

廃棄物運搬車に廃棄物を積載して場外搬出する際に、車体やタイヤに付着した粉じん等を洗浄するための洗車設備を設けること。
洗車スペースは、使用する運搬車の車種をもとに十分な広さを確保するものとし、洗車排水は、仮設にて設置する排水処理装置に移送して処理すること。

第6節 汚染物の除去作業

解体作業実施前に設備内部のダイオキシン類を含んだ付着物の除去を十分に行うものとし、除去作業にあたっては、対策要綱第3の3の(7)に従うこと。

汚染物の拡散防止のためプラント開口部または建屋等の養生密閉化を行い、養生された内部を負圧に保ち汚染物が外部へ飛散するのを防ぐ十分な対策を取ること。また、洗浄作業においては、発生する汚染水等で周辺の土壌を汚染することのないよう十分な対策を行うこと。

特に、屋外の煙突、煙道部は、洗浄水等の流出による土壌への汚染防止のためコンクリートの土間打ち及び防液堤等の土壌汚染防止対策を施すこと。

6.1 除染方法

汚染物除去方法は高圧洗浄方式によるものとし、汚染物除去に用いた水の回収処理方法及び除染対象設備等は以下のとおりとする。

- (1) 汚染物除去方法 [高圧洗浄方式]
- (2) 汚染物除去に用いた水の回収方法及び処理方法
 - 回収方法 [※業者提案とする]
 - 処理方法 [※業者提案とする]
- (3) 除染対象設備及び施工手順を表17に示す。

表 17 除染対象設備及び施工手順

除染対象設備	施工手順
プラント設備機器全般 ※設備機器を除染した後、建屋内部（ごみピット排水貯留槽等の水槽を含む）の洗浄も行う。	<ol style="list-style-type: none"> ① 屋内の設備の配置を勘案し、合理的かつ安全な施工手順を計画して除染する ② 高所はローリングタワーや仮設足場を用いて確実に洗浄する
内部が汚染刺されている恐れのあるパイプ等の内部付着物	<ol style="list-style-type: none"> ① パイプ等の対象物への清缶剤の充填 ② 一定時間静置後、抜き取り ③ 水洗い等による清缶剤の除去
付着物の除去が著しく困難な部分	<ol style="list-style-type: none"> ① 手工具による取り外しまたはせん断による切断 ② 取り外し後、部品の養生・移動 ③ 必要に応じて付着物の除去 ④ 汚染度合いに応じた分類・処理 <p>※ 繊維状物質、プラスチック製断熱材等については表面の浮遊状物質を取り除いたうえで、そのものを汚染物として扱う</p>

6.2 汚染物の保管と搬出方法

本工事で発生する汚泥、灰等の回収容器はドラム缶密閉容器等の漏れの無い容器を使用し、場外搬出するまで後述する保管場所に保管すること。

(1) 回収容器

- 1) 汚泥、灰、汚水等はドラム缶もしくは吸引車のタンクを基本とする。
- 2) 耐火レンガ等はフレキシブルコンテナバックを基本とする。

(2) 保管場所

- 1) 保管場所は密閉養生とし、原則として管理区域に隣接させて設けること。
- 2) 保管場所の土間はビニールシート+コンクリート+防液堤の仕様とする。

(3) 搬出方法

- 1) 汚染物のうち、ドラム缶等密閉容器に入れた汚泥や灰、フレキシブルコンテナバックに入れた耐火レンガについては、トラックに積載後シートで覆うことにより搬出し、輸送中の飛散防止に十分に配慮する。
- 2) 吸引車のタンク内で保管していた汚染物は、そのまま吸引車で搬出する。
- 3) 汚染物を積載した車両は、場内に設けた洗車設備にて車体及びタイヤ等を洗車した後に場外へ出ること。

6.3 汚水処理方法

汚染物除去作業で発生した汚水を循環利用する場合は、ダイオキシン類及び重金属類が排水基準を満足するよう適切な水処理を行うこと。なお、排水処理設備を屋外に設置する場合は、土間コンクリート及び防液堤を施工した内部に設置すること。

(1) 排水・汚泥処理方式

- 1) 排水／洗浄排水を凝集沈殿処理または濃縮処理して処理水と汚泥に分離し、処理水はろ過や活性炭処理を施した後再利用する。
- 2) 汚泥／回収した汚泥は前処理を適切に行った後、場外搬出処分とする。なお、場内における汚泥の乾燥は禁止する。

(2) 計画水量

- 1) 処理設備は、発生する汚染水を適正に処理できる能力で計画する。

(3) 処分方法

- 1) 除染作業終了時に最終的に残った洗浄排水は、全量回収後場外搬出処分とする。
- 2) 汚泥はダイオキシン類及び重金属含有量等の分析を行って性状等を確認した後、関係法令に従い適切に処理処分する。

(4) 汚染物除去後の確認方法

汚染物除去結果の確認は以下の手順を基本とする。

- 1) 汚染物除去前の材料表面の確認(目視、要写真記録)
- 2) 汚染物除去後の材料表面の確認(目視、要写真記録)
- 3) ドリル等による汚染物除去後表面の部分はずり
- 4) はずり後の内部と汚染物除去後の材料表面の比較(要写真記録)
- 5) 汚染物除去記録の作成
- 6) (確認年月日、対象設備及び箇所、汚染除去確認状況の評価及び確認箇所の写真、汚染物除去対象設備の図面等)
- 7) 統括安全衛生責任者等による確認
- 8) 公定法によるダイオキシン類の分析(必要箇所)
- 9) 煙突の内筒及び外筒の内面については、全長に渡り除染前・除染後の動画撮影も行う。
なお、撮影した動画は、撮影した映像と煙突高さの関係が分かるように編集し、甲が指定するメディアにて提出すること

多孔質材料(煉瓦、ライニング材等)の汚染物除去には限界があることから、上記の確認結果等により汚染除去が困難であると判断された場合には、対象物全体をダイオキシン類で汚染された廃棄物として取り扱うこと。

6.4 保護具の選定

除染作業及び解体作業中の保護具は、対策要綱第 **3.1.(6)**に従い選定するものとするが、除染作業はレベル 3 の保護具で実施すること。

第7節 解体撤去等工事

7.1 仮設計画

解体工事に伴う粉じんの拡散をできるだけ防止するため、工事に際しては散水を行うとともに、建屋及び煙突周りの枠組み足場と防音シートを組み合わせた仮設構造物等を有効に活用すること。

7.2 建屋解体撤去工事

(1) 焼却施設工場棟

地上建屋、地下構造物、地下ピット、配管(埋設配管含む)、基礎を含む全てを撤去とする。また、施設内に残置されている機材、機材棚、各種部品、予備品・工具、各種薬品ポリタンク、塗料缶、事務用品(机、椅子、書棚等)、什器等は全て撤去する。ごみピットは現状は安全のため土で埋めている状態であるため、埋め土を含めて撤去すること。埋め土の分析結果は添付資料4を参照のこと。

また、撤去にあたり近接する施設の業務に影響を及ぼすことのないように留意すること。

(2) 焼却施設煙突

煙突は約13m以下の部分が残置されており、残置部分は基礎を含め全撤去とする。解体工法は、安全かつ騒音・振動の出来るだけ少ない工法とする。

(3) 建築付帯設備

本工事に伴い不要となる給排水設備(各種配管を含む)・電気設備(電線・電線管を含む)を撤去すること。

7.3 プラント解体撤去工事

(1) 機械設備

本工事において解体撤去する機械設備は、図面に示される設備機器ほか、これに付帯する機器及び配管、工場棟に設置されている機器設備全てとする。なお、各設備にはダスト等が残存している部分もある。

(2) 電気計装設備

本工事において解体撤去する電気計装設備は、図面等に示される主要電気設備盤のほか、これに付帯する電線・ケーブル、電線管及び計装設備、構内第1柱から受変電室までの高圧ケーブル並びにその引込に係る設備機器等の全てとし、管路内の電線・ケーブルは可能な限り引き抜くものとする。なお、変圧器、安定器等のPCB混入の可能性は乙において調査し混入の可能性が無いことを確認しているが、解体工事前にメーカーへの調査及び絶縁油等のPCB分析を行い、PCB濃度が0.5mg/Lを超える機器が確認された場合は、必要な措置を施した後、甲が指定する場所に移送すること。

7.4 汚染土壌除去工事

土工量の確認は、原則として前測、後測によるものとするが、これにより難しい場合は甲との協議によりその方法を決定する。特に、汚染土壌の撤去範囲については、その範囲及び深度について検測を行い、確認立会い、記録を行うものとする。

汚染土壌を掘削する過程で周辺区画における非汚染土壌との分別が困難な範囲においては、汚染土壌と同一レベルにある周辺区画の非汚染土壌は汚染土壌として扱うことも可とするが、最小限の数量とする。非汚染土壌の掘削範囲の最小限の数量等については、事前に甲

との協議による。

1 日の掘削量は、処分先の受入条件(例えば、受入時間)との兼ね合いで無理のない計画とすること。汚染土壌は、内袋付のフレコンバッグに封入し専用運搬車に積み込むものとする。

ふっ素及びその化合物の土壌溶出量基準不適合範囲図を図4に示す。

また、鉛及びその化合物の土壌溶出量基準不適合範囲図を図5に示す。

ふっ素及びその化合物 土壌溶出量基準不適合 最深度

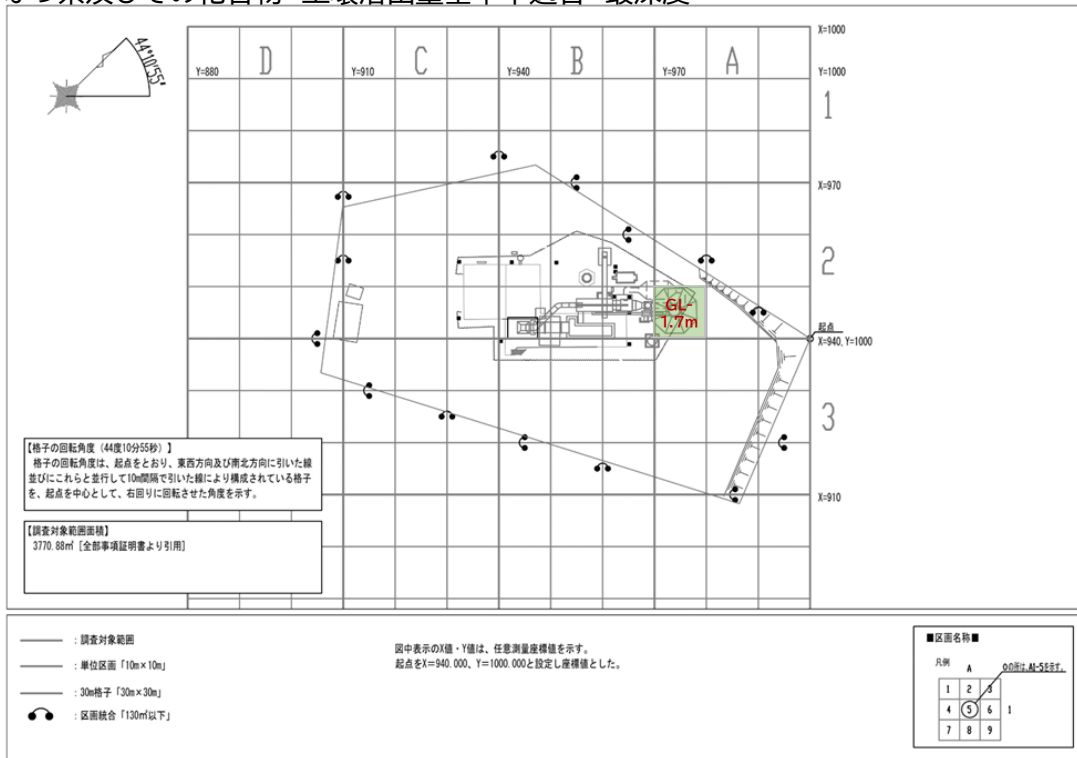


図 4 ふっ素及びその化合物の土壌溶出量基準不適合 最深度

鉛及びその化合物 土壌含有量基準不適合 最深度

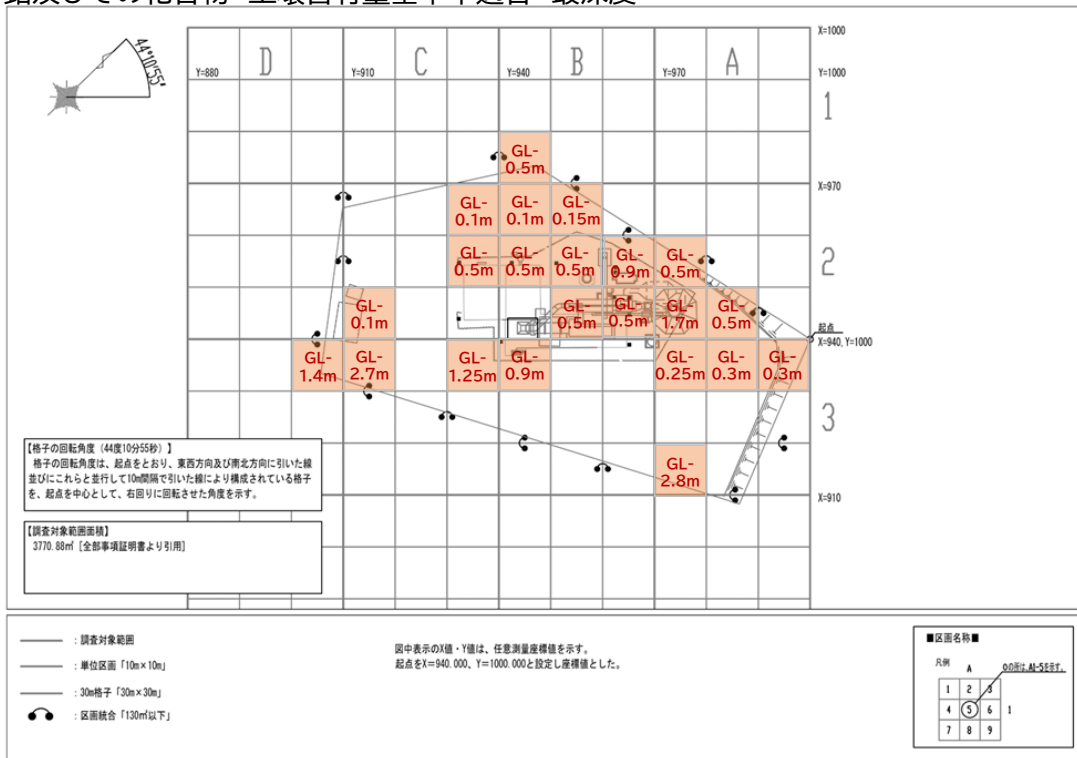


図 5 鉛及びその化合物の土壌溶出量基準不適合 最深度

7.5 基礎杭を含む地下構造物の撤去

本施設の基礎杭は、建設当時の図面及び数量等の情報がないため不明であるが、建設時の工事写真より35本程度と推定される。

区域指定内の基礎杭の引抜き撤去は原則、汚染土壌を全て撤去し甲による立会検査が行われた後に実施するものとする。なお、基準不適合土壌及びダイオキシン類含有土壌をすべて除去した後は、土壌汚染対策法に基づく調査及び措置に関するガイドラインの Appendix-12「土壌溶出量基準に適合しない汚染状態にある要措置区域等内の帯水層に接する場合における土地の形質の変更の施行方法の基準」に従う必要はないものとする。

また、地下ピットを含む地下工作物についてもすべて撤去するとともに、地下水の流入を防ぐための対策措置を十分に行うこと。

工事後であっても地下工作物が残置されていた場合、乙の責任の下で撤去するものとする。

7.6 解体跡地整備工事

解体工事、汚染土壌除去工事後の整地の仕上がりレベルは現状のレベルとする。

埋戻し土は場内発生土(異物(コンクリート屑、廃プラスチック類等)を篩い等によって分別した土を「分別土」を含む)及び土壌汚染やダイオキシン類汚染が無いことを分析確認した良質土を使用し解体ガラ等は使用しない。埋戻し土についてはあらかじめ表 18に示される試験を行いその結果及び産地等を甲に報告すること。また、埋戻しには傾斜部を除き、リサイクルガラス造粒砂の使用も可とする。

各層 300mm 程度の厚さごとに振動ローラー等で十分転圧を行い、埋戻し材の転圧は、沈下が発生しないよう入念に行うものとする。

表層最上部の仕上がりは碎石敷きで、転圧厚み 100mm とする。表面は、雨水排水がすみやかに行われるよう、雨水勾配をとること。

また、再生碎石を路盤材(表層最上部)に使用する、リサイクルガラス造粒砂等を路床材に使用する、などにより跡地に雑草が生えにくいように工夫すること。なお、使用する材料や仕上りの状態については、甲と協議の上、決定するものとするが、材料については再生碎石やリサイクルガラス造粒砂以外の材料の提案を制限するものではない。

※良質土の品質基準

良質土とは、土壌改良を行わなくとも、そのまま埋戻しに使用可能なもので、次の規定に適合したものをいう。

- (1)十分に締固めができる含水比の状態であること。
- (2)木片、金属類、布、プラスチック、ごみ、その他産業廃棄物等の異物及びコンクリート塊、アスファルト塊等を含まないもの。
- (3)表 18に示される品質管理基準を満足するもの。

表 18 良質土の品質管理基準とその試験方法

試験項目	基準値	試験方法	試験数量
土質区分	砂又は砂質土、礫質土	視照合	同一土質について3検体以上とする
最大粒径	40 mm以下	土の粒度試験	
75 μ mmふるい通過量百分率	25%以下		
設計 CBR	6%以上	CBR 試験	

第8節 汚染物及び解体廃棄物の処理処分方法

8.1 掘削土壌について

本施設敷地においては、土壌汚染状況調査の際に埋設廃棄物(燃え殻等)が図6の通り、最大深度 **2.6m** まで確認されているが、土壌混じりであり分離は困難な状況である。深度 **3m** までの埋設廃棄物の土壌への混入率は、土壌汚染状況調査におけるボーリング調査の結果から表19のとおり**21%**程度と推定され、その他の土壌が約8割を占め埋設廃棄物との分離が困難なため土壌とみなし、土壌汚染対策法上の汚染土壌とあわせて必要な分析を行った上で適切に処分するものとする。また、埋設廃棄物及び汚染土壌以外の部分でコンクリート屑や廃プラスチック類が混入していることがボーリング調査により判明しており、深度とその混入物の内容は表20に示す通りである。これらは可能な限り混入物を取り除き分別した上で「分別土」として、利用目的に応じた土質材料としての品質基準を満たしていること、周辺環境への影響を及ぼさないことを確認した上で、埋戻し土等として有効利用するものとする。

埋設廃棄物が確認された範囲 最深度

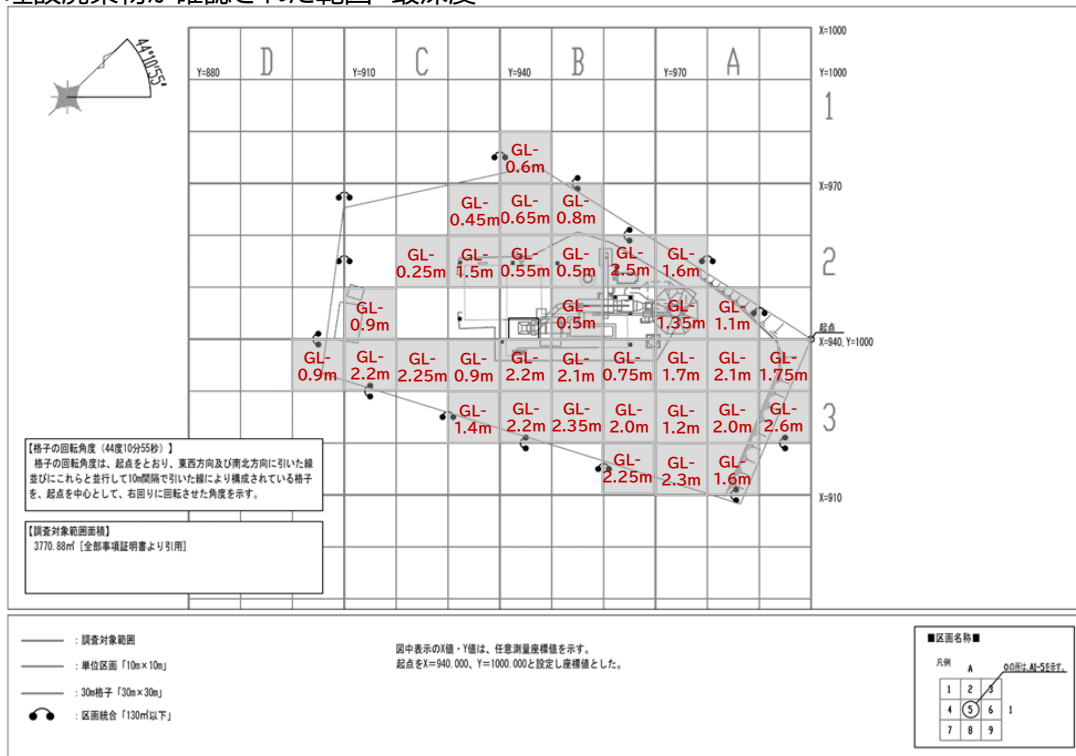


図 6 埋設廃棄物が確認された範囲と最深度

表 19 埋設廃棄物確認深度とその割合

地点名称	R3調査結果				R4調査結果				埋設廃棄物 平均厚さ (m)	深度3mまでの土壌中の 埋設廃棄物の推定割合 %	
	GL-(m)	厚さ	GL-(m)	厚さ	GL-(m)	厚さ	GL-(m)	厚さ			
A2-4	-1								0.72	24%	
	-2	0.4 ~ 0.9	0.5			0.3 ~ 1.6	1.3				
	-3					0.1 ~ 0.45	0.35				
A2-7	-1					0.35 ~ 1.2	0.85		0.33	11%	
	-3	0.25 ~ 0.3	0.05	1.2 ~ 1.35	0.15	0.05 ~ 0.3	0.25				
A2-8		0.6 ~ 1.1	0.5			0.6 ~ 1.05	0.45		0.48	16%	
A3-1		0.25 ~ 0.45	0.2	1.2 ~ 1.7	0.5	0.1 ~ 0.45	0.35	1.1 ~ 1.7	0.6	0.41	14%
A3-2		0.3 ~ 0.5	0.2			0.05 ~ 0.5	0.45	2.05 ~ 2.1	0.05	0.23	8%
A3-3		0.3 ~ 1.45	1.15			0.4 ~ 1.75	1.35			1.25	42%
A3-4		0.35 ~ 0.7	0.35			0.3 ~ 1.2	0.9			0.63	21%
A3-5		0.6 ~ 1.45	0.85			0.85 ~ 2	1.15			1.00	33%
A3-6						1.4 ~ 2.6	1.2			1.20	40%
A3-7		0.5 ~ 1.7	1.2			0.8 ~ 2.3	1.5			1.35	45%
A3-8		0.5 ~ 1.3	0.8			0.4 ~ 1.6	1.2			1.00	33%
B1-7						0.2 ~ 0.6	0.4			0.40	13%
B2-1		0.1 ~ 0.65	0.55			0.1 ~ 0.55	0.45			0.50	17%
B2-2		0.15 ~ 0.6	0.45			0.2 ~ 0.8	0.6			0.53	18%
B2-4	-1									0.25	8%
	-2	0.2 ~ 0.4	0.2			0.25 ~ 0.55	0.3				
B2-5	-1					0.1 ~ 0.25	0.15			0.25	8%
	-2	0.15 ~ 0.35	0.2			0.1 ~ 0.5	0.4				
B2-6	-1	0.3 ~ 0.5	0.2							0.65	22%
	-2	0 ~ 1.4	1.4	2.25 ~ 2.3	0.05	0.1 ~ 1	0.9	2.4 ~ 2.5	0.1		
B2-7	-3										0%
B2-8	-1									0.20	7%
	-2					0.3 ~ 0.5	0.2				
B2-9	-1										0%
	-3										
B3-1	-1									1.25	42%
	-2	0.55 ~ 2	1.45			0.8 ~ 2.2	1.4				
	-3					0.4 ~ 1.3	0.9				
B3-2	-2	0.7 ~ 2	1.3			0.55 ~ 2.1	1.55			1.43	48%
B3-3	-3					0.2 ~ 0.75	0.55			0.55	18%
B3-4		0.7 ~ 2	1.3			0.55 ~ 2.2	1.65			1.48	49%
B3-5		0.55 ~ 2	1.45			0.4 ~ 2.35	1.95			1.70	57%
B3-6		0.4 ~ 1.8	1.4			0.4 ~ 2	1.6			1.50	50%
B3-9		0.35 ~ 2	1.65			0.6 ~ 2.25	1.65			1.65	55%
C2-1											0%
C2-2											0%
C2-3		0.1 ~ 0.2	0.1			0.2 ~ 0.45	0.25			0.18	6%
C2-4											0%
C2-5		0.1 ~ 0.25	0.15			0.1 ~ 0.25	0.15			0.15	5%
C2-6	-1					0.6 ~ 1.05	0.45			0.47	16%
	-2	0.4 ~ 0.8	0.4	1.3 ~ 1.5	0.2	0.05 ~ 0.6	0.55				
C2-7		0.1 ~ 0.5	0.4			0.1 ~ 0.9	0.8			0.60	20%
C2-8											0%
C2-9											0%
C3-1						0.55 ~ 2.2	1.65			1.65	55%
C3-2		0.15 ~ 0.5	0.35			0.25 ~ 0.55	0.3	1.4 ~ 2.25	0.85	0.50	17%
C3-3		0.4 ~ 0.9	0.5			0.4 ~ 0.75	0.35			0.43	14%
C3-6						1 ~ 1.4	0.4			0.40	13%
D3-3		0.15 ~ 0.5	0.35			0.1 ~ 0.9	0.8			0.58	19%
										平均	21%

表 20 混入物が確認された最深度及びその内容物

区画番号	混入物内容	その他混入物
		最深度(m)
A 2 - 4	鉄筋、コンクリート層	1.7
A 2 - 7	赤レンガ層、コンクリート層、木屑	3.2
A 2 - 8		
A 3 - 1		
A 3 - 2		
A 3 - 3	繊維屑	2.8
A 3 - 4	廃プラスチック類	2.7
A 3 - 5		
A 3 - 6		
A 3 - 7		
A 3 - 8		
B 1 - 7		
B 2 - 1	コンクリート層、金属屑	3.6
B 2 - 2	金属屑	2
B 2 - 4	廃プラスチック類、ビニール片、廃プラスチック類、ガラス屑、木屑	7.7
B 2 - 5	ガラス屑、金属くず、木屑	3.23
B 2 - 6	廃プラスチック類、繊維屑	3.7
B 2 - 7	木屑	5.8
B 2 - 8	コンクリート層、がれき類、コンクリート層	8.7
B 2 - 9	廃プラスチック類、コンクリート層、金属屑、木屑、がれき類	3.6
B 3 - 1	廃プラスチック類、木屑	2.8
B 3 - 2	コンクリート層	3.25
B 3 - 3		
B 3 - 4		
B 3 - 5		
B 3 - 6		
B 3 - 9		
C 2 - 1	廃プラスチック類、アスファルト層	3.4
C 2 - 2	廃プラスチック類、繊維屑	3.1
C 2 - 3		
C 2 - 4		
C 2 - 5	植物屑	3.95
C 2 - 6	廃プラスチック類、陶器屑、ガラス屑	4.9
C 2 - 7		
C 2 - 8	木根	2.8
C 2 - 9	植物屑	2.4
C 3 - 1	陶磁器屑、廃プラスチック類、ガラス屑	4.05
C 3 - 2	廃プラスチック類、ガラス屑、金属屑	3.2
C 3 - 3		
C 3 - 6	廃プラスチック類	3.1
D 3 - 3	廃プラスチック類、ガラス屑、コンクリート層	3.9
	合計深さ(m)	89.58
	合計土壌量(m³)	8958

8.2 汚染土壌の運搬

汚染土壌の運搬にあたっては、運搬ガイドラインによるものとする。

汚染土壌の運搬方法は、汚染土壌運搬車両表示をし、養生シートカバーを施した汚染土砂用トラックを使用して運搬するものとする。なお、搬入先の自治体への事前届が必要な場合については乙にて作成すること。また、現地に保管している過去の土壌汚染調査にて発生した土壌（ボーリング調査の土壌、発生地下水）についてもあわせて処分すること。

搬出する汚染土壌の運搬又は処分を委託する場合は、汚染土壌の引渡しと同時に運搬用車両ごとに管理票を交付し、管理票の写しを甲へ提出するものとする。

また、過積載にならないよう本工事で設置した簡易重量測定器での測定を行うものとする。

8.3 汚染土壌の処分

汚染土壌の処理処分方法等については、土対法第 22 条及び処理業省令により適切に行うこと。処理後は、管理票の写しを甲へ提出するものとする。

8.4 汚染物等の処分方法

(1) 解体廃棄物の種類

本工事で発生した廃棄物及び汚染物は廃棄物処理法に従い分別し、搬出処分すること。解体廃棄物はマニフェスト管理を行うことを基本とし、種類、数量、搬出先、処理先を網羅した報告書等を作成すること。

- 1) 灰・汚染物
- 2) コンクリートがら
- 3) 耐火物(キャストブル、レンガなど)
- 4) 廃鉄材(鉄筋・鉄骨・プラント架台など)
- 5) 機械・電気設備類
- 6) 施設内残留物(重油、廃液、廃油、塗料、汚水など)
- 7) アスベスト含有建材
- 8) 廃木材
- 9) 排水(処理水・沈殿物)
- 10) 作業使用後の防護服、保護具等
- 11) 過去の土壌汚染調査において発生した土壌(コア箱70程度)
- 12) 過去の土壌汚染調査において発生した地下水(ドラム缶19、ポリタンク10)
- 13) その他解体廃棄物

(2) 関係書類の作成

乙は施工計画書に、以下の関係書類のうち、必要となるものを作成すること。

- 1) 再生資源利用計画書
- 2) 金属くず等の搬出計画書
- 3) 廃棄物等保管、搬出、処分計画書
- 4) 建設廃棄物処理計画書
- 5) 収集運搬・処理業者の許可証の写し
(中間処理後に最終処分又は工場等での再資源化を行う場合は、中間処理後の収集運搬業者、最終処分業者及び工場等の施設の許可証の写しも含めること。)
- 6) 廃棄物処理委託契約書の写し
- 7) 運搬ルート図(運搬ルートは事前に甲と協議の上決定すること)
- 8) 使用するマニフェストの様式

8.5 建設副産物の処理

(1) 発生材の運搬・処理

乙は「資源の有効な利用の促進に関する法律」、「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」、「建設副産物適正処理推進要綱(平成14年5月改正)」、「廃棄物の処理及び清掃に関する法律(昭和45年法律第 137 号)」、「建設廃棄物処理指針(平成11年厚生省)」等に基づき、建設副産物の発生量抑制、再利用、適正処理に努めるものとし、下記の項目を遵守すること。

- 1) 解体撤去に伴い発生したコンクリートがら等は、飛散防止処置を行った上、全て場外搬出

すること。

- 2) 運搬及び処分は、許可業者による建設系廃棄物マニフェストにて管理すること。
- 3) 廃材搬出時及び受入場所等の写真を撮影し、**甲**へ提出すること。
- 4) 発生材運搬時の運搬ルートへ粉じん等飛散しないような処置を講じて運搬すること。

(2) 建設廃棄物の取り扱い

本工事により発生した建設廃棄物を搬出する場合は、再資源化施設に搬出し、資源リサイクルの促進に努めるものとし、搬出先は乙が「建設副産物情報交換システム」等を利用し、受入条件、再資源化の方法等を確認して適切な資源化施設を選定すること。なお、搬出に先立って、搬出先、再資源化の方法等をリサイクル計画として取りまとめ、施工計画書に含めて提出し、**甲**の承諾を受けること。その際には「建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律」第 10 条の内容に適合していることを確認すること。

8.6 マニフェスト等の提示

(1) マニフェスト

乙は「廃棄物の処理及び清掃に関する法律(昭和45年法律第 137 号)」に基づき、産業廃棄物管理表(以下「マニフェスト」という。)を利用し、適正な運搬・処理を行う。マニフェストのうち、乙(排出事業者)が保管するものについて、ファイルに整理し、施工中において常時、**甲**の求めにより提示、閲覧できるようにすること。なお、電子マニフェストを利用する場合は、(財)産業廃棄物処理振興センターから通知された結果を、乙(排出事業者)がプリントアウトしたものの写しを提示すること。

(2) 集計表

乙は、マニフェストの枚数、産業廃棄物の数量、運搬日等を記録した集計表を作成し、**甲**に提示すること。

(3) リサイクル伝票

乙は、建設廃棄物を搬出する場合において、マニフェストを交付する必要のない品目(再生利用認定制度や個別指定制度等を再利用する建設泥土など)については「リサイクル伝票」(写し)を**甲**に提示すること。その様式については、乙が定めるもの、運搬業者が定めるもの、再資源化業者が定めるものなどによること。

第9節 調査測定

9.1 調査測定

解体撤去作業の着手前、作業中及び作業完了時において下記の測定を行うこと。調査箇所及び頻度は表 21 に示される数量を基本として行い、調査測定数量及び項目を上回る調査測定が必要となった場合においても、乙の責任と負担により実施すること。なお、測定・分析は、分析項目毎に必要な資格等を有する専門の計量機関(第三者機関)に依頼すること。

表 21 調査測定の項目及び数量

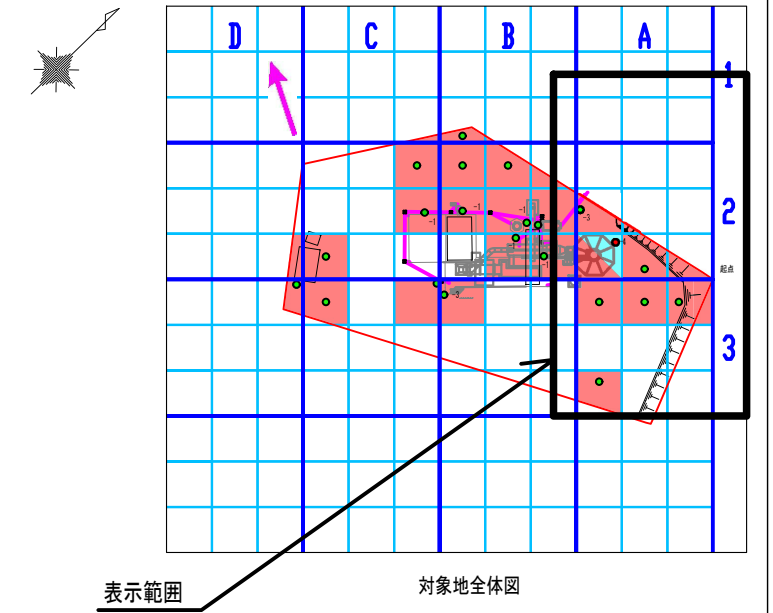
時期	項目	数量・場所
工事着工前	周辺土壌中の DXN(標準土)	1検体
	大気中 DXN	3箇所(旧ごみ焼却施設の東西南)×1回
	騒音・振動	2箇所(敷地境界(東・南))×1回
	空气中 DXNs(作業環境測定)	管理区域毎×1回(密閉養生後)
	DXNs の追加的サンプリング調査(3ng-TEQ/g を超過した箇所)	3カ所 ・熱交換器 ・排ガス集じん装置(マルチサイクロン) ・ガス冷却室
	重金属類の追加的サンプリング調査(基準値を超過した箇所)	なし
	地下水観測	現存の観測井4か所以外に必要であれば請負業者において設置すること。設置位置は発注者と協議するものとする。なお、設置深さは原則として測定対象となる帯水層の底部までとする。
工事中	周辺土壌中の DXN(標準土)	3 箇所(旧ごみ焼却施設の東西南)×2 回(除染作業中・解体作業中)
	大気中 DXN	3 箇所(旧ごみ焼却施設の東西南)×2 回(除染作業中・解体作業中)
	騒音・振動	2 箇所(敷地境界(東・南))×1回(解体作業中)
	排気装置の排気中 DXNs 及び粉じん(※排気風量の測定を含む)	排気装置設置基数分×1回(除染作業中)
	粉じん測定(デジタル粉じん計)【密閉養生期間中】	管理区域毎(毎日) 測定箇所:管理区域内・外、対照点
	差圧測定(※排気風量の測定を含む)【密閉養生期間中】	管理区域毎(毎日) 測定箇所:管理区域内
	空气中 DXN(作業環境測定)	管理区域毎×1回(除染作業完了後)
	除染後の設備の DXNs(3ng-TEQ/g を超過した箇所)	8カ所
	除染後の設備の重金属類(基準値を超過した箇所)	1箇所
	汚染物・解体廃棄物の DXNs 及び重金属類	種類毎に必要な応じて調査
	洗浄排水及び汚泥の DXNs 及び重金属類	種類毎に必要な応じて調査
	地下水観測	現存の観測井4か所以外に必要であれば請負業者において設置すること。設置位置は発注者と協議するものとする。なお、設置深さは原則として測定対象となる帯水層の底部までとする。
工事完了後	周辺土壌中の DXNs(標準土)	3 箇所(旧ごみ焼却施設の東西南)×1回
	大気中 DXNs	3 箇所(旧ごみ焼却施設の東西南)×1回
	地下水観測	現存の観測井4か所以外に必要であれば請負業者において設置すること。設置位置は発注者と協議するものとする。なお、設置深さは原則として測定対象となる帯水層の底部までとする。

分類	第二種特定有害物質		備考	
	調査対象物質	調査深度		鉛含有量
試料採取区画	深度	TP	mg/kg	
A2-4	表層 (0~0.5m)	23.56~23.06m	600	(A2-4-1の代替) ^{※1} A2-4-3から引用
	廃棄物層直下 ^{※2} (0.45~0.95m)	22.89~22.39m	16	
	1.0m ^{※3}	22.56m	- ^{※4}	
	2.0m	21.56m	7	
	3.0m	20.56m	5	
	4.0m	19.56m	1	
	5.0m	18.56m	6	
	6.0m	17.56m	6	
	7.0m	16.56m	4	
	8.0m	15.56m	3	
	9.0m	14.56m	2	
10.0m	13.56m	2		
基準値			150	-

※1 A2-4-1地点にて埋設既存構造物により掘削支障を来したため地点を変更。
 ※2 試料名称中深度 (0.45~0.95m) は、A2-4-3地盤高からを示す。
 ※3 深度方向における土壌調査の深度は、A2-4-1地盤高 (TP+23.56m) を基準面とした。
 ※4 深度1.0m (TP+22.56m) は、廃棄物層直下 (TP+22.89~22.39m) にて評価済みのため分析を実施していない。

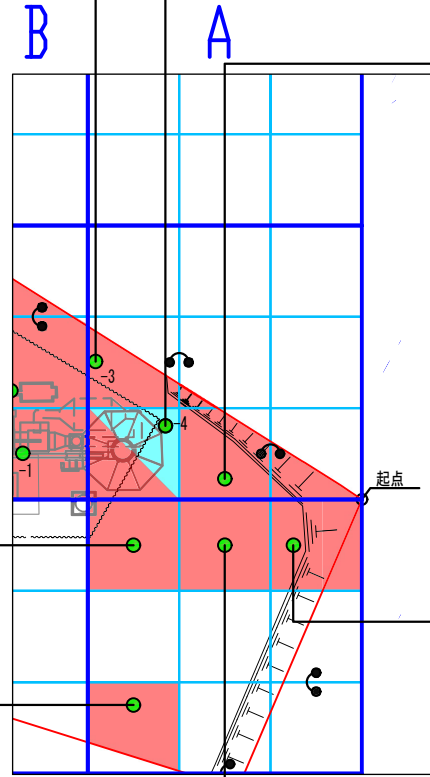
分類	第二種特定有害物質		備考			
	調査対象物質	調査深度	ふっ素溶出量	鉛含有量		
試料採取区画	深度	TP	mg/L	mg/kg		
A2-7	表層 (0~0.5m)	23.54~23.04m	0.20	200	(A2-7-1の代替) ^{※1} A2-7-4から引用	
	1.0m ^{※2}	22.54m	廃棄物層	廃棄物層		
	廃棄物層直下 ^{※3} (1.2~1.7m)	22.12~21.62m	0.96	210		
	2.0m	21.54m	0.28	12		
	3.0m	20.54m	0.23	13		
	4.0m	19.54m	0.10	1		
	5.0m	18.54m	0.16	2		
	6.0m	17.54m	<0.08	5		
	7.0m	16.54m	<0.08	3		
	8.0m	15.54m	0.09	<1		
	9.0m	14.54m	0.11	2		
	10.0m	13.54m	<0.08	<1		
	地下水			<0.08		-
	煙突下 (2.0~2.5m)	21.57~21.07m	0.19	2		A2-7-2から引用
廃棄物層直下① (0.3~0.8m)	22.97~22.47m	0.21	3	A2-7-3から引用		
廃棄物層直下② (1.35~1.85m)	21.92~21.42m	0.12	13			
基準値			0.8	150	-	
第二溶出量基準			24	-	-	

※1 A2-7-1地点にて埋設既存構造物により掘削支障を来したため地点を変更。
 ※2 深度方向における土壌調査の深度は、A2-7-1地盤高 (TP+23.54m) を基準面とした。
 ※3 試料名称中深度 (1.2~1.7m) は、A2-7-4地盤高からを示す。



分類	第二種特定有害物質		備考	
	調査対象物質	調査深度		鉛含有量
試料採取区画	深度	TP	mg/kg	
A3-1	表層 (0~0.25m)	23.36~23.11m	550	-
	廃棄物層直下 (0.45~0.95m)	22.91~22.41m	33	
	1.0m	22.36m	4	
	廃棄物層直下② (1.7~2.2m)	21.66~21.16m	10	
	2.0m	21.36m	- ^{※1}	
	3.0m	20.36m	4	
	4.0m	19.36m	4	
	5.0m	18.36m	2	
	6.0m	17.36m	3	
	7.0m	16.36m	3	
	8.0m	15.36m	3	
9.0m	14.36m	2		
10.0m	13.36m	2		
基準値			150	-

※1 深度2.0m (TP+21.36m) は、廃棄物層直下② (TP+21.66~21.16m) にて評価済みのため分析を実施していない。



分類	第二種特定有害物質		備考	
	調査対象物質	調査深度		鉛含有量
試料採取区画	深度	TP	mg/kg	
A2-8	表層 (0~0.5m)	23.12~22.62m	590	-
	1.0m	22.12m	廃棄物層	
	廃棄物層直下 (1.1~1.6m)	22.02~21.52m	17	
	2.0m	21.12m	5	
	3.0m	20.12m	3	
	4.0m	19.12m	1	
	5.0m	18.12m	4	
	6.0m	17.12m	6	
	7.0m	16.12m	4	
	8.0m	15.12m	4	
	9.0m	14.12m	2	
10.0m	13.12m	1		
基準値			150	-

分類	第二種特定有害物質		備考	
	調査対象物質	調査深度		鉛含有量
試料採取区画	深度	TP	mg/kg	
A3-3	表層 (0~0.3m)	23.13~22.83m	210	-
	1.0m	22.13m	廃棄物層	
	廃棄物層直下 (1.45~1.95m)	21.68~21.18m	13	
	2.0m	21.13m	15	
	3.0m	20.13m	1	
	4.0m	19.13m	1	
	5.0m	18.13m	4	
	6.0m	17.13m	4	
	7.0m	16.13m	4	
	8.0m	15.13m	4	
	9.0m	14.13m	2	
10.0m	13.13m	1		
基準値			150	-

分類	第二種特定有害物質		備考	
	調査対象物質	調査深度		鉛含有量
試料採取区画	深度	TP	mg/kg	
A3-7	表層 (0~0.5m)	22.96~22.46m	120	-
	1.0m	21.96m	廃棄物層	
	2.0m	20.96m	廃棄物層	
	廃棄物層直下 (2.3~2.8m)	20.66~20.16m	210	
	3.0m	19.96m	3	
	4.0m	18.96m	4	
	5.0m	17.96m	4	
	6.0m	16.96m	3	
	7.0m	15.96m	1	
	8.0m	14.96m	1	
	9.0m	13.96m	1	
10.0m	12.96m	2		
基準値			150	-

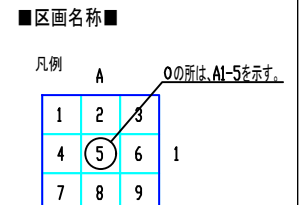
分類	第二種特定有害物質		備考	
	調査対象物質	調査深度		鉛含有量
試料採取区画	深度	TP	mg/kg	
A3-2	表層 (0~0.3m)	23.25~22.95m	490	-
	廃棄物層直下 (0.5~1.0m)	22.75~22.25m	110	
	1.0m	22.25m	- ^{※1}	
	2.0m	21.25m	550	
	廃棄物層直下② (2.1~2.6m)	21.15~20.65m	14	
	3.0m	20.25m	1	
	4.0m	19.25m	2	
	5.0m	18.25m	2	
	6.0m	17.25m	3	
	7.0m	16.25m	3	
	8.0m	15.25m	2	
9.0m	14.25m	1		
10.0m	13.25m	2		
基準値			150	-

※1 深度1.0m (TP+22.25m) は、廃棄物層直下 (TP+22.75~22.25m) にて評価済みのため分析を実施していない。

図3-1 調査結果総括図 (1/3)

表中記載「<」は、定量下限値未満を示す。
 表中記載「赤字黄色塗潰し」は、汚染状態に関する基準不適合を示す。

土壌溶出量調査に係る測定方法を定める件「平成15年環境省告示18号」による。
 土壌含有量調査に係る測定方法を定める件「平成15年環境省告示19号」による。
 地下水に含まれる調査対象物質の量の測定方法を定める件「平成15年環境省告示17号」による。
 表中記載「廃棄物層」は、対象となる深度が廃棄物層に該当するため分析を実施していないことを示す。



- 凡例
- 調査対象範囲
 - 単位区画「10m x 10m」
 - 30m格子「30m x 30m」
 - 区画統合「130㎡以下」
 - 詳細調査実施地点
 - 鉛含有量基準不適合区画
 - ふっ素溶出量基準超過区画
 - 想定地下水流向方向

分類	第二種特定有害物質			備考			
	調査対象物質	調査深度			鉛		
		深度	TP		含有量		
B1-7	表層 (0~0.5m)	23.71~23.21m	170	-			
					廃棄物層直下 (0.6~1.1m)	23.11~22.61m	6
	1.0m	22.71m	※1				
	2.0m	21.71m	3				
	3.0m	20.71m	13				
	4.0m	19.71m	4				
	5.0m	18.71m	4				
	6.0m	17.71m	4				
	7.0m	16.71m	1				
	8.0m	15.71m	2				
	9.0m	14.71m	2				
10.0m	13.71m	1					
基準値			150	-			

※1 深度1.0m (TP+22.71m) は、廃棄物層直下 (TP+23.11~22.61m) にて評価済みのため分析を実施していない。

分類	第二種特定有害物質			備考			
	調査対象物質	調査深度			鉛		
		深度	TP		含有量		
B2-1	表層 (0~0.1m)	23.66~23.56m	570	-			
					廃棄物層直下 (0.65~1.15m)	23.01~22.51m	7
	1.0m	22.66m	※1				
	2.0m	21.66m	11				
	3.0m	20.66m	3				
	4.0m	19.66m	2				
	5.0m	18.66m	4				
	6.0m	17.66m	<				
	7.0m	16.66m	1				
	8.0m	15.66m	2				
	9.0m	14.66m	2				
10.0m	13.66m	2					
基準値			150	-			

※1 深度1.0m (TP+22.66m) は、廃棄物層直下 (TP+23.01~22.51m) にて評価済みのため分析を実施していない。

分類	第二種特定有害物質			備考			
	調査対象物質	調査深度			鉛		
		深度	TP		含有量		
B2-4	表層 (0~0.5m)	23.61~23.11m	270	B2-4-1から引用			
					配管下 (0.4~0.9m)	23.21~22.71m	31
	1.0m	22.61m	79				
	2.0m	21.61m	7				
	3.0m	20.61m	6				
	4.0m	19.61m	7				
	5.0m	18.61m	7				
	6.0m	17.61m	6				
	7.0m	16.61m	4				
	8.0m	15.61m	1				
	ゴミ溜り下 (8.15~8.65m)	15.46~14.96m	2				
9.0m				14.61m	1		
10.0m	13.61m	2					
廃棄物層直下 (0.4~0.9m)	23.28~22.78m	34	B2-4-2から引用				
				10.0m	13.61m	2	
基準値			150	-			

分類	第二種特定有害物質			備考			
	調査対象物質	調査深度			鉛		
		深度	TP		含有量		
B2-8	表層 (0~0.5m)	23.56~23.06m	440	B2-8から引用			
					配管下 (0.4~0.9m)	23.16~22.66m	34
	1.0m	22.56m	35				
	2.0m	21.56m	3				
	3.0m	20.56m	1				
	ベルトコンベヤーピット下 (2.79~3.29m)	20.77~20.27m	2				
	5.0m	18.56m	1				
	6.0m	17.56m	2				
	7.0m	16.56m	2				
	8.0m	15.56m	2				
9.0m	14.56m	2					
10.0m	13.56m	1					
基準値			150	-			

※1 B2-8地点にて埋設既存構造物により掘削支障を来したため地点を変更。
 ※2 深度方向における土壌調査の深度は、B2-8地盤高 (TP+23.56m) を基準面とした。
 ※3 試料名称中深度 (2.79~3.29m) は、B2-8-1地盤高からを示す。

分類	第二種特定有害物質			備考			
	調査対象物質	調査深度			鉛		
		深度	TP		含有量		
B3-1	表層 (0~0.5m)	23.64~23.14m	94	B3-1-1から引用			
					配管下 (0.4~0.9m)	23.24~22.74m	320
	1.0m	22.64m	廃棄物層				
	廃棄物層直下 ^{※3} (1.3~1.8m)	22.34~21.84m	13				
	3.0m	20.64m	1				
	4.0m	19.64m	2				
	5.0m	18.64m	3				
	6.0m	17.64m	4				
	7.0m	16.64m	2				
	8.0m	15.64m	1				
9.0m	14.64m	2					
10.0m	13.64m	1					
廃棄物層直下 (2.2~2.7m)	21.27~20.77m	5	B3-1-2から引用				
				10.0m	13.64m	1	
基準値			150	-			

※1 B3-1-1地点にて埋設既存構造物により掘削支障を来したため地点を変更。
 ※2 深度方向における土壌調査の深度は、B3-1-1地盤高 (TP+23.64m) を基準面とした。
 ※3 試料名称中深度 (1.3~1.8m) は、B3-1-3地盤高からを示す。

分類	第二種特定有害物質			備考			
	調査対象物質	調査深度			鉛		
		深度	TP		含有量		
B2-5	表層 (0~0.5m)	23.50~23.00m	650	B2-5-1から引用			
					廃棄物層直下 (0.25~0.75m)	23.25~22.75m	28
	配管下 (0.4~0.9m)	23.10~22.60m	120				
	2.0m	21.50m	4				
	ベルトコンベヤーピット下 (2.73~3.23m)	20.77~20.27m	1				
	4.0m	19.50m	1				
	5.0m	18.50m	4				
	6.0m	17.50m	5				
	7.0m	16.50m	2				
8.0m	15.50m	2					
9.0m	14.50m	3					
10.0m	13.50m	2					
廃棄物層直下 (0.35~0.85m)	23.37~22.87m	12	B2-5-2から引用				
				10.0m	13.50m	2	
基準値			150	-			

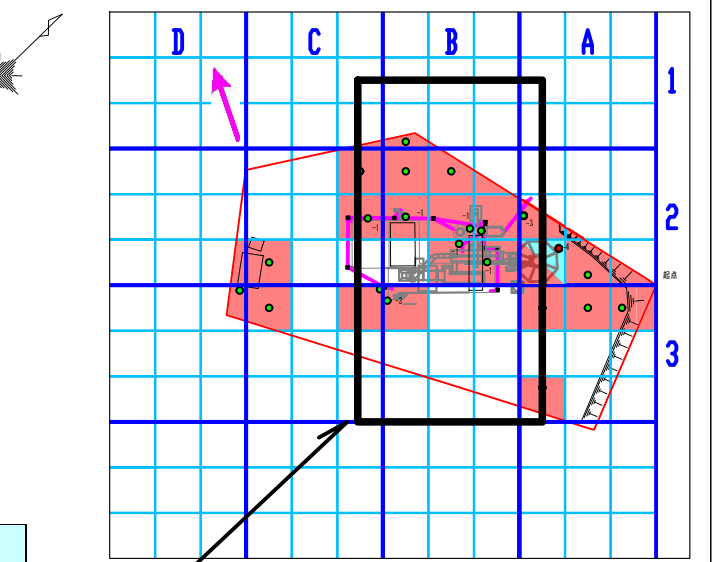
※1 深度3.0m (TP+20.50m) は、ベルトコンベヤーピット下 (TP+20.77~20.27m) にて評価済みのため分析を実施していない。

分類	第二種特定有害物質			備考			
	調査対象物質	調査深度			鉛		
		深度	TP		含有量		
B2-2	表層 (0~0.15m)	23.63~23.48m	240	-			
					廃棄物層直下 (0.6~1.1m)	23.03~22.53m	34
	1.0m	22.63m	※1				
	2.0m	21.63m	31				
	3.0m	20.63m	6				
	4.0m	19.63m	2				
	5.0m	18.63m	5				
	6.0m	17.63m	2				
	7.0m	16.63m	1				
	8.0m	15.63m	3				
	9.0m	14.63m	3				
10.0m	13.63m	1					
基準値			150	-			

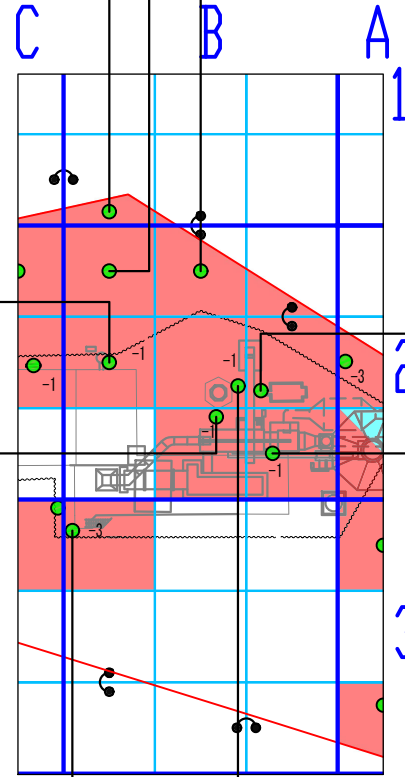
※1 深度1.0m (TP+22.63m) は、廃棄物層直下 (TP+23.03~22.53m) にて評価済みのため分析を実施していない。

分類	第二種特定有害物質			備考			
	調査対象物質	調査深度			鉛		
		深度	TP		含有量		
B2-9	表層 (0~0.5m)	23.56~23.06m	430	B2-9-1から引用			
					配管下 (0.4~0.9m)	23.16~22.66m	14
	1.0m	22.56m	13				
	2.0m	21.56m	3				
	ベルトコンベヤーピット下 (2.79~3.29m)	20.77~20.27m	4				
	4.0m	19.56m	1				
	5.0m	18.56m	1				
	6.0m	17.56m	5				
	7.0m	16.56m	3				
	8.0m	15.56m	2				
9.0m	14.56m	4					
10.0m	13.56m	3					
基準値			150	-			

※1 深度3.0m (TP+20.56m) は、ベルトコンベヤーピット下 (TP+20.77~20.27m) にて評価済みのため分析を実施していない。



表示範囲 対象地全体図



C

B

A

1

2

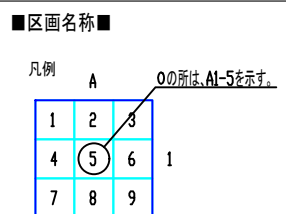
3

- 凡例
- 調査対象範囲
 - 単位区画「10m×10m」
 - 30m格子「30m×30m」
 - 区画統合「130㎡以下」
 - 詳細調査実施地点
 - 鉛含有量基準不適合区画
 - ふっ素溶出量基準超過区画
 - 想定地下水流向方向

図3-1 調査結果総括図 (2/3)

表中記載「<」は、定量下限値未満を示す。
 表中記載「赤字黄色塗潰し」は、汚染状態に関する基準不適合を示す。

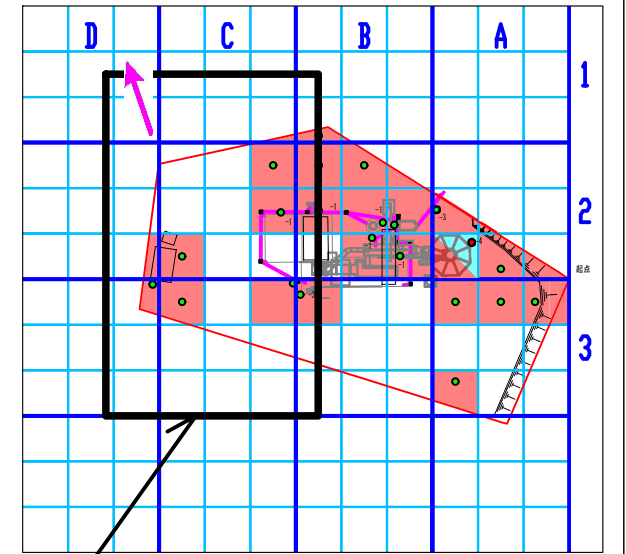
土壌溶出量調査に係る測定方法を定める件「平成15年環境省告示18号」による。
 土壌含有量調査に係る測定方法を定める件「平成15年環境省告示19号」による。
 地下水に含まれる調査対象物質の量の測定方法を定める件「平成15年環境省告示17号」による。
 表中記載「廃棄物層」は、対象となる深度が廃棄物層に該当するため分析を実施していないことを示す。



分類	第二種特定有害物質			備考
	調査対象物質	調査深度	鉛含有量	
試料採取区画	深度	TP	mg/kg	
C2-7	表層 (0~0.1m)	23.63~23.53m	200	-
	廃棄物層直下 (0.9~1.4m)	22.73~22.23m	10	
	1.0m	22.63m	—※1	
	2.0m	21.63m	4	
	3.0m	20.63m	1	
	4.0m	19.63m	3	
	5.0m	18.63m	2	
	6.0m	17.63m	1	
	7.0m	16.63m	1	
	8.0m	15.63m	2	
	9.0m	14.63m	1	
10.0m	13.63m	2		
基準値			150	-

※1 深度1.0m (TP+22.63m) は、廃棄物層直下 (TP+22.73~22.23m) にて評価済みのため分析を実施していない。

分類	第二種特定有害物質			備考
	調査対象物質	調査深度	鉛含有量	
試料採取区画	深度	TP	mg/kg	
C2-3	表層 (0~0.1m)	23.65~23.55m	290	-
	廃棄物層直下 (0.2~0.7m)	23.45~22.95m	32	
	1.0m	22.65m	19	
	2.0m	21.65m	50	
	3.0m	20.65m	16	
	4.0m	19.65m	1	
	5.0m	18.65m	3	
	6.0m	17.65m	2	
	7.0m	16.65m	2	
	8.0m	15.65m	3	
	9.0m	14.65m	3	
10.0m	13.65m	2		
基準値			150	-

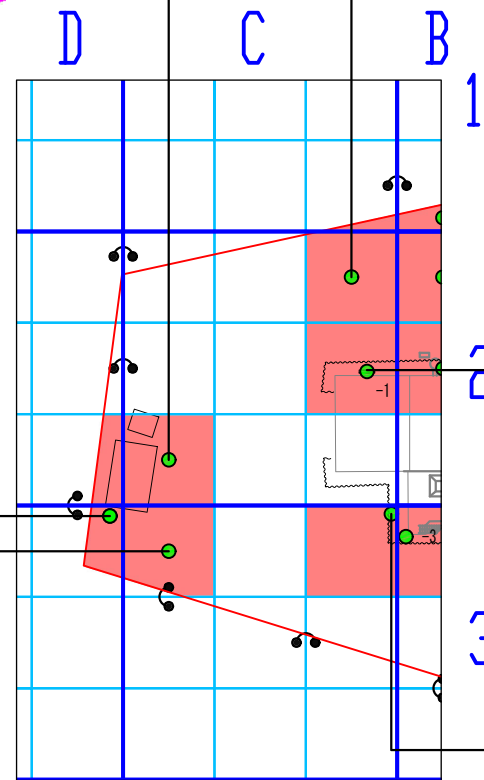


表示範囲

対象地全体図

分類	第二種特定有害物質			備考
	調査対象物質	調査深度	鉛含有量	
試料採取区画	深度	TP	mg/kg	
D3-3	表層 (0~0.15m)	23.46~23.31m	440	-
	廃棄物層直下 (0.9~1.4m)	22.56~22.06m	370	
	1.0m	22.46m	—※1	
	2.0m	21.46m	480	
	3.0m	20.46m	1	
	4.0m	19.46m	41	
	5.0m	18.46m	3	
	6.0m	17.46m	2	
	7.0m	16.46m	2	
	8.0m	15.46m	2	
	9.0m	14.46m	3	
10.0m	13.46m	2		
基準値			150	-

※1 深度1.0m (TP+22.46m) は、廃棄物層直下 (TP+22.56~22.06m) にて評価済みのため分析を実施していない。



分類	第二種特定有害物質			備考
	調査対象物質	調査深度	鉛含有量	
試料採取区画	深度	TP	mg/kg	
C2-6	表層 (0~0.5m)	23.50~23.00m	410	C2-6-1から引用
	配管下 (0.4~0.9m)	23.10~22.60m	150	
	1.0m	22.50m	460	
	2.0m	21.50m	3	
	3.0m	20.50m	1	
	4.0m	19.50m	1	
	5.0m	18.50m	5	
	6.0m	17.50m	3	
	7.0m	16.50m	6	
	8.0m	15.50m	4	
	9.0m	14.50m	4	
10.0m	13.50m	1		
廃棄物層直下① (0.8~1.3m)	22.85~22.35m	12	C2-6-2から引用	
廃棄物層直下② (1.5~2.0m)	22.15~21.65m	3		
基準値			150	-

分類	第二種特定有害物質			備考
	調査対象物質	調査深度	鉛含有量	
試料採取区画	深度	TP	mg/kg	
C3-3	表層 (0~0.4m)	23.59~23.19m	120	-
	配管下・廃棄物層直下 (0.75~1.25m)	22.84~22.34m	170	
	1.0m	22.59m	—※1	
	2.0m	21.59m	6	
	3.0m	20.59m	1	
	4.0m	19.59m	2	
	5.0m	18.59m	1	
	6.0m	17.59m	3	
	7.0m	16.59m	4	
	8.0m	15.59m	1	
	9.0m	14.59m	1	
10.0m	13.59m	1		
基準値			150	-

※1 深度1.0m (TP+22.59m) は、配管下・廃棄物層直下 (TP+22.84~22.34m) にて評価済みのため分析を実施していない。

分類	第二種特定有害物質			備考
	調査対象物質	調査深度	鉛含有量	
試料採取区画	深度	TP	mg/kg	
C3-1	表層 (0~0.5m)	23.54~23.04m	60	-
	1.0m	22.54m	廃棄物層	
	2.0m	21.54m	廃棄物層	
	廃棄物層直下 (2.2~2.7m)	21.34~20.84m	200	
	3.0m	20.54m	6	
	4.0m	19.54m	7	
	5.0m	18.54m	1	
	6.0m	17.54m	3	
	7.0m	16.54m	3	
	8.0m	15.54m	2	
	9.0m	14.54m	1	
10.0m	13.54m	2		
基準値			150	-

- 凡例
- 調査対象範囲
 - 単位区画「10m×10m」
 - 30m格子「30m×30m」
 - 区画統合「130㎡以下」
 - 詳細調査実施地点
 - 鉛含有量基準不適合区画
 - ふっ素溶出量基準超過区画
 - 想定地下水流向方向

図3-1 調査結果総括図 (3/3)

表中記載「<」は、定量下限値未満を示す。
表中記載「赤字黄色塗潰し」は、汚染状態に関する基準不適合を示す。

土壌溶出量調査に係る測定方法を定める件「平成15年環境省告示18号」による。
土壌含有量調査に係る測定方法を定める件「平成15年環境省告示19号」による。
地下水に含まれる調査対象物質の量の測定方法を定める件「平成15年環境省告示17号」による。
表中記載「廃棄物層」は、対象となる深度が廃棄物層に該当するため分析を実施していないことを示す。

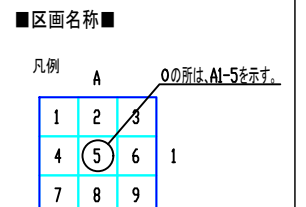


表 清柳園土壤汚染追加調査委託 結果一覧

添付資料4

種別	含有量									
分析項目	受付No.	カドミウム及びその化合物	六価クロム化合物	シアン化合物	水銀及びその化合物	セレン及びその化合物	鉛及びその化合物	砒素及びその化合物	ふっ素及びその化合物	ほう素及びその化合物
単位		mg/kg	mg/kg	mg/kg	mg/kg	mg/kg	mg/kg	mg/kg	mg/kg	mg/kg
定量下限値		1	2	0.5	0.01	1	1	1	10	1
分析方法		JIS K 0102 55.3 I CP発光分光分析法	JIS K 0102 65.2.1 ジフェニルカルバジド吸光法	JIS K 0102 38.1.1.2-38.5 流れ分析法	環境庁告示第59号付表2 還元気化原子吸光法	JIS K 0102 67.3 水素化物発生ICP発光分析法	JIS K 0102 54.3 I CP発光分光分析法	JIS K 0102 61.3 水素化物発生ICP発光分析法	JIS K 0102 34.4 流れ分析法	JIS K 0102 47.3 I CP発光分光分析法
試料名 汚染状態に関する基準		45	250	遊離シアンとして50	15	150	150	150	4000	4000
ゴミピット内	23124926	1	<2	<0.5	<0.01	<1	50	2	51	5



計量証明書

柳泉園組合 様

件名：清柳園焼却施設解体実施設計委託

帝人エコ・サイエンス株式会社
〒108-0073 東京都港区三田3-3-8松山事業所
〒791-8536 松山市西垣生町2345番地
Tel (089)971-5818 Fax(089)972-3957特定計量証明事業者の認定番号 N-0031-01
計量証明事業登録（愛媛県）第環41号（特定濃度）

計量管理者

岩松 匠



ご依頼のダイオキシン類の分析結果を下記のとおり証明致します。

測定媒体：土壌

試料名：ゴミピット内

試料区分：採取試料

分析期間：2024年2月5日～2024年2月9日

採取年月日：2024年2月1日

試料採取者：帝人エコ・サイエンス株式会社 羽村技術センター
東京都羽村市神明台4-8-43

計量の対象	計量の結果		計量の方法
	実測濃度	毒性等量	
ダイオキシン類濃度	13000 pg/g-dry	100 pg-TEQ/g-dry	「ダイオキシン類に係る 土壌調査測定マニュアル」 (令和4年 環境省)

- 備考) 1. ダイオキシン類とは、ポリ塩化ジベンゾフラン、ポリ塩化ジベンゾパラジオキシン及びコプラナーポリ塩化ビフェニルをいう。
2. 毒性等価係数は、ダイオキシン類対策特別措置法施行規則第3条の規定による。
3. 毒性等量は、定量下限以上の値はそのままその値を用い、定量下限未満のものは0(ゼロ)として各異性体の毒性等量を算出し、それらを合計して算出した。
4. 毒性等量は、計量法で定める計量証明対象外の項目である。
5. 本報告書の一部を複製する場合には弊社責任者の承認が必要です。

土壤試料中のダイオキシン類分析結果表

(3163-1)

化合物の名称等		試料名： ゴミピット内					
		実測濃度 (Cs)	試料における 定量下限	試料における 検出下限	毒性等価 係数	毒性等量 (TEQ)	参考値 (TEQ)
		pg/g-dry	pg/g-dry	pg/g-dry			
ポリ塩化ジベンゾフラン	1, 2, 7, 8-TeCDF	16	3.3	0.9	0	0	0
	2, 3, 7, 8-TeCDF	12	3.3	0.9	0.1	1.2	1.2
	TeCDFs	440	3.3	0.9	—	—	—
	1, 2, 3, 7, 8-PeCDF	22	3.3	0.9	0.03	0.66	0.66
	2, 3, 4, 7, 8-PeCDF	49	3.1	0.9	0.3	14.7	14.7
	PeCDFs	660	3.3	0.9	—	—	—
	1, 2, 3, 4, 7, 8-HxCDF	77	6	2	0.1	7.7	7.7
	1, 2, 3, 6, 7, 8-HxCDF	95	5	2	0.1	9.5	9.5
	1, 2, 3, 7, 8, 9-HxCDF	10	6	2	0.1	1.0	1.0
	2, 3, 4, 6, 7, 8-HxCDF	160	5	2	0.1	16	16
	HxCDFs	1000	5	2	—	—	—
	1, 2, 3, 4, 6, 7, 8-HpCDF	720	5	2	0.01	7.2	7.2
	1, 2, 3, 4, 7, 8, 9-HpCDF	94	6	2	0.01	0.94	0.94
	HpCDFs	1200	6	2	—	—	—
	OCDF	490	12	5	0.0003	0.147	0.147
	Total PCDFs	3800	—	—	—	59	59
ポリ塩化ジベンゾパラジオキシン	1, 3, 6, 8-TeCDD	110	3.3	0.9	0	0	0
	1, 3, 7, 9-TeCDD	55	3.3	0.9	0	0	0
	2, 3, 7, 8-TeCDD	2.1 *	3.3	0.9	1	0	2.1
	TeCDDs	260	3.3	0.9	—	—	—
	1, 2, 3, 7, 8-PeCDD	18	3.3	0.9	1	18	18
	PeCDDs	470	3.3	0.9	—	—	—
	1, 2, 3, 4, 7, 8-HxCDD	27	6	2	0.1	2.7	2.7
	1, 2, 3, 6, 7, 8-HxCDD	68	6	2	0.1	6.8	6.8
	1, 2, 3, 7, 8, 9-HxCDD	42	6	2	0.1	4.2	4.2
	HxCDDs	960	6	2	—	—	—
	1, 2, 3, 4, 6, 7, 8-HpCDD	690	6	2	0.01	6.9	6.9
	HpCDDs	1400	6	2	—	—	—
	OCDD	1600	12	5	0.0003	0.48	0.48
	Total PCDDs	4700	—	—	—	39	41
	Total (PCDFs+PCDDs)	8500	—	—	—	98	100
	コプラナーポリ塩化ビフェニル	3, 4, 4', 5'-TeCB (#81)	23	4	1	0.0003	0.0069
3, 3', 4, 4'-TeCB (#77)		550	4	1	0.0001	0.055	0.055
3, 3', 4, 4', 5'-PeCB (#126)		37	4	1	0.1	3.7	3.7
3, 3', 4, 4', 5, 5'-HxCB (#169)		18	4	1	0.03	0.54	0.54
Total ノノル体		630	—	—	—	4.3	4.3
2', 3, 4, 4', 5'-PeCB (#123)		49	4	1	0.00003	0.00147	0.00147
2, 3', 4, 4', 5'-PeCB (#118)		2400	6	2	0.00003	0.072	0.072
2, 3, 3', 4, 4'-PeCB (#105)		920	5	2	0.00003	0.0276	0.0276
2, 3, 4, 4', 5'-PeCB (#114)		58	4	1	0.00003	0.00174	0.00174
2, 3', 4, 4', 5, 5'-HxCB (#167)		90	4	1	0.00003	0.0027	0.0027
2, 3, 3', 4, 4', 5'-HxCB (#156)		200	4	1	0.00003	0.0060	0.0060
2, 3, 3', 4, 4', 5'-HxCB (#157)		61	4	1	0.00003	0.00183	0.00183
2, 3, 3', 4, 4', 5, 5'-HpCB (#189)		41	4	1	0.00003	0.00123	0.00123
Total モノル体		3900	—	—	—	0.11	0.11
Total (ノノル体+モノル体)		4500	—	—	—	4.4	4.4
Total (PCDFs+PCDDs+コプラナーPCB)		13000	—	—	—	100	100

備考 1. 実測濃度中の * 付の数値は、検出下限以上定量下限未満の濃度であることを示す。

2. 実測濃度中の "N. D." は、検出下限未満であることを示す。
3. 毒性等価係数は、WHO/IPCS (2006) のTEFを適用した。
4. 毒性等量は、定量下限未満の実測濃度を0(ゼロ)として算出したものである。
5. 参考値は、検出下限未満の実測濃度は検出下限の1/2の値を用いて算出したものである。

ボーリング柱状図

調査名 清柳園焼却施設解体実施設計委託

ボーリングNo.									
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	ゴミピット内		調査位置	東京都清瀬市下宿二丁目555番地				北緯								
発注機関	柳泉園組合			調査期間	2024年2月1日～2024年2月1日			東経								
調査業者名	株式会社東和テクノロジー		主任技師	水江 安次郎	現場代理人	佐伯 亜由美	コア鑑定者	佐竹 颯斗	ボーリング責任者	五十嵐 武						
孔口標高	T.P. +23.541m	角			方	北 0°	東 90°	西 270°	南 180°	地盤勾配	水平 0°	使用機種	試錐機	YBM ECO-1VIII-CF	ハンマー	落下用具
総掘進長	7.50m	度										エンジン			ポンプ	

標尺	層高	層厚	柱状	土質	色	相対	相対	記	孔内水位	標準貫入試験						原位置試験	試料採取			室内試験	掘進			
										深	10cm毎の打撃回数	打撃回数/貫入量	N 値				深	試験名	深			試料番号	採取方法	
m	m	m	m	図	分	調	度	事	m	0	10	20	30	40	50	60	m	おおよび結果	m	番号	方法	日		
1				埋土	暗褐色	褐色	暗褐色	3.00mまで不均質な礫混じり砂主体の埋土で成る。暗褐色～褐色から成る。φ5～50mm程度の亜円礫を所々混入。コンクリート片少量混入。1.05m付近、60mm大のコンクリート片を混入。3.00～3.25m、淡褐色の砂混じりシルト主体。																
2				埋土	淡黄灰			コンクリート片主体の埋土で成る。コンクリート片とその粉砕物から成る。鉄屑を少量混入。乾いている。																
3	20.29	3.25	3.25																					
4	19.54	0.75	4.00																					
5				埋土	暗灰			礫混じり砂主体の埋土で成る。φ2～60mmのコンクリート片、亜円礫～角礫を多く混入。徐々に礫の混入量が増加する。ガラス片、ゴム片、トウキ片少量混入。6.25～6.35m、長さ200mmの鉄筋層を混入。4.00～4.25m、5.00～5.20m及び6.60～6.90m、φ2～20mmの礫を多く混入。																
6																								
7	16.54	3.00	7.00																					
	16.04	0.50	7.50	埋土	暗青灰			礫混じり砂主体の埋土で成る。50～70mm大のコンクリート片を多く混入。7.25～7.45m、長さ200mmの鉄筋を含む70mm大のコンクリート層を混入。7.50m、ピット底盤（構造物）に接触し、掘削終了。																



ゴミピット内

施工前



ゴミピット内

掘進状況



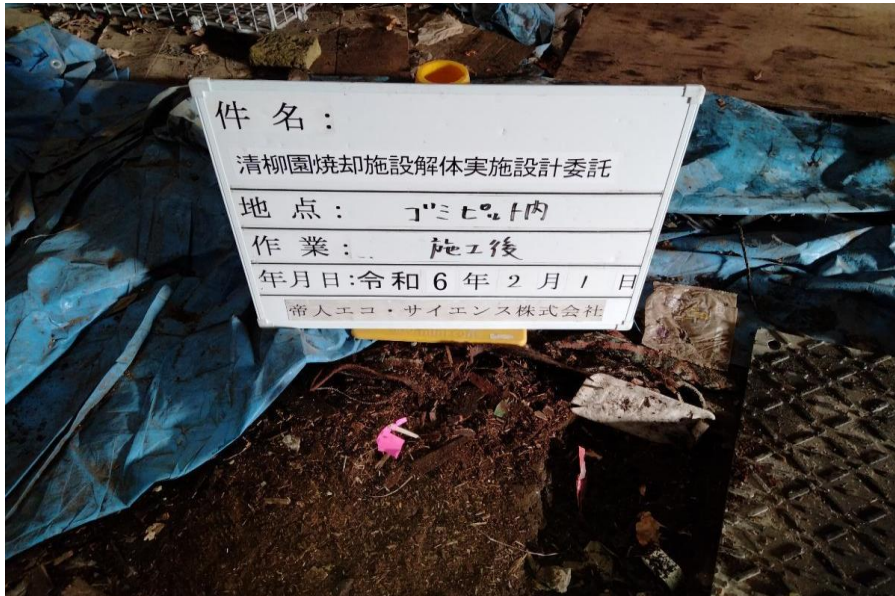
ゴミピット内

残尺



ゴミピット内

検尺



ゴミピット内

施工後



ゴミピット内

コア試料

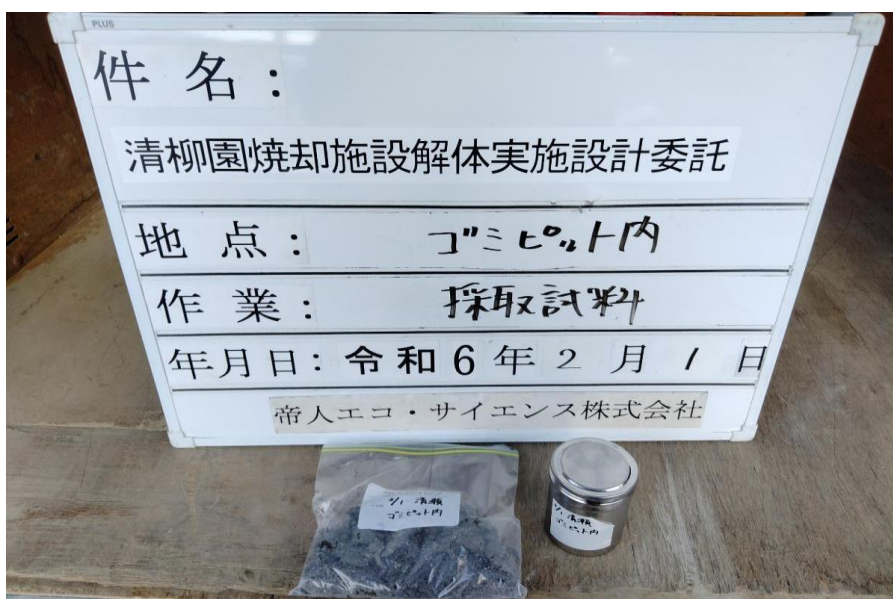
0.00 ~ 5.00m



ゴミピット内

コア試料

5.00 ~ 7.50m



ゴミピット内

採取試料

ボーリング柱状図



調査名 清柳園焼却施設解体実施設計委託 土壌汚染状況調査

ボーリングNo.

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	A2-7-2	調査位置	東京都清瀬市下宿2丁目555番地						北緯		
発注機関	柳泉園組合			調査期間	2021年9月13日～2021年9月16日			東経			
調査業者名	株式会社東和テクノロジー		主任技師	水江 安次郎		現場代理人	佐伯 亜由美	コア鑑定者	坂井 禎智	ボーリング責任者	矢田部 睦樹
孔口標高	T.P. +23.565m	角		方		地盤勾配	水平 0°	使用機種	HILTI TE3000-AVR		ハンマー落下用具
総掘進長	2.50m	度		向		鉛直		エンジン			ポンプ

標尺	層高	厚	深	柱状図	土質	色	相対密度	相対稠度	記	孔内水位 m / 測定月日	標準貫入試験						原位置試験 深 度 m	試験名 および結果	試料採取 深 度 m	採取 番号	採取 方法	室内試験 ()	掘進 月 日			
											10cm毎の 打撃回数	打撃回数 / 貫入量 cm	N 値 - 0 -													
1					埋土				1.50mまで雑混じり砂主体の埋土で成る。 φ5～50mmの角～亜円礫を混入。 0.90m以深、ローム及びシルトを不規則に混入。 1.50～1.90m、灰白色の粉砕されたφ5～30mmの角礫を含むコンクリート層を多数混入。 1.90m以深、シルト少量を含む雑混じり砂主体。 φ5～30mmの亜角～亜円礫を混入。		0	10	20	30	40	50	60									
2																										
	21.07	2.50	2.50																						9 15	

ボーリング柱状図



調 査 名 清柳園焼却施設解体実施設計委託 土壌汚染状況調査


ボーリングNo.

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名 _____

シートNo. _____

ボーリング名	A2-7-3		調査位置	東京都清瀬市下宿2丁目555番地								北 緯	
発注機関	柳泉園組合				調査期間	2021年9月13日～2021年9月16日				東 経			
調査業者名	株式会社東和テクノロジー		主任技師	水江 安次郎		現場代理人	佐伯 亜由美	コア鑑定者	坂井 禎智	ボーリング責任者	高橋 勝也		
孔口標高	T. P. +23.269m	角		方		地盤勾配	水平 0°	使用機種	YBM ECO-1VIV		ハンマー落下用具		
総掘進長	2.00m	度		向				エンジン			ポンプ		

標尺	層高	厚	深	柱状図	土質	色	相対密度	相対稠度	相対調度	記 事	孔内水位 m / 測定月日	標準貫入試験						原位置試験 深 度 m	試験名 および結果	試料採取 深 度 m	採取 番号	採取 方法	室内試験 ()	掘進 月 日		
												10cm毎の 打撃回数	打撃回数 / 貫入量 cm	N 値 - 〇 -												
m	m	m	m									0	10	20	30	40	50	60								
	23.62	0.25	0.24		埋土	黒褐				礫混じりシルト質砂主体の埋土で成る。 φ5~30mmの角礫を混入。 0.15m付近、10mm大のガラス屑を混入。																
	22.97	0.05	0.29		埋土	黒灰				焼却灰主体の埋土で成る。																
1	22.07	0.90	1.23		埋土	褐				礫混じりローム主体の埋土で成る。 φ5~50mmの亜角~亜円礫を混入。																
	21.95	0.15	1.38		埋土	黒灰				焼却灰主体の埋土で成る。																
2	21.27	0.65	2.03		埋土	褐				ロームを含む礫混じり粘土質シルト主体の埋土で成る。 φ5~30mmの角礫を混入。																

ボーリング柱状図



調査名 清柳園焼却施設解体実施設計委託 土壌汚染状況調査

ボーリングNo.

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	A2-8			調査位置	東京都清瀬市下宿2丁目555番地						北緯	
発注機関	柳泉園組合				調査期間	2021年9月13日～2021年9月16日				東経		
調査業者名	株式会社東テクノロジ		主任技師	水江 安次郎		現場代理人	佐伯 亜由美	コア鑑定者	坂井 禎智		ボーリング責任者	高橋 勝也
孔口標高	T.P. +23.120m	角			方			地盤勾配	水平 0°	使用機種	YBM ECO-1VIV	
総掘進長	2.00m	度			向			鉛直	90°	ハンマー	落下用具	
								エンジン		ポンプ		

標尺	層高	層厚	柱状	土質	色	相対	相対	記	孔内水位 m / 測定月日	標準貫入試験						原位置試験 深 度 m	試験名 および結果	試料採取 深 度 m	採取 番号	採取 方法	室内試験 ()	掘進 月 日		
										10cm毎の 打撃回数	打撃回数 / 貫入量 cm	N 値 - O -												
m	m	m	m					事		0	10	20	30	40	50	60								
	22.52	0.60	0.60	埋土	黒褐色			雑混じりシルト質砂主体の埋土で成る。 φ5～40mmの角礫を混入。 0.15m付近、20mm次のガラス屑及び30mm次の陶磁器屑を混入。																
1	22.02	0.50	1.10	埋土	黒灰			焼却灰主体の埋土で成る。 φ5～30mmの角礫を混入。																
2	21.12	0.90	2.00	埋土	褐色			雑混じり砂質シルト主体の埋土で成る。 φ5～50mmの角礫・ロームを混入。 全体にやや締まっている																

ボーリング柱状図



調査名 清柳園焼却施設解体実施設計委託 土壌汚染状況調査

ボーリングNo.

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	A3-1	調査位置	東京都清瀬市下宿2丁目555番地						北緯		
発注機関	柳泉園組合			調査期間	2021年9月13日～2021年9月16日			東経			
調査業者名	株式会社東和テクノロジー		主任技師	水江 安次郎		現場代理人	佐伯 亜由美	コア鑑定者	坂井 禎智	ボーリング責任者	高橋 勝也
孔口標高	T.P. +23.364m	角			方位	北 0° 東 90° 南 180° 西 270°	地盤勾配	水平 0°	使用機種	YBM ECO-1VIV	ハンマー 落下用具
総掘進長	2.00m	度			向		鉛直	90°	エンジン		ポンプ

標尺	層高	厚	深	柱状	土質	色	相対	相対	記	孔内水位 m / 測定月日	標準貫入試験						原位置試験 深 度 m	試験名 および結果	試料採取 深 度 m	採取 番号	採取 方法	室内試験 ()	掘進 月 日		
											10cm毎の 打撃回数	打撃回数 / 貫入量 cm	N 値 - 0 -												
	23.11	0.25	0.25	図	埋土	暗褐			礫混じり砂主体の埋土で成る。 木根及びφ5～20mmの角礫・ガラス層を混入。																
	22.91	0.20	0.45	図	埋土	黒灰			焼却灰主体の埋土で成る。 φ20～30mmのガラス層・金属層を混入。																
1	22.16	0.75	1.20	図	埋土	褐			礫混じりローム主体の埋土で成る。																
	21.66	0.50	1.70	図	埋土	黒灰			焼却灰主体の埋土で成る。 1.60m付近、φ20～30mmの陶磁器層を複数混入。																
2	21.36	0.30	2.00	図	埋土	褐			φ10～20mmの亜角礫を含む粘土質シルト主体の埋土で成る。																

ボーリング柱状図

調査名 清柳園焼却施設解体実施設計委託 土壌汚染状況調査

ボーリングNo.

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名 _____

シートNo. _____

ボーリング名	A3-2		調査位置	東京都清瀬市下宿2丁目555番地							北緯	
発注機関	柳園組合			調査期間	2021年9月13日～2021年9月16日					東経		
調査業者名	株式会社東テクノロジ		主任技師	水江 安次郎	現場代理人	佐伯 亜由美	コア鑑定者	坂井 禎智	ボーリング責任者	高橋 勝也		
孔口標高	T. P. +23.254m	角 上 180° 下 0°	方 向	北 0° 東 90° 南 180° 西 270°	地盤勾配 水平 0° 鉛直 90°	使用機種	YBM ECO-1VIV			ハンマー 落下用具		
総掘進長	2.00m	度				エンジン				ポンプ		

標尺	層高	厚	深	柱状	土質	色	相対	相対	記	孔内水位 m / 測定月日	標準貫入試験						原位置試験 深 度 m	試験名 および結果	試料採取 深 度 m	採取 番号	採取 方法	室内試験 ()	掘進 月 日		
											10cm毎の 打撃回数		打撃回数 / 貫入量 cm	N 値											
											0	10		20	30	40								50	60
	22.95	0.30	0.30		埋土	黒褐			雑混じりシルト質砂主体の埋土で成る。 φ5～30mmの角礫・ガラス層を混入。																
	22.75	0.20	0.50		埋土	黒灰			焼却灰主体の埋土で成る。																
1					埋土	暗褐			雑混じり砂質シルト主体の埋土で成る。 φ5～50mmの角礫を混入。 0.85m付近、10mm大の陶磁器層及び40mm大のガラス層を混入。 1.50～1.80m、暗褐色のシルト質砂を挟在する。																
2	21.25	1.50	2.00																						

ボーリング柱状図

調査名 清柳園焼却施設解体実施設計委託 土壌汚染状況調査

ボーリングNo.

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	A3-3		調査位置	東京都清瀬市下宿2丁目555番地						北緯	
発注機関	柳泉園組合				調査期間	2021年9月13日～2021年9月16日				東経	
調査業者名	株式会社東和テクノロジー		主任技師	水江 安次郎		現場代理人	佐伯 亜由美	コア鑑定者	坂井 禎智	ボーリング責任者	高橋 勝也
孔口標高	T.P. +23.128m	角 上 180° 下 0°	方 向			地盤勾配	水平 0°	使用機種	YBM ECO-1VIV		ハンマー 落下用具
総掘進長	2.00m	度						エンジン			ポンプ

標尺	層高	厚	深	柱状図	土質	色	相対密度	相対稠度	記	孔内水位 m / 測定月日	標準貫入試験						原位置試験 深 度 m	試験名 および結果	試料採取 深 度 m	採取 方法	室内試験 (月 日	掘進 日			
											10cm毎の 打撃回数	打撃回数 / 貫入 量 cm	N 値 - 0 -												
m	m	m	m		埋土	褐灰			木根を含む黒褐色の礫混じり砂主体の埋土で成る。 φ5～30mmの角礫を混入。		0	10	20	30	40	50	60								
	22.83	0.30	0.30		埋土	黒灰			焼却灰主体の埋土で成る。 φ5～40mmの角礫を混入。 1.45m付近、20～50mm次の廃プラスチック類を複数混入。																
	21.68	1.18	1.45		埋土	褐灰			礫混じり砂主体の埋土で成る。 φ5～50mmの亜角～亜円礫を混入。 全体に締まっている。																
	21.18	0.55	2.00		埋土	褐灰																			

ボーリング柱状図



調査名 清柳園焼却施設解体実施設計委託 土壌汚染状況調査

ボーリングNo.

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	A3-4		調査位置	東京都清瀬市下宿2丁目555番地						北緯	
発注機関	柳泉園組合				調査期間	2021年9月13日～2021年9月16日				東経	
調査業者名	株式会社東和テクノロジー		主任技師	水江 安次郎		現場代理人	佐伯 亜由美	コア鑑定者	坂井 禎智	ボーリング責任者	高橋 勝也
孔口標高	T.P. +23.206m	角		方		地盤勾配	水平 0°	使用機種	YBM ECO-1VIV		ハンマー 落下用具
総掘進長	2.00m	度		向		給油		エンジン			ポンプ

標尺	層高	厚	深	柱状図	土質	色	相対密度	相対稠度	記	孔内水位 m / 測定月日	標準貫入試験						原位置試験 深 度 m	試験名 および結果	試料採取 深 度 m	採取 番号	採取 方法	室内試験 ()	掘進 月 日			
											10cm毎の 打撃回数	打撃回数 / 貫入量 cm	N 値 - 〇 -													
m	m	m	m		埋土	褐色			雑混じりシルト質砂主体の埋土で成る。 φ5～40mmの角礫を混入。 全体にやや締まっている。		0	10	20	30	40	50	60									
	22.86	0.35	0.33		埋土	黒灰			焼却灰主体の埋土で成る。 φ5～20mmの角礫を混入。																	
1					埋土	暗灰褐色			雑混じりシルト質砂主体の埋土で成る。 φ5～40mmの角～垂円礫を混入。 1.30m付近まで暗灰色を呈する。																	
2	21.21	1.30	2.00																							

ボーリング柱状図

調査名 清柳園焼却施設解体実施設計委託 土壌汚染状況調査

ボーリングNo.

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	A3-5	調査位置	東京都清瀬市下宿2丁目555番地						北緯		
発注機関	柳泉園組合			調査期間	2021年9月13日～2021年9月16日			東経			
調査業者名	株式会社東和テクノロジー		主任技師	水江 安次郎		現場代理人	佐伯 亜由美	コア鑑定者	坂井 禎智	ボーリング責任者	高橋 勝也
孔口標高	T.P. +23.148m	角		方		地盤勾配	水平 0°	使用機種	YBM ECO-1VIV	ハンマー	落下用具
総掘進長	2.00m	度		向				エンジン		ポンプ	

標尺	層高	層厚	柱状	土質	色	相対	相対	記	孔内水位 m / 測定月日	標準貫入試験						原位置試験 深 度 m	試験名 および結果	試料採取 深 度 m	採取 番号	採取 方法	室内試験 ()	掘進 月 日	
										10cm毎の 打撃回数	打撃回数 / 貫入量 cm	N 値 - 0 -											
	22.55	0.60	0.60	埋土	暗褐色			礫混じりシルト質砂主体の埋土で成る。 φ5～50mmの角礫・ロームを混入。															
1	21.70	0.85	1.45	埋土	黒灰			焼却灰主体の埋土で成る。 0.95m付近、70mm大の廃プラスチック類を混入。 1.10m付近、20mm大の陶磁器層を混入。															
2	21.15	0.55	2.00	埋土	暗褐色			礫混じり砂質シルト主体の埋土で成る。 φ5～40mmの角～亜円礫及びロームを混入。															

ボーリング柱状図



調査名 清柳園焼却施設解体実施設計委託 土壌汚染状況調査

ボーリングNo.

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	A3-7	調査位置	東京都清瀬市下宿2丁目555番地						北緯		
発注機関	柳泉園組合			調査期間	2021年9月13日～2021年9月16日			東経			
調査業者名	株式会社東和テクノロジー		主任技師	水江 安次郎		現場代理人	佐伯 亜由美	コア鑑定者	坂井 禎智	ボーリング責任者	高橋 勝也
孔口標高	T.P. +22.960m	角		方		地盤勾配	水平 0°	使用機種	YBM ECO-1VIV	ハンマー	落下用具
総掘進長	2.00m	度		向		鉛直	90°	エンジン		ポンプ	

標尺	層高	層厚	柱状	土質	色	相対	相対	記	孔内水位 m / 測定月日	標準貫入試験						原位置試験 深度 m	試験名 および結果	試料採取 深度 m	採取 番号	採取 方法	室内試験 ()	掘進 月日						
										10cm毎の 打撃回数	打撃回数 / 貫入量 cm	N 値 - ○ -																
m	m	m	m	図	分	調	度	事	m	0	10	20	30	40	50	60	m	m	m	m	m	m	m	m	m	m	m	m
	22.46	0.50	0.50	埋土	暗褐色			礫混じり砂主体の埋土で成る。 φ5～40mmの角礫を混入。 やや締まっている。 0.30m付近、50mm大のアスファルト層を混入。																				
1	21.26	1.20	1.70	埋土	黒灰			焼却灰主体の埋土で成る。 1.50m付近、50mm大のビニール片等の腐プラスチック類を混入。 1.70m付近、40mm大の陶磁器層を混入。																				
2	20.06	0.30	2.00	埋土	暗褐色			礫混じり粘土質シルト主体の埋土で成る。																				

ボーリング柱状図

調査名 清柳園焼却施設解体実施設計委託 土壌汚染状況調査

ボーリングNo.

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名 _____

シートNo. _____

ボーリング名	A3-8		調査位置	東京都清瀬市下宿2丁目555番地				北緯		
発注機関	柳泉園組合			調査期間	2021年9月13日～2021年9月16日			東経		
調査業者名	株式会社東和テクノロジー		主任技師	水江 安次郎	現場代理人	佐伯 亜由美	コア鑑定者	坂井 禎智	ボーリング責任者	高橋 勝也
孔口標高	T.P. +23.129m	角	180°上 90° 180°下 0°	方	北 0° 270°西 180°南 90°東	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90°	使用機種	YBM ECO-1VIV	ハンマー 落下用具
総掘進長	2.00m	度		向				エンジン		ポンプ

標尺	層高	層厚	層深	柱状図	土質	色	相対密度	相対稠度	記号	孔内水位 m / 測定月日	標準貫入試験						原位置試験 深度 m	試験名 および結果	試料採取 深度 m	試料番号	採取方法	室内試験 ()	掘進 月日			
											10cm毎の 打撃回数	打撃回数 / 貫入 重 cm	N 値 - O -													
m	m	m	m	m							0	10	20	30	40	50	60									
	22.63	0.50	0.50		埋土	暗褐			雑混じり砂質シルト主体の埋土で成る。 φ5～50mmの角～垂角礫及びロームを混入。 0.30m付近、100mm大の布片等の腐プラスチック類を混入。																	
1	21.83	0.80	1.30		埋土	黒灰			焼却灰主体の埋土で成る。 φ5～40mmの角礫、φ1～10mmの炭化物・燃え殻等を混入。																	
2	21.13	0.70	2.00		埋土	暗褐			雑混じり砂質シルト主体の埋土で成る。 φ5～30mmの角礫を混入。																	

ボーリング柱状図



調査名 清柳園焼却施設解体実施設計委託 土壌汚染状況調査


ボーリングNo.

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	B2-1		調査位置	東京都清瀬市下宿2丁目555番地						北緯	
発注機関	柳泉園組合			調査期間	2021年9月13日～2021年9月16日				東経		
調査業者名	株式会社東和テクノロジー		主任技師	水江 安次郎	現場代理人	佐伯 亜由美	コア鑑定者	坂井 禎智	ボーリング責任者	高橋 勝也	
孔口標高	T.P. +23.656m	角		方		地盤勾配	水平 0°	使用機種	YBM ECO-1VIV	ハンマー落下用具	
総掘進長	2.00m	度		向		鉛直		エンジン		ポンプ	

標尺	層高	厚	深	柱状図	土質	色	相対密度	相対稠度	相対稠度	記	孔内水位 m / 測定月日	標準貫入試験						原位置試験 深 度 m	試験名 および結果	試料採取 深 度 m	採取 番号	採取 方法	室内試験 ()	掘進 月 日			
												10cm毎の 打撃回数	打撃回数 / 貫入量 cm	N 値 - 0 -													
	23.55	0.10	0.10		埋土	暗褐色				木根を含む砂質土主体の埋土で成る。																	
	23.01	0.55	0.65		埋土	黒灰				焼却灰主体の埋土で成る。 50～70mm大のゴム屑や土のう片等の廃プラスチック類を複数混入。 0.40m付近、φ2～5mmのレンガ屑を混入。																	
1					埋土	暗褐色				雑混じりシルト質砂主体の埋土で成る。 φ5～40mmの角～垂角礫を混入。 1.25m付近、φ1mm、長さ50mmの金属屑を混入。 1.50m以深、シルトの混入量増加する。																	
2	21.66	1.35	2.00																								

ボーリング柱状図



調 査 名 清柳園焼却施設解体実施設計委託 土壌汚染状況調査

ボーリングNo.

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	B2-2		調査位置	東京都清瀬市下宿2丁目555番地						北 緯					
発注機関	柳泉園組合				調査期間	2021年9月13日～2021年9月16日			東 経						
調査業者名	株式会社東テクノロジー		主任技師	水江 安次郎		現場代理人	佐伯 亜由美	コア鑑定者	坂井 禎智	ボーリング責任者	高橋 勝也				
孔口標高	T. P. +23.633m	角			方			地盤勾配	水平 0°	使用機種	試錐機	YBM ECO-1VIV		ハンマー	落下用具
総掘進長	2.00m	度			向			鉛直	90°	エンジン			ポンプ		

標尺	層高	厚	深	柱状図	土質	色	相対密度	相対稠度	記 事	孔内水位 m / 測定月日	標準貫入試験						原位置試験 深 度 m	試験名 および結果	試料採取 深 度 m	採取 番号	採取 方法	室内試験 ()	掘進 月 日		
											10cm毎の 打撃回数	打撃回数 / 貫入量 cm	N 値 - 0 -												
m					埋土	褐灰			木根を含む砂質土主体の埋土で成る。																
	23.48	0.15	0.12		埋土	黒灰			φ5～40mmの角礫を含む黒灰色の焼却灰主体の埋土で成る。																
	23.03	0.45	0.69		埋土	褐灰+暗褐			礫混じりシルト質砂主体の埋土で成る。 φ5～50mmの角礫を混入。 0.65m付近、長さ30mmの金属屑を混入。 1.25m付近、70mm大の玉石を混入。 1.60m以深、シルトの混入量増加する暗褐色を呈する。																
1																									
	21.65	1.40	2.00																						
2																									

ボーリング柱状図

調査名 清柳園焼却施設解体実施設計委託 土壌汚染状況調査

ボーリングNo.											
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	B2-4-1		調査位置	東京都清瀬市下宿2丁目555番地					北緯	
発注機関	柳泉園組合			調査期間	2021年9月13日～2021年9月16日			東経		
調査業者名	株式会社東和テクノロジー		主任技師	水江 安次郎	現場代理人	佐伯 亜由美	コア鑑定者	坂井 禎智	ボーリング責任者	矢田部 睦樹
孔口標高	T.P. +23.611m	角 度		方位		地盤勾配	水平 0°	使用機種	HILTI TE3000-AVR	
総掘進長	8.65m	度		方 向		地盤勾配	鉛直 90°	試験機	HILTI TE3000-AVR	ハンマー 落下用具
								エンジン		ポンプ

標尺	層高	厚	深	柱状	土質	色	相対	相対	記 事	孔内水位m /測定月日	標準貫入試験						原位置試験	試料採取	室内試験	掘進							
											深	10cm毎の打撃回数	打撃回数/貫入量cm	N 値 — ○ —							深 度	試験名 および結果	深 度	試料 番号	採取 方法	()	日
m	m	m	m	図	分						0	10	20	30	40	50	60										
1																											
2																											
3									0.50mまで黒褐色の礫混じり砂主体の埋土で成る。 φ5～30mmの角礫・塵プラスチック類を混入。 0.50～3.80m、礫混じりシルト質砂主体。 φ5～40mmの角礫・ロームを混入。 3.60m以深、礫の混入量減少する。 3.80～5.90m、暗褐色の礫混じり砂質シルト主体。 φ5～30mmの角礫を混入。 所々で多少の水分を含む。 4.80m以深、含水量が多い。 5.90m以深、砂礫主体。 平均粒径5mm、長さ40mmの角～亜円礫主体。 マトリックスは細砂。 含水多い。 シルトを不規則に混入。 6.55m付近、長さ100mmの木屑を混入。	4.71																	
4																											
5																											
6																											
7																											
8	15.91	7.70	7.70		シルト質砂礫				平均粒径5～10mm、最大粒径40mmの内礫主体。 含水量が多い。																		
	14.96	0.95	8.65																								

ボーリング柱状図

調査名 清柳園焼却施設解体実施設計委託 土壌汚染状況調査

ボーリングNo.

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	B2-4-2	調査位置	東京都清瀬市下宿2丁目555番地							北緯						
発注機関	柳泉園組合				調査期間	2021年9月13日～2021年9月16日			東経							
調査業者名	株式会社東和テクノロジー		主任技師	水江 安次郎	現場代理人	佐伯 亜由美	コア鑑定者	坂井 禎智	ボーリング責任者	高橋 勝也						
孔口標高	T. P. +23.683m	角	180°上	90°	方	北 0°	270°西	90°東	180°南	地盤勾配	水平 0°	使用機種	試錐機	YBM ECO-1VIV	ハンマー	落下用具
総掘進長	2.00m	度	下 0°		向							エンジン			ポンプ	

標尺	層高	厚	深	柱状図	土質	色	相対	相対	相対	相対	相対	相対	相対	相対	相対	相対	相対	相対	相対	標準貫入試験					原位置試験	試料採取	室内試験	掘進							
																				深	10cm毎の打撃回数	打撃回数/貫入量	N 値						深	試験名	深	試料番号	採取方法	深	度
m	m	m	m	図	埋土	暗褐色																													
	23.48	0.20	0.28		埋土	黒灰																													
	23.28	0.20	0.48																																
					埋土	暗褐色																													
	21.68	1.60	2.00																																

ボーリング柱状図

調査名 清柳園焼却施設解体実施設計委託 土壌汚染状況調査

ボーリングNo.																			
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	B2-5-1		調査位置	東京都清瀬市下宿2丁目555番地								北緯		
発注機関	柳泉園組				調査期間	2021年9月13日～2021年9月16日					東経			
調査業者名	株式会社東和テクノロジー		主任技師	水江 安次郎			現場代理人	佐伯 亜由美	コア鑑定者	坂井 禎智		ボーリング責任者	矢田部 睦樹	
孔口標高	T. P. +23.499m	角 度		方 向	北 0° 東 90° 南 180° 西 270°	地盤勾配 鉛直 0°	使用機種	HILTI TE3000-AVR			ハンマー 落下用具	ポンプ		
総掘進長	3.23m			エンジン										

標尺	層厚	深度	柱状図	土質区分	色対照	相對稠密度	相対稠密度	記	孔内水位 m / 測定月日	標準貫入試験						原位置試験 深度 m	試験名 および結果	試料採取 深度 m	採取 番号	採取 方法	室内試験 ()	掘進 月日				
										10cm毎の 打撃回数	N 値												深度 m			
										0 10 20	— ○ —															
m	m	m																								
				埋土	褐く暗褐色			0.30mまで礫混じり砂主体の埋土で成る。木根及びφ10～30mmの角礫を混入。 0.10m付近、20mm大のガラス屑を混入。 0.30～2.40m、礫混じり砂質シルト主体。 φ5～40mmの角礫を混入。 1.10m付近までは砂優位。 1.40～1.60m、粉砕されたφ10～20mmの角礫を多数混入。固く締まっている。 2.40～2.80m、暗褐色の砂質シルト主体。 φ5～30mmの亜角～亜円礫を混入。 2.80m以深、シルト混じり砂主体。 φ5～40mmの亜円礫を混入。暗褐色を呈する。																		

ボーリング柱状図

調査名 清柳園焼却施設解体実施設計委託 土壌汚染状況調査

ボーリングNo.

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	B2-5-2		調査位置	東京都清瀬市下宿2丁目555番地						北緯		
発注機関	柳泉園組合			調査期間	2021年9月13日～2021年9月16日				東経			
調査業者名	株式会社東和テクノロジー		主任技師	水江 安次郎	現場代理人	佐伯 亜由美	コア鑑定者	坂井 禎智	ボーリング責任者	高橋 勝也		
孔口標高	T.P. +23.717m	角	180° 上 90° 下 0°	方	北 0° 東 90° 西 270° 南 180°	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90°	使用機種	試験機	YBM ECO-1VIV	ハンマー 落下用具	
総掘進長	2.00m	度		向				エンジン			ポンプ	

標尺	層高	厚	深	柱状	土質	色	相対	相対	記	孔内水位 m / 測定月日	標準貫入試験						原位置試験 深 度 m	試験名 および結果	試料採取 深 度 m	採取 番号	採取 方法	室内試験 ()	掘進 月 日		
											10cm毎の 打撃回数		打撃回数 / 貫入量 cm	N 値											
											0	10		20	- ○ -										
m	m	m	m	図	埋土	褐			砂質土主体の埋土で成る。 0.10m付近、40mm大の土のう等腐 プラスチック類を混入。																
	23.57	0.15	0.15		埋土	黒灰			焼却灰主体の埋土で成る。 0.35m付近、30mm大の金属屑を混 入。																
	23.37	0.20	0.35																						
1					埋土	褐			礫混じりシルト質砂主体の埋土 で成る。 0.80～1.30m、角礫をやや多量に 混入。 1.40m以深、φ5～40mmの角～亜 角礫を含む砂質シルト主体。 ロームを不規則に混入。																
2	21.72	1.65	2.00																						

ボーリング柱状図

調査名 清柳園焼却施設解体実施設計委託 土壌汚染状況調査

ボーリングNo.											
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	B2-6			調査位置	東京都清瀬市下宿2丁目555番地						北緯	
発注機関	柳泉園組合				調査期間	2021年9月13日～2021年9月16日				東経		
調査業者名	株式会社東和テクノロジー		主任技師	水江 安次郎		現場代理人	佐伯 亜由美	コア鑑定者	坂井 禎智	ボーリング責任者	矢田部 睦樹	
孔口標高	T.P. +23.663m	角		方		地盤勾配		使用機種	HILTI TE3000-AVR		ハンマー 落下用具	
総掘進長	3.39m	度		向		配		エンジン		ポンプ		

標尺 m	層高 m	層厚 m	柱状 図	土質 区分	色調 調度	相対 稠度	相対 密度	記 事	孔内 水位 m ／ 測定 月日	標準貫入試験						原位置 試験 深度 m	試験名 および結果	試料採取 深度 m 試料 番号 採取 方法	室内試験 (掘進 月 日					
										10cm毎の 打撃回数		N 値 - O -	0	10	20					30	40	50	60	
										0	10													20
1				埋土	褐			<p>0.50mまで暗褐色の礫混じり砂主体の埋土で成る。 φ5～40mmの角礫を混入。 0.30～0.50m、焼却灰やや混じる。</p> <p>0.50～1.50m、暗褐色の礫混じり砂質シルト主体。 φ5～40mmの亜角～亜円礫を混入。</p> <p>1.50～2.30m、ロームを含む礫混じり粘土質シルト主体。 2.30～3.00m、暗褐色の砂質シルト主体。 φ5～20mmの亜角礫点在する。 3.00m以深、シルト混じり砂主体。</p> <p>砂は細粒で下位にしたがい混入量増加する。 φ5～10mmの亜角礫点在する。</p>																
2																								
3																								

ボーリング柱状図

調査名 清柳園焼却施設解体実施設計委託 土壌汚染状況調査

ボーリングNo.										
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名 _____

シートNo. _____

ボーリング名	B2-7-1		調査位置	東京都清瀬市下宿2丁目555番地				北緯			
発注機関	柳泉園組合			調査期間	2021年9月13日～2021年9月16日			東経			
調査業者名	株式会社東和テクノロジー		主任技師	水江 安次郎		現場代理人	佐伯 亜由美	コア鑑定者	坂井 禎智	ボーリング責任者	高橋 勝也
孔口標高	T.P. +23.520m	角		方	北 0° 東 90° 西 270° 南 180°	地盤勾配	水平 0°	使用機種	YBM ECO-1VIV	ハンマー	落下用具
総掘進長	8.56m	度		向				エンジン		ポンプ	

標尺	層高	厚	深	柱状	土質	色	相対	相対	記	孔内水位	標準貫入試験						原位置試験	試料採取	室内試験	掘進											
											深	10cm毎の 打撃回数	打撃回数 / 貫入量	N 値							深	試験名 および結果	深	試料 番号	採取 方法	掘進 月	掘進 日				
m	m	m	m	図	分	調	度	度	事	m	0	10	20	30	40	50	60	m		m											
	23.22	0.30	0.30		被覆				コンクリート : 0.20m 砕石 : 0.10m																						
1																															
2																															
3									2.75mまで硬混じり砂質シルト主体の埋土で成る。 φ5~40mmの角礫を混入。 1.60m以深、礫の混入量減少する。																						
4					埋土				2.25m付近、コア長60mmの玉石を混入。 2.75~3.80m、粘土質シルト主体 φ5~20mmの角礫・細砂・ロームを混入。 3.80~6.00m、暗灰色の粘土質シルト主体。 細~極細砂及びφ5~10mmの亜角礫を不規則に混入。 所々で多少の水分を含む。 4.50m以深、含水中~多い。 6.00~7.70m、シルト混じり砂礫主体。 平均礫径5mm、最大礫径50mmの亜角~円礫主体。 マトリックスは細砂。 含水多い。 6.00~6.20m、長さ200mmの木屑を混入。 7.25~7.35m、長さ100mmの木屑を混入。 7.70~7.80m、コンクリート。 7.80m以深、シルト質砂礫主体。	4.50																					
5																															
6																															
7																															
8	15.52	7.70	8.00		シルト質砂				極細粒主で含水中位。 8.15~8.25m、酸化物を含む砂質粘土を挟む。																						
	14.96	0.56	8.56																												

ボーリング柱状図

調査名 清柳園焼却施設解体実施設計委託 土壌汚染状況調査

ボーリングNo.

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名 _____

シートNo. _____

ボーリング名	B2-7-2	調査位置	東京都清瀬市下宿2丁目555番地						北緯		
発注機関	柳泉園組合			調査期間	2021年9月13日～2021年9月16日			東経			
調査業者名	株式会社東和テクノロジー		主任技師	水江 安次郎		現場代理人	佐伯 亜由美	コア鑑定者	坂井 禎智	ボーリング責任者	土肥 誠寛
孔口標高	T.P. +23.640m	角			地盤勾配	水平 0°	使用機種	ハンドオーガー		ハンマー落下用具	
総掘進長	0.80m	度			エンジン			ポンプ			

標尺	層高	厚	深	柱状図	土質	色	相対	相対	記	孔内水位 m / 測定月日	標準貫入試験						原位置試験 深 度 m	試験名 および結果	試料採取 深 度 m	採取 番号	採取 方法	室内試験 ()	掘進 月 日		
											10cm毎の 打撃回数	打撃回数 / 貫入量 cm	N 値 - 0 -												
m	m	m	m	図	被覆				コンクリート : 0.30m																
	23.34	0.30	0.30	X	埋土	褐			ロームを含む雑混じり砂主体の埋土で成る。 φ5～40mmの角礫を混入。 全体にやや締まっている。																
	22.84	0.50	0.80																						
1																									
2																									

ボーリング柱状図

調査名 清柳園焼却施設解体実施設計委託 土壌汚染状況調査

ボーリングNo.

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	B2-8	調査位置	東京都清瀬市下宿2丁目555番地						北緯		
発注機関	柳泉園組合			調査期間	2021年9月13日～2021年9月16日			東経			
調査業者名	株式会社東和テクノロジー		主任技師	水江 安次郎		現場代理人	佐伯 亜由美	コア鑑定者	坂井 禎智	ボーリング責任者	矢田部 睦樹
孔口標高	T.P. +23.566m	角			方	北 0° 東 90° 南 180° 西 270°	地盤勾配	水平 0°	使用機種	HILTI TE3000-AVR	
総掘進長	2.80m	度			向			エンジン	ハンマー 落下用具 ポンプ		

標尺	層高	厚	深	柱状図	土質	色	相対密度	相対稠度	記	孔内水位 m / 測定月日	標準貫入試験						原位置試験 深 度 m	試験名 および結果	試料採取 深 度 m	採取 番号	採取 方法	室内試験 ()	掘進 月 日						
											10cm毎の 打撃回数	打撃回数 / 貫入量 cm	N 値 - 0 -																
m	m	m	m	図	分	調	度	度	事		0	10	20	30	40	50	60												
1									0.55mまで雑混じり砂主体の埋土で成る。 φ5～40mmの角礫を混入。 暗灰色～褐色を呈する。 0.55～2.00m、ローム・砂質シルト混在する。 φ5～30mmの角～垂角礫を混入。 1.40～2.60m、粉碎されたφ20～40mmのコンクリート層を複数混入。 2.00m以深、暗褐色の砂質シルト主体。 φ10～30mmの角礫点在する。 2.35～2.75m、粘土質シルトを混入。 2.75～2.80m、粉碎されたφ5～30mmのコンクリート層を多数混入し、2.80m以深、掘削不能。																				
2																													
	20.77	2.80	2.80																										


ボーリング柱状図

調査名 清柳園焼却施設解体実施設計委託 土壌汚染状況調査

ボーリングNo.

事業・工事名 _____

シートNo. _____

ボーリング名	B2-8-1		調査位置	東京都清瀬市下宿2丁目555番地						北緯			
発注機関	柳泉園組合			調査期間	2021年9月13日～2021年9月16日			東経					
調査業者名	株式会社東和テクノロジー		主任技師	水江 安次郎	現場代理人	佐伯 亜由美	コア鑑定者	坂井 禎智	ボーリング責任者	矢田部 睦樹			
孔口標高	T.P. +23.566m	角			地盤勾配	水平 0°	使用機種	HILTI TE3000-AVR		ハンマー落下用具			
総掘進長	3.29m	度			エンジン			ポンプ					

標尺	層高	層厚	層深	柱状図	土質	色	相対	相対	記	孔内水位 m / 測定月日	標準貫入試験						原位置試験	試験名 および結果	試料採取	室内試験	掘進							
											10cm毎の 打撃回数	打撃回数 / 貫入量 cm	N 値									深	度	深	度	深	度	深
m	m	m	m	図	分	調	度	度	事		0	10	20	30	40	50	60	m			m	号	方	法	()	日		
1									0.50mまで暗灰色の礫混じり砂主体の埋土で成る。 φ5～30mmの角礫を混入。 0.15m付近、φ20mmのがれき類を混入。 0.50～1.75m、礫混じりローム主体。 φ5～30mmの角礫点在する。 1.75～3.00m、暗褐色の砂質シルト主体。 φ5～30mmの亜角～亜円礫を混入。 2.40～2.70m、褐色の砂質シルトを挟在する。 3.00m以深、シルト混じり砂主体。 砂は細～中粒主で粒径不均一。下位にしたがいシルトの混入量減少する。																			
2																												
3																												

ボーリング柱状図


調査名 清柳園焼却施設解体実施設計委託 土壌汚染状況調査


ボーリングNo.

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	B2-9-1		調査位置	東京都清瀬市下宿2丁目555番地						北緯	
発注機関	柳園組合			調査期間	2021年9月13日～2021年9月16日			東経			
調査業者名	株式会社東和テクノロジー		主任技師	水江 安次郎	現場代理人	佐伯 亜由美	コア鑑定者	坂井 禎智	ボーリング責任者	矢田部 睦樹	
孔口標高	T.P. +23.564m	角		方	北 0° 東 90° 南 180° 西 270°	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90°	使用機種	HILTI TE3000-AVR	ハンマー落下用具	
総掘進長	3.29m	度						エンジン		ポンプ	

標尺	層高	層厚	層深	柱状図	土質区分	色対調	相対稠度	相対密度	記号	孔内水位m / 測定月日	標準貫入試験						原位置試験	試験名および結果	試料採取	室内試験	掘進						
											深	10cm毎の打撃回数	打撃回数/貫入量cm	N 値								深	度	度	番号	方法	月
m	m	m	m	図	分	調	度	度	事	m	0	10	20	30	40	50	60	m		m							
1					埋土	褐			1.00mまで礫混じりシルト質砂主体の埋土で成る。 φ5～30mmの角礫を混入。 0.15m及び0.20m付近、発泡スチロール片等の廃プラスチック類を混入。 0.25mまで黒褐色を呈する。 0.30m付近、40mm大のスレート片等のがれき類を混入。 1.00～2.85m、ロームを含む礫混じり粘土質シルト主体。 φ5～30mmの角礫を混入。 2.00～2.20m、黒灰色のシルトを混入。 2.85m以深、礫混じりシルト質砂主体。 φ5～30mmの亜角～亜円礫を混入。 下位にしたがいシルトの混入量減少する。																		
2																											
3																											

ボーリング柱状図


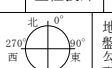
調査名 清柳園焼却施設解体実施設計委託 土壌汚染状況調査


ボーリングNo.

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	B3-1-2		調査位置	東京都清瀬市下宿2丁目555番地						北緯	
発注機関	柳泉園組合			調査期間	2021年9月13日～2021年9月16日				東経		
調査業者名	株式会社東和テクノロジー		主任技師	水江 安次郎	現場代理人	佐伯 亜由美	コア鑑定者	坂井 禎智	ボーリング責任者	高橋 勝也	
孔口標高	T.P. +23.473m	角		方		地盤勾配	水平 0°	使用機種	YBM ECO-1VIV	ハンマー 落下用具	
総掘進長	2.00m	度		向		鉛直	90°	エンジン		ポンプ	

標尺	層高	厚	深	柱状図	土質	色	相対密度	相対稠度	記	孔内水位 m / 測定月日	標準貫入試験						原位置試験 深 度 m	試験名 および結果	試料採取 深 度 m	採取 番号	採取 方法	室内試験 ()	掘進 月 日		
											10cm毎の 打撃回数	打撃回数 / 貫入重 cm	N 値 - 0 -												
m	m	m	m		埋土	黒褐			礫混じり砂主体の埋土で成る。 φ5～40mmの角礫を混入。 所々で固く締まっている。 0.50m付近、φ50mmのアスファルト層を混入。		0	10	20	30	40	50	60								
					埋土	黒褐			焼却灰主体の埋土で成る。 φ5～30mmの角礫及びφ2～10mmの燃え殻を混入。 所々でやや緩い。																
1																									
2																									

ボーリング柱状図



調査名 清柳園焼却施設解体実施設計委託 土壌汚染状況調査

ボーリングNo.

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	B3-2-1	調査位置	東京都清瀬市下宿2丁目555番地						北緯				
発注機関	柳泉園組合			調査期間	2021年9月13日～2021年9月16日			東経					
調査業者名	株式会社東和テクノロジー		主任技師	水江 安次郎		現場代理人	佐伯 亜由美	コア鑑定者	坂井 禎智	ボーリング責任者	奈良 卓		
孔口標高	T.P. +23.524m	角			方			地盤勾配	水平 0°	使用機種	HILTI TE3000-AVR	ハンマー落下用具	
総掘進長	3.25m	度			向			エンジン		ポンプ			

標尺	層高	層厚	層深	柱状図	土質	色	相対密度	相対稠度	相対調度	相対調度	記	孔内水位 m / 測定月日	標準貫入試験						原位置試験 深度 m	試験名 および結果	試料採取 深度 m	試料 番号	採取 方法	室内試験 ()	掘進 月日					
													10cm毎の 打撃回数	打撃回数 / 貫入 量 cm	N 値 - 〇 -															
m	m	m	m	図	被覆						コンクリート : 0.15m 砕石 : 0.10m																			
	23.27	0.25	0.25																											
1											1.00m付近まで礫混じり砂主体の埋土で成る。 φ5~40mmの角礫・ロームを混入。 1.00~2.60m、粘土質シルト主体。 φ5~20mmの角~垂角礫を混入。 2.60m以深、ロームを含む礫混じり砂質シルト主体。 φ5~30mmの垂角~垂円礫を混入。 3.10m以深、粉碎されたφ5~20mmのコンクリート層を混入。																			
2					埋土																									
3																														
	20.27	3.00	3.25																											

ボーリング柱状図

調査名 清柳園焼却施設解体実施設計委託 土壌汚染状況調査

ボーリングNo.										
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	B3-2-2	調査位置	東京都清瀬市下宿2丁目555番地				北緯				
発注機関	柳泉園組合			調査期間	2021年9月13日～2021年9月16日			東経			
調査業者名	株式会社東テクノロジー		主任技師	水江 安次郎		現場代理人	佐伯 亜由美 コア鑑定者		坂井 禎智	ボーリング責任者	高橋 勝也
孔口標高	T.P. +23.491m	角	180° 上 90° 下 0°	方	北 0° 東 90° 南 180° 西 270°		地盤勾配	水平 0° 鉛直 90°	使用機種	YBM ECO-1VIV	
総掘進長	2.00m	度		向		エンジン	ハンマー 落下用具		ポンプ		

標尺	層高	層厚	柱状図	土質	色	相対密度	相対稠度	記号	孔内水位m / 測定月日	標準貫入試験						原位置試験 試験名 および結果	試料採取 深度 試料 番号	採取方法	室内試験 ()	掘進 月 日						
										10cm毎の 打撃回数	打撃回数 / 貫入 量 cm	N 値 - ○ -									深度 m					
m	m	m	m					事	m	0	10	20	30	40	50	60	m	m								
1	22.79	0.70	0.70	埋土	黒褐色			礫混じり砂主体の埋土で成る。 φ5～40mmの角礫を混入。 0.45～0.60m、30～40mmの角礫 を複数混入。																		
2	21.49	1.30	2.00	埋土	黒褐色			焼却灰主体の埋土で成る。 φ5～10mmの角礫及びφ2～5mmの 燃え殻を混入。																		9/14

ボーリング柱状図



調査名 清柳園焼却施設解体実施設計委託 土壌汚染状況調査

ボーリングNo.

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	B3-3-1			調査位置	東京都清瀬市下宿2丁目555番地							北緯			
発注機関	柳泉園組合				調査期間	2021年9月13日～2021年9月16日						東経			
調査業者名	株式会社東和テクノロジー			主任技師	水江 安次郎		現場代理人	佐伯 亜由美		コア鑑定者	坂井 禎智		ボーリング責任者	奈良 卓	
孔口標高	T.P. +23.513m	角			方			地盤勾配	水平 0°		使用機種	HILTI TE3000-AVR			
総掘進長	3.25m		度			向			エンジン	ハンマー 落下用具 ポンプ					

標尺	層高	層厚	柱状図	土質区分	色調	相対密度	相対稠度	記号	孔内水位 m / 測定月日	標準貫入試験							原位置試験 深度 m	試験名 および結果	試料採取 深度 m	試料番号	採取方法	室内試験 () 月 日	掘進							
										10cm毎の 打撃回数		N 値																		
										0	10	20	30	40	50	60														
m	m	m	m	m	m	m	m	m	m	0	10	20	30	40	50	60	m	m	m	m	m	m	m	m	m	m	m	m	m	
	23.26	0.25	0.25	被覆				0.20m 砕石 0.05m																						
1				埋土	褐			0.90mまで雑混じりシルト質砂主体の埋土で成る。 φ5~40mmの角~亜角礫・ロームを混入。 0.90~2.50m、雑混じり粘土質シルト主体。 φ5~30mmの角礫を混入。 2.50m以降、雑混じり砂主体。 φ5~40mmの角~亜角礫を混入。 2.80mまで暗褐色を呈する。 2.95~3.00m及び3.20~3.25m、シルトを混入。																						
2																														
3																														
	20.26	3.00	3.25																											

ボーリング柱状図



調査名 清柳園焼却施設解体実施設計委託 土壌汚染状況調査


ボーリングNo.

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	B3-5		調査位置	東京都清瀬市下宿2丁目555番地						北緯	
発注機関	柳泉園組合				調査期間	2021年9月13日～2021年9月16日				東経	
調査業者名	株式会社東和テクノロジー		主任技師	水江 安次郎		現場代理人	佐伯 亜由美	コア鑑定者	坂井 禎智	ボーリング責任者	高橋 勝也
孔口標高	T.P. +23.387m	角		方		地盤勾配	水平 0°	使用機種	YBM ECO-1VIV		ハンマー 落下用具
総掘進長	2.00m	度		向		鉛直	90°	エンジン			ポンプ

標尺	層高	層厚	柱状図	土質	色	相対密度	相対稠度	記	孔内水位 m / 測定月日	標準貫入試験						原位置試験 深 度 m	試験名 および結果	試料採取 深 度 m	採取 番号	採取 方法	室内試験 ()	掘進 月 日		
										10cm毎の 打撃回数	打撃回数 / 貫入量 cm	N 値 - 0 -												
m	m	m		埋土	暗褐色			雑混じり砂主体の埋土で成る。 φ5～40mmの角礫を混入。 全体に絡まっている。 0.50m付近、コア長60mmの玉石を混入。		0	10	20	30	40	50	60								
1				埋土	黒炭			焼却灰主体の埋土で成る。 φ5～30mmの角礫、φ2～10mmの 燃え殻を混入。 0.90～1.50m、長さ30～40mmの廃 プラスチック類、20mm大のガラ ス屑点在する。 1.70m以深、φ5～10mmの褐色を 呈す燃え殻を多数混入。																
2																								


ボーリング柱状図


調査名 清柳園焼却施設解体実施設計委託 土壌汚染状況調査

ボーリングNo.									
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	B3-6		調査位置	東京都清瀬市下宿2丁目555番地					北緯	
発注機関	柳泉園組合			調査期間	2021年9月13日～2021年9月16日			東経		
調査業者名	株式会社東テクノロジ		主任技師	水江 安次郎	現場代理人	佐伯 亜由美	コア鑑定者	坂井 禎智	ボーリング責任者	高橋 勝也
孔口標高	T.P. +23.350m	角		方	北 0° 東 90° 南 180° 西 270°	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90°	使用機種	試験機	ハンマー 落下用具
総掘進長	2.00m	度						エンジン		ポンプ

標尺	層高	層厚	層深	柱状図	土質	色	相対密度	相対稠度	相対湿度	記	孔内水位 m / 測定月日	標準貫入試験						原位置試験 深 度 m	試験名 および結果	試料採取 深 度 m	採取 番号	採取 方法	室内試験 ()	掘進 月 日				
												10cm毎の 打撃回数		N 値 - 〇 -	深 度 m	深 度 m	深 度 m								深 度 m	深 度 m	深 度 m	深 度 m
												0	10															
	22.95	0.40	0.40		埋土	暗褐色				ローム少量を含む雑混じり砂主体の埋土で成る。φ5～40mmの角礫を混入。全体に締まっている。																		
1					埋土	黒灰				焼却灰主体の埋土で成る。φ5～30mmの角礫、φ1～10mmの燃え殻を混入。0.55m付近、30mm大の陶磁器層を混入。1.50m以深、40～50mm大の廃プラスチック類及び20～30mm大のガラス層を複数混入。																		
	21.55	1.40	1.80		埋土	褐色				雑混じりシルト質砂主体の埋土で成る。																		
2	21.35	0.20	2.00																									

ボーリング柱状図



調査名 清柳園焼却施設解体実施設計委託 土壌汚染状況調査



ボーリングNo.

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	B3-9	調査位置	東京都清瀬市下宿2丁目555番地						北緯		
発注機関	柳泉園組合			調査期間	2021年9月13日～2021年9月16日			東経			
調査業者名	株式会社東テクノロジ		主任技師	水江 安次郎		現場代理人	佐伯 亜由美	コア鑑定者	坂井 禎智	ボーリング責任者	高橋 勝也
孔口標高	T.P. +23.160m	角		方		地盤勾配	水平 0°	使用機種	YBM ECO-1VIV	ハンマー	落下用具
総掘進長	2.00m	度		向				エンジン		ポンプ	

標尺	層高	厚	深	柱状図	土質	色	相対密度	相対稠度	記	孔内水位m / 測定月日	標準貫入試験						原位置試験	試料採取	室内試験	掘進									
											10cm毎の打撃回数	打撃回数/貫入量cm	N 値								深	試験名	深	採取方法	月	日			
m	m	m	m						事		0	10	20	30	40	50	60	m		m									
	22.81	0.35	0.33		埋土	暗褐色			ローム少量を含む雑混じり砂主体の埋土で成る。 φ5～40mmの角礫を混入。 全体に締まっている。																				
1					埋土	黒灰			焼却灰主体の埋土で成る。 φ1～10mmの燃え殻を混入。 0.60m付近までローム少量を混入。 0.80m付近、φ1mm、長さ40mmの金属屑を混入。 0.80～0.90m、黄色粉を所々混入。																				
2	21.16	1.65	2.00																										

ボーリング柱状図



調 査 名 清柳園焼却施設解体実施設計委託 土壌汚染状況調査





ボーリングNo.

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	C2-3	調査位置	東京都清瀬市下宿2丁目555番地						北 緯		
発注機関	柳泉園組合			調査期間	2021年9月13日～2021年9月16日			東 経			
調査業者名	株式会社東和テクノロジー		主任技師	水江 安次郎		現場代理人	佐伯 亜由美	コア鑑定者	坂井 禎智	ボーリング責任者	高橋 勝也
孔口標高	T.P. +23.647m	角		方		地盤勾配	水平 0°	使用機種	YBM ECO-1VIV	ハンマー落下用具	
総掘進長	2.00m	度		向				エンジン		ポンプ	

標 尺	層 高	厚 度	柱 状 図	土 質 区 分	色 調	相 対 密 度	相 対 調 度	記 事	孔内水位 m / 測定月日	標準貫入試験						原位置試験 深 度 m	試験名 および結果	試料採取 深 度 m	採取 番 号	採取 方 法	室内試験 ()	掘 進 月 日	
										10cm毎の 打撃回数	打撃回数 / 貫入量 cm	N 値 - 0 -											
	23.55	0.10		埋土	暗褐色			砂質土主体の埋土で成る。															
	23.45	0.10		埋土	黒灰			黒灰色の焼却灰主体の埋土で成る。															
1				埋土	褐色			礫混じりシルト質砂主体の埋土で成る。 φ5～60mmの角～亜円礫を混入。 1.45m以深、ローム少量を不規則に混入。 1.70m付近、70mm大の玉石を混入。															
2	21.65	1.80																					

ボーリング柱状図

調査名 清柳園焼却施設解体実施設計委託 土壌汚染状況調査

ボーリングNo.											
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	C2-5		調査位置	東京都清瀬市下宿2丁目555番地				北緯		
発注機関	柳園組合			調査期間	2021年9月13日～2021年9月16日			東経		
調査業者名	株式会社東和テクノロジー		主任技師	水江 安次郎	現場代理人	佐伯 亜由美	コア鑑定者	坂井 禎智	ボーリング責任者	高橋 勝也
孔口標高	T. P. +23.655m	角	180° 上 90° 下 0°	方	北 0° 270° 西 180° 南	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90°	使用機種	YBM ECO-1VIV	ハンマー 落下用具
総掘進長	0.75m	度		向				エンジン		ポンプ

標尺	層高	厚度	深度	柱状図	土質	色	相対	相対	相対	相対	相対	相対	相対	標準貫入試験										原位置試験	試料採取			室内試験	掘進							
														深	10cm毎の打撃回数	打撃回数/貫入量	N 値										深			試験名	深	試料番号	採取方法			
m	m	m	m	m																																
	23.56	0.10	0.10		被覆																															
					埋土	黒灰																														
	23.41	0.15	0.25																																	
					埋土	暗褐色																														
	22.91	0.50	0.75																																	
1																																				
2																																				

ボーリング柱状図

調査名 清柳園焼却施設解体実施設計委託 土壌汚染状況調査

ボーリングNo.

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	C2-6-1	調査位置	東京都清瀬市下宿2丁目555番地						北緯	
発注機関	柳泉園組合			調査期間	2021年9月13日～2021年9月16日			東経		
調査業者名	株式会社東和テクノロジー		主任技師	水江 安次郎	現場代理人	佐伯 亜由美	コア鑑定者	坂井 禎智	ボーリング責任者	高橋 勝也
孔口標高	T.P. +23.502m	角			地盤勾配	水平 0°		使用機種	ハンマー落下用具	
総掘進長	0.90m	度			試錐機	ハンドオーガー		エンジン	ポンプ	

標尺	層高	厚	深	柱状	土質	色	相対	相対	記	孔内水位 m / 測定月日	標準貫入試験						原位置試験 深 度 m	試験名 および結果	試料採取 深 度 m	採取 番号	採取 方法	室内試験 ()	掘進 月 日		
											10cm毎の 打撃回数	打撃回数 / 貫入量 cm	N 値 - 0 -												
m	m	m	m	図	埋土	暗褐色			礫混じり砂主体の埋土で成る。木根・φ5～30mmの角礫を混入。0.10m付近、50mm大の腐プラスチック類を混入。0.40m以深、フォーム少量を混入。0.75m付近、10mm大の陶磁器片を混入。																
1	22.60	0.30	0.30																						
2																									

ボーリング柱状図

調 査 名 清柳園焼却施設解体実施設計委託 土壌汚染状況調査

ボーリングNo.

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	C2-6-2	調査位置	東京都清瀬市下宿2丁目555番地						北 緯		
発注機関	柳泉園組合			調査期間	2021年9月13日～2021年9月16日			東 経			
調査業者名	株式会社東テクノロジ		主任技師	水江 安次郎		現場代理人	佐伯 亜由美	コア鑑定者	坂井 禎智	ボーリング責任者	高橋 勝也
孔口標高	T.P. +23.654m	角	180° 上 90° 下 0°	方	北 0° 東 90° 西 270° 南 180°	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90°	使用機種	試験機	YBM ECO-1VIV	
総掘進長	2.00m	度		向				ハンマー	落下用具	ポンプ	
								エンジン			

標 尺	標 高	層 厚	深 度	柱 状 図	土 質 区 分	色 対 調	相 対 密 度	相 対 稠 度	記 事	孔内水位 m / 測定月日	標準貫入試験						原位置試験 深 度 m	試験名 および結果	試料採取 深 度 m	採取 番 号	採取 方 法	室内試験 ()	掘 進 月 日				
											10cm毎の 打撃回数		打撃 回数 / 貫入 量 cm	N 値													
											0	10		20	- ○ -												
	23.25	0.40	0.40		埋土	褐			礫混じり砂主体の埋土で成る。 φ5~30mmの角礫を混入。 0.30m以深、φ30~50mmの土のう やゴム等の腐プラスチック類を 複数混入。																		
	22.85	0.40	0.80		埋土	黒灰			焼却灰主体の埋土で成る。 φ5~30mmの角礫を混入。																		
1	22.35	0.50	1.30		埋土	褐			礫混じり砂質シルト主体の埋土 で成る。																		
	22.15	0.20	1.50		埋土	暗灰			焼却灰主体の埋土で成る。 φ5~20mmの角礫を混入。																		
2	21.65	0.50	2.00		埋土	褐			礫混じり砂質シルト主体の埋土 で成る。 φ5~40mmの亜角礫及びロームを 混入。																		

ボーリング柱状図



調査名 清柳園焼却施設解体実施設計委託 土壌汚染状況調査


ボーリングNo.

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	C3-3	調査位置	東京都清瀬市下宿2丁目555番地						北緯	
発注機関	柳泉園組合			調査期間	2021年9月13日～2021年9月16日			東経		
調査業者名	株式会社東和テクノロジー		主任技師	水江 安次郎	現場代理人	佐伯 亜由美	コア鑑定者	坂井 禎智	ボーリング責任者	高橋 勝也
孔口標高	T.P. +23.591m	角		方		地盤勾配	水平 0°	使用機種	ハンドオーガー	ハンマー落下用具
総掘進長	0.90m	度		向		90°		エンジン		ポンプ

標尺	層高	厚	深	柱状図	土質	色	相対密度	相対稠度	記	孔内水位 m / 測定月日	標準貫入試験						原位置試験 深 度 m	試験名 および結果	試料採取 深 度 m	採取 番号	採取 方法	室内試験 ()	掘進 月 日			
											10cm毎の 打撃回数	打撃回数 / 貫入量 cm	N 値 - 0 -													
	23.19	0.40	0.40		埋土	暗褐色			木根を含む礫混じり砂主体の埋土で成る。 φ5～30mmの角礫を混入。		0	10	20	30	40	50	60									
	22.69	0.50	0.90		埋土	黒灰			焼却灰主体の埋土で成る。 0.75mよりローム少量を混入。																	
1																										
2																										

ボーリング柱状図

調査名 清柳園土壌汚染追加調査委託

ボーリングNo.										
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	A2-4-1		調査位置	東京都清瀬市下宿2丁目555番地				北緯			
発注機関	柳泉園組合			調査期間	2022年6月20日～2022年7月9日			東経			
調査業者名	株式会社東和テクノロジー		主任技師	水江 安次郎	現場代理人	佐伯 亜由美	コア鑑定者	坂井 禎智	ボーリング責任者	榎本 継	
孔口標高	T. P. +23.56m	角 上 180° 下 0°	方 向	北 0° 東 90° 西 270° 南 180°	地盤勾配 鉛直	水平 0°	使用機種	YBM ECO-1VⅢ		ハンマー 落下用具	
総掘進長	1.70m	度					エンジン			ポンプ	

標尺	層高	層厚	深度	柱状図	土質	色	相對密度	相對稠度	記	孔内水位 m / 測定月日	標準貫入試験						原位置試験 深度 m	試験名 および結果	試料採取 深度 m	採取 番号	採取 方法	室内試験 ()	掘進 月 日			
											10cm毎の 打撃回数		打撃 回数 / 貫入 深 cm	N 値												
											0	10		20	- ○ -											
1	21.86	1.70	1.70	埋土	暗褐色				1.00mまで礫混じり砂質シルト主体の埋土で成る。 φ5～50mmの角礫を混入。 所々でやや締まっている。 1.00m以深、φ15mmの鉄筋を含むコンクリート。 1.70m以深、掘削不能。																	
2																										
3																										
4																										
5																										

ボーリング柱状図

調査名 清柳園土壌汚染追加調査委託

ボーリングNo.															
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	A2-4-2		調査位置	東京都清瀬市下宿2丁目555番地						北緯	
発注機関	柳泉園組合				調査期間	2022年6月20日～2022年7月9日				東経	
調査業者名	株式会社東和テクノロジー		主任技師	水江 安次郎		現場代理人	佐伯 亜由美	コア鑑定者	坂井 禎智	ボーリング責任者	榎本 継
孔口標高	T.P. +23.49m	角	180° 上	方	北 0° 西 270°	地盤勾配	水平 0°	使用機種	YBM ECO-1VⅢ		ハンマー 落下用具
総掘進長	5.00m	度	90°	向	東 90° 南 180°	鉛直	90°	エンジン			ポンプ

標尺	層高	層厚	層度	柱状図	土質	色	相對密度	相對稠度	記	孔内水位 m / 測定月日	標準貫入試験					原位置試験 試験名 および結果	試料採取 深度 m	採取方法	室内試験 ()	掘進 月日					
											10cm毎の 打撃回数	打撃回数 / 貫入 深 cm	N 値 - 0 -												
	23.19	0.30	0.30		埋土	黒褐色			黒ボク土主体の埋土で成る。 φ5～20mmの角礫、80mm穴の赤レンガ層を混入。																
1	21.89	1.30	1.60		埋土	黒灰色			焼却灰主体の埋土で成る。 φ2～10mmの燃え殻、φ10mmのガラス屑、φ5～20mmの角礫を混入。																
2					埋土	褐色			礫混じり砂質シルト主体の埋土で成る。 ローム及びφ5～40mmの角～亜角礫を混入。																
3	20.29	1.60	3.20		礫混じり砂	灰褐色			極細～細粒主でφ5～40mmの円礫を混入。																
4	19.79	0.50	3.70		砂礫	褐色			平均礫径5mm、最大礫径40mmの円礫主体。 マトリックスは細砂。 所々でやや固く締まっている。	4.75															
5	18.49	1.30	5.00																						

ボーリング柱状図

調査名 清柳園土壌汚染追加調査委託

ボーリングNo.										
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	A2-4-3		調査位置	東京都清瀬市下宿2丁目555番地				北緯				
発注機関	柳泉園組合				調査期間	2022年6月20日～2022年7月9日			東経			
調査業者名	株式会社東テクノロジ		主任技師	水江 安次郎		現場代理人	佐伯 亜由美	コア鑑定者	坂井 禎智		ボーリング責任者	榎本 継
孔口標高	T.P. +23.34m	角			地盤勾配	水平 0°		使用機種	YBM ECO-1VⅢ		ハンマー	落下用具
総掘進長	10.00m	度			エンジン			ポンプ				

標尺	層厚	深度	柱状図	土質	色	相対密度	相対稠度	記述	孔内水位 m / 測定月日	標準貫入試験				原位置試験	試験名 および結果	試料採取 深度 m	採取 番号	採取 方法	室内試験 ()	掘進 月日
										10cm毎の 打撃回数	打撃回数 / 貫入 深 cm	N 値 - ○ -								
23.23	0.10	0.10		埋土	黒褐色			雑混じり砂主体の埋土で成る。 φ5～10mmの角礫を混入。												
22.89	0.35	0.45		埋土	黒灰			焼却灰主体の埋土で成る。 φ2～10mmの燃え殻、角礫、50mm 大の金属屑、80mm大の繊維屑を 混入。												
20.19	2.70	3.15		埋土	褐色			雑混じり砂質シルト主体の埋土 で成る。 φ5～40mmの角～重円礫を混入。 2.30～2.70m、暗褐色から成る。 2.70m以深、砂や礫の混入量増加 する。												
19.69	0.50	3.65		雑混じり 砂	褐色			極細～細粒主で、粒径不均一。 φ5～40mmの円礫を混入。												
18.73	0.95	4.60		砂礫	灰褐色			平均礫径5mm、最大礫径40mmの円 礫主体。 マトリックスは細砂。 4.50m付近、60mm大の玉石を混入 。												
14.94	3.80	8.40		シルト質砂 礫	褐色			平均礫径10mm、最大礫径50mmの 円礫主体。 マトリックスは細砂。 5.60m以深、含水中～多い。 7.00～7.40m、暗褐色から成り、 やや固く締まっている。 8.00m以深、シルト質砂の混入量 増加する。												
13.34	1.60	10.00		シルト質砂	褐色			極細粒主で粒径均一。 含水多い。 9.45～9.60m、黄褐色の粘土を挟 在する。 9.65～9.70m、細～中砂を帯状に 混入。												

ボーリング柱状図

調査名 清柳園土壌汚染追加調査委託

ボーリングNo.																				
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	A2-8		調査位置	東京都清瀬市下宿2丁目555番地						北緯			
発注機関	柳泉園組合				調査期間	2022年6月20日～2022年7月9日				東経			
調査業者名	株式会社東和テクノロジー		主任技師	水江 安次郎		現場代理人	佐伯 亜由美	コア鑑定者	坂井 禎智	ボーリング責任者	上野 真規		
孔口標高	T.P. +23.12m	角			方			地盤勾配	水平 0°	使用機種	YBM ECO-3V	ハンマー	落下用具
総掘進長	10.00m	度			向			鉛直	90°	エンジン		ポンプ	

標尺	層厚	深度	柱状図	土質	色	相対密度	相対稠度	記	孔内水位 m / 測定月日	標準貫入試験				原位置試験		試料採取		室内試験 ()	掘進 月日	
										10cm毎の 打撃回数	打撃回数 / 貫入 深さ cm	N 値 - O -	深 度 m	深 度 m	深 度 m	採 取 方 法				
1	0.60	0.60		埋土	暗褐色			0.10mまで礫混じり砂主体の埋土で成る。 φ10mmの角礫を混入。 0.10m以深、礫混じり砂主体の埋土で成る。 φ10～40mmの角礫及び少量の焼却灰を混入。												
1	0.45	1.05		埋土	黒灰			焼却灰主体の埋土で成る。 φ2～10mmの燃え殻や角礫を混入。												
2				埋土	暗褐色			礫混じり砂質シルト主体の埋土で成る。 φ5～50mmの角～歪角礫を混入。 2.30mまで所々でやや固く締まっている。 3.00m以深、礫の混入量増加する。												
4	2.55	3.60		砂礫	灰褐色			平均礫径5mm、最大礫径40mmの円礫主体。 マトリックスは細～極細砂。 全体にやや締まっている。												
5	1.50	5.10		シルト質砂礫	褐色			平均礫径10mm、最大礫径50mmの円礫主体。 マトリックスは細砂。 4.70m以深、含水中～多い。 5.95m付近、コア長60mmの玉石を混入。 6.10m以深、シルトを所々やや多量に混入、暗褐色から成る。												
8	2.60	7.70		シルト混じり砂礫	灰褐色			平均礫径5mm、最大礫径40mmの円礫主体。 マトリックスは細砂。 含水多い。 7.70m以深、シルトの混入量増加する。												
9	1.55	9.25		シルト質砂	褐色			極細粒主で粒径均一。 含水多い。 8.60～8.70m、9.10～9.20m及び9.40～9.50m、中～粗砂を混入。 9.70m以深、シルトの混入量増加する。												
10	0.75	10.00		シルト質砂	褐色															

ボーリング柱状図

調査名 清柳園土壌汚染追加調査委託

ボーリングNo.																				
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	A3-2		調査位置	東京都清瀬市下宿2丁目555番地						北緯			
発注機関	柳泉園組合				調査期間	2022年6月20日～2022年7月9日				東経			
調査業者名	株式会社東テクノロジー		主任技師	水江 安次郎		現場代理人	佐伯 亜由美	コア鑑定者	坂井 禎智	ボーリング責任者	上野 真規		
孔口標高	T.P. +23.25m	角			方			地盤勾配	水平 0°	使用機種	YBM ECO-3V	ハンマー	落下用具
総掘進長	10.00m	度			向			90°		エンジン		ポンプ	

標尺	層高	層厚	層深	柱状	土質	色	相対	相対	記	孔内水位 m / 測定月日	標準貫入試験				原位置試験		試料採取		室内試験 ()	掘進 月日
											10cm毎の 打撃回数	打撃回数 / 貫入基 cm	N 値 - O -	深 度 m	深 度 m	深 度 m	採 取 方 法			
0	0.00	0.00	0.00		埋土	暗褐色			雑混じり砂質シルト主体の埋土で成る。 φ5～50mmの角礫を混入。											
1	22.75	0.45	0.50		埋土	黒灰～暗褐色			0.30mまで黒灰色の焼却灰主体の埋土で成る。 0.30m以深、黒灰色の焼却灰、暗褐色の雑混じり砂質シルトが混在する。											
2	21.20	1.55	2.05		埋土	暗褐色			雑混じり砂質シルト主体の埋土で成る。 φ5～50mmの角礫を混入。											
3	20.45	0.70	2.80		埋土	黒灰			焼却灰主体の埋土で成る。											
4	19.85	0.60	3.40		雑混じり砂	褐色			細～極細粒主で粒径不均一。 φ5～20mmの円礫を混入。											
5	18.15	1.70	5.10		砂礫	灰褐色			平均礫径5～10mm、最大礫径40mmの円礫主体。 マトリックスは細砂。 3.50～4.25m、シルト少量を含む雑混じり砂を挟在する。 4.40m以深、含水中～多い。	4.42										
6	15.85	2.30	7.40		シルト質砂礫	褐色			平均礫径10mm、最大礫径50mmの円礫主体。 マトリックスは細砂。 含水多い。 5.30m及び6.65m、コア長50mmの玉石を混入。 6.65m以深、やや固く締まっている。											
7	15.15	0.70	8.10		シルト質砂	褐色			極細～細粒主で粒径不均一。 φ10～20mmの円礫点在する。 含水中位。											
8	13.25	1.90	10.00		シルト混じり砂	灰褐色			極細粒主で含水中～多い。 8.80～9.20m、細砂を所々ブロック状に混入。 9.80m以深、シルトの混入量増加する。											
9																				
10																				

ボーリング柱状図

調査名 清柳園土壌汚染追加調査委託

ボーリングNo.

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名 _____

シートNo. _____

ボーリング名	A3-4	調査位置	東京都清瀬市下宿2丁目555番地					北緯								
発注機関	柳泉園組合				調査期間	2022年6月20日～2022年7月9日				東経						
調査業者名	株式会社東和テクノロジー		主任技師	水江 安次郎		現場代理人	佐伯 亜由美	コア鑑定者	坂井 禎智		ボーリング責任者	榎本 継				
孔口標高	T. P. +23.21m	角			方			地盤勾配	水平 0°		使用機種	YBM ECO-1VⅢ		ハンマー落下用具		
総掘進長	4.00m	度			向			配			エンジン			ポンプ		

標尺	層高	厚	深	柱状図	土質	色	相対密度	相対稠度	記	孔内水位m / 測定月日	標準貫入試験					原位置試験		試料採取		掘進 月 日		
											深	10cm毎の打撃回数		N 値	深	試験名および結果	深	試料番号	採取方法			
												0	10								20	30
	22.91	0.30	0.30		埋土	暗褐色			礫混じりシルト質砂主体の埋土で成る。 φ5～40mmの角礫を混入。													
1	22.01	0.99	1.29		埋土	黒灰			焼却灰主体の埋土で成る。 φ2～10mmの燃え殻、φ5～50mmの角礫を混入。													
2	20.51	1.50	2.79		埋土	暗褐色			礫混じり砂質シルト主体の埋土で成る。 φ5～50mmの角礫を混入。 2.20～2.40m、φ5～60mmの緑色ビニール層等の廃プラスチック類を複数混入。													
3	19.91	0.60	3.39		礫混じり砂	褐色			極細～細粒主で粒径不均一。 φ5～30mmの円礫を混入。													
4	19.21	0.70	4.09		砂礫	灰褐色			平均礫径5～10mm、最大礫径50mmの円礫主体。 マトリックスは細砂。 所々でやや固く締まっている。													
5																						

ボーリング柱状図

調査名 清柳園土壌汚染追加調査委託

ボーリングNo.

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	B2-4-1		調査位置	東京都清瀬市下宿2丁目555番地						北緯					
発注機関	柳泉園組合				調査期間	2022年6月20日～2022年7月9日				東経					
調査業者名	株式会社東和テクノロジー		主任技師	水江 安次郎		現場代理人	佐伯 亜由美	コア鑑定者	坂井 禎智	ボーリング責任者	高橋 勝也				
孔口標高	T.P. +23.61m	角			方			地盤勾配	水平 0°	使用機種	HILTI TE3000-AVR		ハンマー落下用具		
総掘進長	10.00m	度			向			鉛直	90°	エンジン			ポンプ		

標尺	層厚	深度	柱状図	土質	色	相対密度	相対稠度	記	孔内水位 m / 測定月日	標準貫入試験						原位置試験	試料採取	室内試験	掘進					
										10cm毎の 打撃回数	打撃回数 / 貫入 深さ cm	N 値								深度	試験名 および結果	深度	採取 方法	月
m	m	m	図	分	調	度	度	事	m	0	10	20	30	40	50	60	m	m	号	方	法	日		
1								1.00mまで礫混じり砂主体の埋土で成る。 φ5～30mmの角礫、木根等の植物層を混入。 1.00m以深、礫混じり砂質シルト主体。 φ5～40mmの角～亜角礫を混入。 1.30mまでφ5～10mmのガラス屑を複数混入。 1.40～1.70m、長さ100mmの木屑を複数混入。 3.90m以深、多少の水分を含み、暗褐色から成る。 4.70mまでは所々やや緩い。 5.00mより長さ50～70mmの木屑を所々混入。 含水中～多い。 8.30m以深、灰褐色の10～30mm大の亜円～円礫を混入。																
2																								
3																								
4																								
5																								
6																								
7		16.81	6.88	6.83																				
8		15.91	0.90	7.70																				
9		14.41	1.50	9.23																				
10		13.61	0.88	10.00																				

ボーリング柱状図

調査名 清柳園土壌汚染追加調査委託

ボーリングNo.

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	B2-4-2		調査位置	東京都清瀬市下宿2丁目555番地						北緯					
発注機関	柳泉園組合				調査期間	2022年6月20日～2022年7月9日				東経					
調査業者名	株式会社東テクノロジ		主任技師	水江 安次郎		現場代理人	佐伯 亜由美	コア鑑定者	坂井 禎智	ボーリング責任者	榎本 継				
孔口標高	T.P. +23.68m	角			方			地盤勾配	水平 0°	使用機種	YBM ECO-1VⅢ		ハンマー	落下用具	
総掘進長	6.00m	度			向			鉛直	90°	エンジン			ポンプ		

標尺	層高	層厚	層深	柱状図	土質	色	相対密度	相対稠度	相対含水量	記	孔内水位 m / 測定月日	標準貫入試験						原位置試験		試料採取			掘進 月日						
												10cm毎の打撃回数		打撃回数/貫入量		N値		深	試験名および結果	深	試料番号	採取方法							
												0	10	20	30	40	50							60	度	度	号	法	
	23.43	0.25	0.25	X	埋土	黒褐				礫混じり砂主体の埋土で成る。 φ5～40mmの角礫を混入。 0.20m付近、30mm大のガラス屑、 100mm大の繊維層を混入。 施却灰主体の埋土で成る。 φ2～10mmの燃え殻や角礫を混入																			
	23.13	0.30	0.55	X	埋土	黒灰																							
1				X																									
2				X																									
3				X	埋土	暗褐灰				礫混じり砂質シルト主体の埋土で成る。 φ5～40mmの角礫を混入。 1.20m付近まで褐灰色から成り、 所々で締まっている。 2.00～2.50m、ロームを不規則に 少量混入。 3.40m以深、所々で多少の水分を 含む。 4.30mより、礫の混入量増加する。																			
4				X																									
5	19.18	3.95	4.50	X	砂礫	褐				平均礫径5mm、最大礫径40mmの円礫主体。 マトリックスは細砂。 4.80m以深、含水中位。	4.80																		
6	18.68	0.50	5.00	X	シルト質砂礫	褐				平均礫径10mm、最大礫径50mmの円礫主体。 マトリックスは細砂。 含水中位で、所々やや固く締まっている。																			
7				X																									
8				X																									
9				X																									
10				X																									

ボーリング柱状図

調査名 清柳園土壌汚染追加調査委託

ボーリングNo.															
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	B2-6		調査位置	東京都清瀬市下宿2丁目555番地						北緯						
発注機関	柳泉園組合				調査期間	2022年6月20日～2022年7月9日				東経						
調査業者名	株式会社東和テクノロジー		主任技師	水江 安次郎		現場代理人	佐伯 亜由美	コア鑑定者	坂井 禎智	ボーリング責任者	榎本 継					
孔口標高	T.P. +23.66m	角			方位			地盤勾配	水平 0°		使用機種	試験機	YBM ECO-1VⅢ		ハンマー	落下用具
総掘進長	10.00m	度			向			度			エンジン			ポンプ		

標尺	層高	厚	深	柱状	土質	色	相対	相対	記	孔内水位	標準貫入試験						原位置試験	試料採取			室内試験	掘進										
											深	10cm毎の打撃回数	打撃回数/貫入量	N 値				深	試験名	深			試料	採取	度	番号	方法	月	日			
m	m	m	m	図	区	調	度	度	事	m	0	10	20	30	40	50	60	m	および結果	m												
									1.00mまで礫混じりシルト主体の粘土で成る。黒褐色から成る。φ5～50mmの角礫・少量の砂を混入。0.20～0.30m、100mm大の繊維屑を混入。0.90m付近、50mm大の鹿プラスチック類を複数混入。1.00m以深、礫混じり砂質シルト主体。褐色から成る。φ5～30mmの角～円礫、ロームを混入。1.00m付近、コア長70mmの玉石を混入。1.00～1.70m及び2.50～3.10m、暗褐色から成る。3.10m以深、砂の混入量増加する。																							
	19.96	3.70	3.70		礫混じり砂	褐			極細～細粒主でφ5～30mmの円礫を混入。																							
	19.66	0.30	4.0		シルト混じり砂礫	灰褐			平均礫径10mm、最大礫径50mmの円礫主体。マトリックスは細砂。4.90m以深、含水中～多い。	4.85																						
	18.36	1.30	5.30		シルト質砂礫	褐			平均礫径10mm、最大礫径50mmの円礫主体。マトリックスは細砂。含水中～多い。7.20m付近まで所々でやや固く締まっている。																							
	15.56	2.80	8.10		シルト質砂	褐灰			極細粒主で含水多い。8.40mまでφ5～20mmの円礫を混入。9.25～9.35m、シルトを挟在する。9.65m以深、シルトの混入量増加する。																							
	13.66	1.90	10.00																													

ボーリング柱状図

調 査 名 清柳園土壌汚染追加調査委託

ボーリングNo.																			
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	B2-6-1			調査位置	東京都清瀬市下宿2丁目555番地						北緯						
発注機関	柳泉園組合				調査期間	2022年6月20日～2022年7月9日						東経					
調査業者名	株式会社東和テクノロジー			主任技師	水江 安次郎			現場代理人	佐伯 亜由美		コア鑑定者	坂井 禎智		ボーリング責任者	榎本 継		
孔口標高	T. P. +23.55m	角	180°上 90° 180°下 0°	方	北 0° 270°西 180°南 90°東	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90°	使用機種	YBM ECO-1VⅢ			ハンマー落下用具					
総掘進長	4.00m			度				エンジン				ポンプ					

標尺	層高	層厚	層深	柱状図	土質	色	相対密度	相対稠度	記	孔内水位m / 測定月日	標準貫入試験					原位置試験	試料採取			掘進			
											10cm毎の打撃回数	打撃回数/貫入量cm	N 値				深 度	試験名および結果	深 度		試料番号	採取方法	
m	m	m	m	図					事	m	0	10	20	30	40	50	60	m				日	
	23.45	0.10	0.10	X	埋土	黒褐			礫混じり砂主体の埋土で成る。														
1	22.55	0.90	1.00	X	埋土	黒灰			焼却灰主体の埋土で成る。 φ2～10mmの燃え殻、角礫を混入。 0.40m付近までφ2～5mmの赤レンガ層を混入。														
2	21.15	1.40	2.40	X	埋土	褐			礫混じり砂質シルト主体の埋土で成る。 φ5～50mmの角礫を混入。 1.60～2.30m、暗緑灰色の40～50mm岩塊を所々混入し、固く締まっている。 2.30m以深、暗褐色から成る。														
	21.05	0.10	2.50	X	埋土	黒灰			焼却灰主体の埋土で成る。 φ2～3mmの燃え殻を混入。														
3	20.65	0.40	2.90	X	埋土	灰褐			礫混じり砂主体の埋土で成る。 φ2～10mmの亜角～亜円礫を混入。														
	20.15	0.50	3.40	X	礫混じり砂	褐			極細～細粒主で粒径不均一。 φ5～40mmの円礫を混入。														
4	19.55	0.60	4.00	X	砂礫	灰			平均粒径5mm、最大粒径40mmの円礫主体。 マトリックスは極細～細砂。 全体にやや締まっている。														
5																							

ボーリング柱状図

調査名 清柳園土壌汚染追加調査委託

ボーリングNo.

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	B2-8-2		調査位置	東京都清瀬市下宿2丁目555番地						北緯				
発注機関	柳泉園組合				調査期間	2022年6月20日～2022年7月9日				東経				
調査業者名	株式会社東和テクノロジー		主任技師	水江 安次郎		現場代理人	佐伯 亜由美	コア鑑定者	坂井 禎智	ボーリング責任者	榎本 継			
孔口標高	T. P. +23.57m	角	180° 上 90° 下 0°	方	北 0° 東 90° 南 180° 西 270°	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90°	使用機種	YBM ECO-1VⅢ		ハンマー落下用具			
総掘進長	4.00m	度		向				エンジン			ポンプ			

標尺	層高	厚	深	柱状	土質	色	相対	相対	記	孔内水位 m / 測定月日	標準貫入試験					原位置試験	試料採取			室内試験 (掘進月日)						
											10cm毎の 打撃回数	打撃回数 / 貫入量 cm	N 値				深	試験名 および結果	深		試料 番号	採取 方法				
m	m	m	m	図	区	調	度	度	事	m	0	10	20	30	40	50	60	m		m			日			
1					埋土	褐			0.20mまで礫混じり砂主体の埋土で成る。 φ5～30mmの角礫を混入。 0.20m以深、礫混じり砂質シルト主体。 φ5～40mmの角礫やロームを混入 0.30～0.50m、φ2～3mmの燃え殻を含む焼却灰少量を混入。 2.30m以深、暗褐色から成り、礫の混入量減少する。																	
2																										
3	20.77	2.80	2.80		礫混じり砂	褐			極細～細粒主で粒径不均一。 φ5～30mmの円礫を混入。 2.85m付近、コア長60mmの玉石を混入。																	
4	20.27	0.50	3.30		砂礫	灰褐			平均粒径5～10mm、最大粒径50mmの円礫主体。 マトリックスは細砂。 3.60m以深、シルトを少量混入。																	
5	19.57	0.70	4.00																							

ボーリング柱状図

調査名 清柳園土壌汚染追加調査委託

ボーリングNo.																				
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	B2-9-3		調査位置	東京都清瀬市下宿2丁目555番地						北緯	
発注機関	柳泉園組合				調査期間	2022年6月20日～2022年7月9日				東経	
調査業者名	株式会社東テクノロジ		主任技師	水江 安次郎		現場代理人	佐伯 亜由美	コア鑑定者	坂井 禎智	ボーリング責任者	高橋 勝也
孔口標高	T. P. +23.65m	角	180° 上 90° 下 0°	方	北 0° 東 90° 南 180° 西 270°	地盤勾配	水平 0°	使用機種	HILTI TE3000-AVR		ハンマー 落下用具
総掘進長	4.00m	度		向		鉛直	90°	エンジン			ポンプ

標尺	層厚	深度	柱状図	土質	色	相対密度	相対稠度	記	孔内水位 m / 測定月日	標準貫入試験					原位置試験 深度 m	試験名 および結果	試料採取 深度 m	採取 番号	採取 方法	室内試験 ()	掘進 月日		
										10cm毎の 打撃回数	打撃回数 / 貫入 深 cm	N 値 - ○ -											
1								礫混じり砂主体の埋土で成る。暗褐色から成る。 φ5～50mmの角礫を混入。 0.30mまでφ20～40mmのがれき類を複数混入。 1.00～2.10m、礫混じりローム主体。 褐色から成る。 φ5～30mmの角礫を混入。 2.10m以深、礫混じり砂質シルト主体。 暗褐色から成る。 φ5～40mmの角礫を混入。 2.60m以深、やや締まっている。															
2																							
3	20.85	2.80	2.80	礫混じり砂	灰褐色			細～極細粒主で粒径不均一。 φ5～40mmの円礫を混入。															
4	20.35	0.50	3.30	砂礫	褐色			平均礫径5～10mm、最大礫径40mmの円礫主体。 マトリックスは細砂、所々でやや締まっている。															
5	19.65	0.70	4.00																				

ボーリング柱状図

調 査 名 清柳園土壌汚染追加調査委託

ボーリングNo.											
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	B3-1-2		調査位置	東京都清瀬市下宿2丁目555番地				北 緯				
発 注 機 関	柳泉園組合				調査期間	2022年6月20日～2022年7月9日			東 経			
調査業者名	株式会社東和テクノロジー		主任技師	水江 安次郎		現 場 代理人	佐伯 亜由美	コ ア 鑑定者	坂井 禎智	ボーリング責任者	矢澤 克己	
孔口標高	T. P. +23.47m	角		方 向		地盤勾配	水平 0°	使用機種	YBM ECO-3V	ハンマー落下用具		
総掘進長	4.00m	度		向		エンジン				ポンプ		

標 尺	層 厚	深 度	柱 状 図	土 質 区 分	色 対 比	相 対 密 度	相 対 稠 度	記 事	孔内水位 m / 測定月日	標準貫入試験					原位置試験 深 度 m	試験名 および結果	試料採取 深 度 m	採取 方 法	室内試験 ()	掘 進 月 日							
										10cm毎の 打撃回数	打撃回数 / 貫入 深 度 cm	N 値 - 〇 -															
m	m	m	m						m	0	10	20	30	40	50	60											
1	0.80	22.67		埋土	暗灰			雑混じり砂主体の埋土で成る。 φ5～20mmの角礫を混入。 0.60mまで固く締まっている。																			
2	1.40	21.27		埋土	黒灰			焼却灰主体の埋土で成る。 φ2～5mmの燃え殻を混入。 φ5～10mmの角礫を混入。 1.30m付近、20mm大の塵プラスチック類を混入。 1.50m以深、所々で多少の水分を含む。																			
3	0.60	20.67		埋土	褐			雑混じり砂質シルト主体の埋土で成る。 φ5～40mmの角～亜角礫を混入。 2.30m付近まで長さ50～100mmの木屑複数を混入。																			
3	0.40	20.27		雑混じり砂	灰褐			極細～細粒主で粒径不均一。 φ5～30mmの円礫を混入。																			
4	0.80	19.47		砂礫	褐灰			平均礫径5～10mm、最大礫径50mmの円礫主体。 マトリックスは細砂。 所々でやや固く締まっている。																			
5																											

ボーリング柱状図

調査名 清柳園土壌汚染追加調査委託

ボーリングNo.

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	B3-2-2		調査位置	東京都清瀬市下宿2丁目555番地						北緯		
発注機関	柳泉園組合				調査期間	2022年6月20日～2022年7月9日				東経		
調査業者名	株式会社東和テクノロジー		主任技師	水江 安次郎		現場代理人	佐伯 亜由美	コア鑑定者	坂井 禎智	ボーリング責任者	矢澤 克己	
孔口標高	T.P. +23.49m	角		方		地盤勾配	水平 0°	使用機種	YBM ECO-3V		ハンマー落下用具	
総掘進長	4.00m	度		向		配		種	エンジン			ポンプ

標尺	層厚	深度	柱状図	土質	色	相対密度	相対稠度	記	孔内水位 m / 測定月日	標準貫入試験						原位置試験 深度 m	試験名 および結果	試料採取 深度 m	採取 番号	採取 方法	室内試験 ()	掘進 月日			
										10cm毎の 打撃回数		打撃回数 / 貫入 深 cm	N 値												
										0	10		20	30	40								50	60	
1	22.94	0.55	0.55	埋土	褐色			礫混じり砂主体の埋土で成る。 φ5~20mmの角礫を混入。 全体にやや締まっている。 0.55m付近、60mm大の玉石を混入。																	
2	21.39	1.55	2.10	埋土	黒灰			焼却灰主体の埋土で成る。 φ2~10mmの燃え殻を混入。 φ5~30mmの角礫、ガラス屑を混入。 1.85m付近、30mm大の陶磁器屑を混入。 2.05m付近、80mm大のビニール等廃プラスチック類を混入。																	
3	20.89	0.50	2.60	埋土	褐色			礫混じり砂質シルト主体の埋土で成る。 φ5~40mmの亜角~亜円礫を混入。																	
3	19.99	0.90	3.50	礫混じり砂	灰褐色			極細~細粒主体。 φ5~40mmの円礫を混入。																	
4	19.49	0.50	4.00	砂礫	褐色			平均礫径5mm、最大礫径50mmの円礫主体。 マトリックスは細砂。 3.60m付近、コア長60mmの玉石を混入。																	
5																									

ボーリング柱状図

調査名 清柳園土壌汚染追加調査委託

ボーリングNo.														
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	B3-3-3		調査位置	東京都清瀬市下宿2丁目555番地						北緯	
発注機関	柳泉園組合			調査期間	2022年6月20日～2022年7月9日				東経		
調査業者名	株式会社東テクノロジ		主任技師	水江 安次郎	現場代理人	佐伯 亜由美	コア鑑定者	坂井 禎智	ボーリング責任者	矢澤 克己	
孔口標高	T.P. +23.42m	角			地盤勾配	水平 0°		使用機種	YBM ECO-3V		ハンマー落下用具
総掘進長	4.00m	度			エンジン			ポンプ			

標尺	層厚	深度	柱状図	土質	色	相対密度	相対稠度	記	孔内水位m / 測定月日	標準貫入試験					原位置試験	試験名および結果	試料採取	室内試験	掘進											
										10cm毎の打撃回数	打撃回数/貫入基	N 値								深度	深度	試料番号	採取方法	月	日					
m	m	m	m	埋土	褐色			礫混じり砂主体の埋土で成る。 φ5～30mmの角礫を混入。		0	10	20	30	40	50	60														
	23.22	0.20	0.20	埋土	黒灰			焼却灰主体の埋土で成る。 φ2～5mmの燃え殻を混入。 φ5～10mmの角礫、ガラス屑を混入。																						
	22.67	0.55	0.75																											
1				埋土	褐色			1.00m付近まで褐色の礫混じり砂主体の埋土で成る。 φ5～30mmの角礫を混入。 1.00m以深、礫混じり砂質シルト主体。 1.75～2.50m、礫の混入量減少する暗褐色から成る。																						
2																														
	20.62	2.05	2.80																											
3				礫混じり砂	灰褐色			極細～細粒主体 φ5～40mmの円礫を混入。 全体にやや締まっている。																						
	20.02	0.60	3.40																											
4				砂礫	暗褐色			平均礫径5～10mm、最大礫径50mmの円礫主体。 マトリックスは細砂。 所々で多少の水分を含む。																						
	19.42	0.60	4.00																											
5																														

ボーリング柱状図

調査名 清柳園土壌汚染追加調査委託

ボーリングNo.										
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	B3-4		調査位置	東京都清瀬市下宿2丁目555番地				北緯				
発注機関	柳泉園組合			調査期間	2022年6月20日～2022年7月9日			東経				
調査業者名	株式会社東和テクノロジー		主任技師	水江 安次郎		現場代理人	佐伯 亜由美	コア鑑定者	坂井 禎智		ボーリング責任者	榎本 継
孔口標高	T.P. +23.44m	角		方		地盤勾配	水平 0°	使用機種	YBM ECO-1VⅢ		ハンマー	落下用具
総掘進長	5.00m	度		向		鉛直	90°	エンジン			ポンプ	

標尺	層厚	深度	柱状図	土質	色	相対密度	相対稠度	記	孔内水位	標準貫入試験					原位置試験	試料採取			掘進							
										深	10cm毎の打撃回数	打撃回数/貫入基	N 値			深	試験名	深		試料	採取					
m	m	m	m	区	調	度	度	事	m	度	回	回	0	10	20	30	40	50	60	m	度	番号	方法	月	日	
	22.89	0.55	0.55	埋土	暗褐			礫混じり砂主体の埋土で成る。 φ5～30mmの角礫、黒ボク土、ロームを混在する。																		
1				埋土	黒灰			焼却灰主体の埋土で成る。 φ2～5mmの燃え殻を含み、0.60m付近、10mm穴のガラス屑を混入。																		
2	21.24	1.65	2.20	埋土	褐			φ5～20mmの角礫を含む砂質シルト主体の埋土で成る。 2.60～2.90m、青灰色の極細砂を混入。 2.90mよりロームを混入。																		
3	20.34	0.90	3.10	埋土	褐			φ5～20mmの角礫を含む砂質シルト主体の埋土で成る。 2.60～2.90m、青灰色の極細砂を混入。 2.90mよりロームを混入。																		
4	18.79	1.55	4.65	礫混じり砂	褐			細～極細粒主で粒径不均一。 φ5～40mmの円礫を混入。 全体にやや縮まっている。 4.20m以深、シルト少量を混入。																		
5	18.44	0.35	5.00	砂礫	灰褐			平均礫径5～10mm、最大礫径50mmの円礫主体。 マトリックスは極細砂。 全体にやや縮まっている。																		

ボーリング柱状図

調査名 清柳園土壌汚染追加調査委託

ボーリングNo.

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	B3-6		調査位置	東京都清瀬市下宿2丁目555番地						北緯				
発注機関	柳泉園組合				調査期間	2022年6月20日～2022年7月9日				東経				
調査業者名	株式会社東和テクノロジー		主任技師	水江 安次郎		現場代理人	佐伯 亜由美	コア鑑定者	坂井 禎智	ボーリング責任者	榎本 継			
孔口標高	T. P. +23.35m	角			地盤勾配	水平 0°	使用機種	YBM ECO-1VⅢ		ハンマー	落下用具			
総掘進長	4.00m	度			エンジン			ポンプ						

標尺	層高	厚	深	柱状	土質	色	相対	相対	記	孔内水位	標準貫入試験					原位置試験	試料採取			室内試験	掘進				
											深	10cm毎の打撃回数	打撃回数/貫入量	N 値			深	試験名	深			試料	採取	度	番号
m	m	m	m	図	区	調	度	度	事	m	m	0	10	20	30	40	50	60	m	度	m	号	法	月	日
	22.55	0.40	0.40		埋土	黒灰			雑混じり砂主体の埋土で成る。 φ5～30mmの角礫を混入。																
1					埋土	黒灰			焼却灰主体の埋土で成る。 φ2～10mmの燃え殻を混入。 φ5～20mmの角礫を混入。 1.75m付近、50mm大のビニール等の廃プラスチック類を混入。 1.80m以深、燃え殻の混入量減少する。																
2	21.35	1.60	2.00		埋土	黒灰			雑混じり砂質シルト主体の埋土で成る。 φ5～30mmの亜角～亜円礫を混入。																
	20.65	0.70	2.70		埋土	黒灰			雑混じり砂質シルト主体の埋土で成る。 φ5～30mmの亜角～亜円礫を混入。																
3					雑混じり砂	暗褐			極細～細粒主で粒径不均一。 φ5～40mmの円礫を混入。																
	19.95	0.70	3.40		砂礫	褐			平均礫径5～10mm、最大礫径50mmの円礫主体。 マトリックスは細砂。 所々でやや固く締まっている。																
4	19.35	0.60	4.00		砂礫	褐			平均礫径5～10mm、最大礫径50mmの円礫主体。 マトリックスは細砂。 所々でやや固く締まっている。																
5																									

ボーリング柱状図

調査名 清柳園土壌汚染追加調査委託

ボーリングNo.

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	C2-2	調査位置	東京都清瀬市下宿2丁目555番地						北緯						
発注機関	柳泉園組合			調査期間	2022年6月20日～2022年7月9日				東経						
調査業者名	株式会社東和テクノロジー		主任技師	水江 安次郎		現場代理人	佐伯 亜由美	コア鑑定者	坂井 禎智		ボーリング責任者	高橋 勝也			
孔口標高	T.P. +23.81m	角			方			地盤勾配	水平 0°		使用機種	試錐機 YBM ECO-1VIV-CF		ハンマー落下用具	
総掘進長	5.00m	度			向			鉛直			エンジン			ポンプ	

標尺	層高	厚	深	柱状図	土質	色	相対密度	相対稠度	記	孔内水位m / 測定月日	標準貫入試験					原位置試験	試料採取			室内試験	掘進					
											深	10cm毎の打撃回数	打撃回数/貫入量cm	N 値			深	度	度			度	度	度	度	度
									0.40mまで礫混じり砂主体の埋土で成る。 φ5～40mmの角礫、30mm大の廃プラスチック類、80mm大の繊維屑を混入。 0.40～1.80m、礫混じり砂質シルト主体。 φ5～30mmの角～亜円礫を混入、所々でやや締まっている。 1.80m以深、砂質シルト主体。 φ5～20mmの亜円礫点状する。 3.10m付近、コア長40mmの玉石を混入。																	
					礫混じり砂	灰褐色			極細～細粒主で粒径不均一。 φ5～30mmの円礫を混入。																	
					砂礫	褐色			平均礫径10mm、最大礫径40mmの円礫主体。 マトリックスは細砂。 4.40m付近、90mm大の玉石を混入。 4.60m以深、シルトを混入、やや固く締まっている。																	

ボーリング柱状図

調査名 清柳園土壌汚染追加調査委託

ボーリングNo.

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	C2-3		調査位置	東京都清瀬市下宿2丁目555番地						北緯					
発注機関	柳泉園組合				調査期間	2022年6月20日～2022年7月9日				東経					
調査業者名	株式会社東テクノロジー		主任技師	水江 安次郎		現場代理人	佐伯 亜由美	コア鑑定者	坂井 禎智	ボーリング責任者	矢澤 克己				
孔口標高	T.P. +23.65m	角			方			地盤勾配	水平 0°	使用機種	試験機	YBM ECO-3V		ハンマー	落下用具
総掘進長	10.00m	度			向			鉛直	90°	エンジン			ポンプ		

標高	層厚	深度	柱状図	土質	色	相対密度	相対稠度	記	孔内水位m / 測定月日	標準貫入試験				原位置試験		試料採取		室内試験 ()	掘進月日
										10cm毎の打撃回数	打撃回数/貫入量cm	N 値	深	試験名	深	採取方法			
23.45	0.20	0.20		埋土	褐			礫混じり砂主体の埋土で成る。φ5～30mmの角礫混入。											
23.20	0.25	0.45		埋土	黒灰			焼却灰主体の埋土で成る。φ2～10mmの燃え殻、角礫を混入。											
20.55	2.65	3.10		埋土	暗褐灰			1.20mまでシルト質砂主体の埋土で成る。礫はφ5～60mmの角～亜角礫、玉石主体で全体に絡まっている。1.20m以深、礫混じり砂質シルト主体。φ5～40mmの亜角～亜円礫を混入。											
20.15	0.40	3.50		礫混じり砂	褐			極細～細粒主でφ5～40mmの円礫を混入。											
18.95	1.20	4.70		砂礫	褐灰			平均礫径5mm、最大礫径50mmの円礫主体。マトリックスは細砂。4.30m以深、シルト少量混入。	1.74										
14.65	4.30	9.00		シルト質砂礫	褐			平均礫径10mm、最大礫径50mmの円礫主体。マトリックスは細砂。含水中～多い。6.20～6.90m、及び7.00～7.70m、全体にやや固く絡まっている。8.00m以深、褐灰色から成る。											
13.65	1.00	10.00		シルト質砂	褐灰			極細粒主で粒径均一。含水多い。9.90m以深、シルトの混入量増加する。											

ボーリング柱状図

調査名 清柳園土壌汚染追加調査委託

ボーリングNo.									
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	C2-4	調査位置	東京都清瀬市下宿2丁目555番地				北緯			
発注機関	柳泉園組合			調査期間	2022年6月20日～2022年7月9日		東経			
調査業者名	株式会社東テクノロジ		主任技師	水江 安次郎	現場代理人	佐伯 亜由美	コア鑑定者	坂井 禎智	ボーリング責任者	榎本 継
孔口標高	T. P. +23.76m	角			地盤勾配	水平 0°	使用機種	試錐機	YBM ECO-1VⅢ	
総掘進長	4.10m	度			鉛直	90°	ハンマー	落下用具		ポンプ

標尺	層高	層厚	層深	柱状図	土質	色	相對密度	相對稠度	相対稠度	記	孔内水位m / 測定月日	標準貫入試験						原位置試験	試料採取			室内試験 (掘進月日)									
												10cm毎の打撃回数	打撃回数/貫入量cm	N 値					試験名および結果	深度	試料番号		採取方法								
m	23.66	0.10	0.10		被覆					事		0	10	20	30	40	50	60													
1					埋土	褐				デスファルト: 0.05m 砕石: 0.05m 0.70mまで礫混じり砂主体の埋土で成る。 φ5~40mmの角礫を混入。 所々で締まっている。 0.70~2.30m、礫混じり砂質シルト主体。 φ5~50mmの角礫、ロームを混入。 1.70~1.90m、長さ50~60mmの樹木屑を複数混入。 2.30m以深、ローム、黒ボク土を混在する。 2.80m以深、φ10mmの並円礫を混入。																					
3	20.81	2.85	2.95		礫混じり砂	褐				極細~細粒主で粒径不均一。φ5~40mmの円礫を混入。																					
	20.20	0.55	3.50		砂礫	褐				平均礫径5mm、最大礫径40mmの円礫主体。マトリックスは細砂。3.95m以深、シルト少量を混入。																					
4	19.66	0.60	4.10																												
5																															

ボーリング柱状図

調査名 清柳園土壌汚染追加調査委託

ボーリングNo.																				
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	C2-5		調査位置	東京都清瀬市下宿2丁目555番地							北緯	
発注機関	柳泉園組合				調査期間	2022年6月20日～2022年7月9日				東経		
調査業者名	株式会社東和テクノロジー		主任技師	水江 安次郎		現場代理人	佐伯 亜由美	コア鑑定者	坂井 禎智	ボーリング責任者	榎本 継	
孔口標高	T.P. +23.66m	角	180°上 90° 180°下 0°	方	北 0° 西 270° 南 180° 東 90°	地盤勾配	水平 0°	鉛直	使用機種	YBM ECO-1VⅢ		ハンマー 落下用具
総掘進長	5.10m	度		向		鉛直		90°	エンジン			ポンプ

標尺	層高	厚	深	柱状	土質	色	相対	相対	記	孔内水位 m / 測定月日	標準貫入試験				原位置試験	試料採取	室内試験	掘進		
											10cm毎の 打撃回数	打撃回数 / 貫入 深cm	N 値						深	度
	23.56	0.10	0.10		被覆				アスファルト: 0.05m 砕石: 0.05m											
	23.41	0.15	0.25		埋土	黒灰			焼却灰主体の埋土で成る。 φ2~5mmの燃え殻を混入。											
1																				
2						暗褐色 暗褐色			2.80mまで砂質シルト主体の埋土 で成る。 暗褐色から成る。 黒ボク土を不規則に混入。 φ5~30mmの角礫点存在する。 2.20m付近、長さ50mmの茎等の植 物層を複数混入。 2.20m以深、ローム少量を混入。 2.80m以深、礫混じりシルト質砂 主体。 暗褐色から成る。 φ5~30mmの亜角~亜円礫を混入。 3.60m以深、礫の混入量増加する。											
3																				
4	19.71	3.70	3.95		砂礫	灰褐色			平均礫径5mm、最大礫径40mmの円 礫主体。 マトリックスは細砂。 所々でやや固く締まっている。											
5	19.16	0.55	4.50		シルト質砂礫	褐色			平均礫径10mm、最大礫径50mmの 円礫主体。 マトリックスは細砂。 所々でやや固く締まっている。											
	18.56	0.60	5.10																	

ボーリング柱状図

調査名 清柳園土壌汚染追加調査委託

ボーリングNo.

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	C2-6-2		調査位置	東京都清瀬市下宿2丁目555番地						北緯						
発注機関	柳泉園組合				調査期間	2022年6月20日～2022年7月9日				東経						
調査業者名	株式会社東和テクノロジー		主任技師	水江 安次郎		現場代理人	佐伯 亜由美		コア鑑定者	坂井 禎智		ボーリング責任者	榎本 継			
孔口標高	T.P. +23.65m	角			方			地盤勾配	水平 0°		使用機種	YBM ECO-1VⅢ		ハンマー落下用具		
総掘進長	5.00m	度			向			鉛直	90°		エンジン			ポンプ		

標尺	層厚	深度	柱状図	土質	色	相対密度	相対稠度	記	孔内水位m / 測定月日	標準貫入試験				原位置試験		試料採取		室内試験(掘進月日)	
										10cm毎の打撃回数	打撃回数/貫入量cm	N 値		深度	試験名および結果	深度	試料番号		採取方法
	0.03	0.03		埋土	黒褐色			礫混じり砂主体で成る。φ5～20mmの角礫を混入。											
	0.55	0.60		埋土	黒灰			灰却灰主体の埋土で成る。φ2～10mmの懸え殻、角礫を混入。0.50m以深、ローム少量を混入。											
1																			
2				埋土	暗褐色			1.60mまで礫混じり砂質シルト主体の埋土で成る。暗褐色から成る。ローム及びφ5～50mmの角～亜円礫を混入。1.00m付近までやや固く締まっている。1.10m付近、長さ60mmの金属屑を混入。1.50m以深、コア長50mmの玉石を複数混入。											
3								1.60m以深、褐色から成る礫混じり砂質シルト主体。φ5～40mmの亜角～亜円礫を混入。2.80m付近までロームを混入。2.80m以深、暗褐色から成り、礫の混入量減少する。											
4				砂礫	褐色			平均礫径5mm、最大礫径40mmの円礫主体。マトリックスは細砂。所々でやや固く締まっている。4.30m付近、コア長60mmの玉石を混入。											
5																			

ボーリング柱状図

調査名 清柳園土壌汚染追加調査委託

ボーリングNo.									
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	C2-8		調査位置	東京都清瀬市下宿2丁目555番地				北緯		
発注機関	柳泉園組合			調査期間	2022年6月20日～2022年7月9日			東経		
調査業者名	株式会社東和テクノロジー		主任技師	水江 安次郎	現場代理人	佐伯 亜由美	コア鑑定者	坂井 禎智	ボーリング責任者	榎本 継
孔口標高	T.P. +23.61m	角			地盤勾配	水平 0°		使用機種	YBM ECO-1VⅢ	
総掘進長	4.10m	度			エンジン			ハンマー落下用具	ポンプ	

標尺	層高	層厚	層深	柱状図	土質	色	相對密度	相對稠度	記	孔内水位m / 測定月日	標準貫入試験					原位置試験	試料採取			室内試験 (掘進月日)						
											10cm毎の打撃回数	打撃回数/貫入基	N 値				試験名および結果	深	試料番号		採取方法					
m	m	m	m	図	分	調	度	度	事	m	0	10	20	30	40	50	60	m	度	号	法	日				
23.51	0.10	0.10			被覆				デスファルト: 0.05m 砕石: 0.05m																	
1					埋土				0.30mまで礫混じり砂主体の埋土で成る。 φ5~30mmの角礫を混入。極灰色から成り、やや固く締まっている。 0.30m以深、ローム主体。木根を混入。 2.50mより、φ5~50mmの亜角~亜円礫を混入。 2.60m付近、60mm大の玉石を混入。 2.60m以深、礫の混入量増加する。																	
2																										
20.81	2.70	2.80			礫混じり砂				極細~細粒主で粒径不均一。φ5~30mmの円礫を混入。所々でやや締まっている。																	
19.91	0.90	3.70			砂礫				平均礫径5mm、最大礫径40mmの円礫主体。マトリックスは細砂。所々締まっている。																	
19.51	0.40	4.10																								
5																										

ボーリング柱状図

調査名 清柳園土壌汚染追加調査委託

ボーリングNo.																				
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	C3-2		調査位置	東京都清瀬市下宿2丁目555番地							北緯
発注機関	柳泉園組合				調査期間	2022年6月20日～2022年7月9日				東経	
調査業者名	株式会社東和テクノロジー		主任技師	水江 安次郎		現場代理人	佐伯 亜由美	コア鑑定者	坂井 禎智	ボーリング責任者	榎本 継
孔口標高	T.P. +23.59m	角	180°上 90°	方	北 0° 270°西 180°南	地盤勾配	水平 0°	使用機種	YBM ECO-1VⅢ		ハンマー落下用具
総掘進長	5.00m	度	90°	向	90°			エンジン			ポンプ

標尺	層高	層厚	層深	柱状図	土質	色	相対密度	相対稠度	記	孔内水位 m / 測定月日	標準貫入試験					原位置試験 試験名 および結果	試料採取 深 度 m	採取 方法	室内試験 (月 日)		
											10cm毎の 打撃回数	打撃回数 / 貫入 深 cm	N 値 - ○ -								
m	m	m	m	図	区	調	度	度	事	m	0	10	20	30	40	50	60	m			
	23.34	0.25	0.25		埋土	黒褐			雑混じりシルト主体の埋土で成る。φ5～30mmの角礫を混入。												
	23.04	0.30	0.55		埋土	黒褐			雑混じりシルト、焼却灰を混在する。0.50m付近、長さ50mmのガラス屑を混入。												
1	22.19	0.85	1.40		埋土	暗灰			砂礫主体の埋土で成る。礫はφ5～40mmの角～亜円礫主体でマトリックスは細砂。やや固く締まっている。												
2	21.34	0.85	2.25		埋土	黒灰			焼却灰主体の埋土で成る。φ2～10mmの燃え殻、角礫・10～20mm大のガラス屑を混入。												
3	20.39	0.95	3.20		埋土	暗褐			雑混じり砂質シルト主体の埋土で成る。φ5～30mmの亜角～亜円礫を混入。2.25m付近、50mm大の廃プラスチック類を混入。2.35m付近までφ20～30mmのガラス屑及び長さ60mmの金属屑を混入。												
4	19.39	1.00	4.20		砂礫	灰褐			平均礫径5mm、最大礫径40mmの円礫主体。マトリックスは細～極細砂。3.50m以深、シルト少量を混入。												
5	18.59	0.80	5.00		シルト質砂礫	褐			平均礫径10mm、最大礫径50mmの円礫主体。マトリックスは細砂。4.20～4.30m、シルトを挟在する。4.80m以深、多少の水分を含む。												

ボーリング柱状図

調査名 清柳園土壌汚染追加調査委託

ボーリングNo.

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	C3-3	調査位置	東京都清瀬市下宿2丁目555番地				北緯	
発注機関	柳泉園組合			調査期間	2022年6月20日～2022年7月9日		東経	
調査業者名	株式会社東和テクノロジー		主任技師	水江 安次郎	現場代理人	佐伯 亜由美	コア鑑定者	坂井 禎智
ボーリング責任者	高橋 勝也							
孔口標高	T.P. +23.59m	角			地盤勾配	水平 0°	使用機種	HILTI TE3000-AVR
総掘進長	5.00m	度			エンジン	ハンマー落下用具		ポンプ

標尺	層高	層厚	深	柱状	土質	色	相対	相対	記	孔内水位	標準貫入試験					原位置試験	試料採取			室内試験	掘進		
											深	10cm毎の打撃回数	打撃回数/貫入量	N 値			深	試験名	深			試料	採取
m	m	m	m	図	区	調	度	度	事	m	度	度	度	度	度	m	度	番号	方法	月	日		
	23.19	0.40	0.40		埋土	暗灰			雑混じり砂主体の埋土で成る。 φ5~20mmの角礫を混入。														
	22.84	0.35	0.75		埋土	黒灰			焼却灰主体の埋土で成る。 φ2~10mmの燃え殻やφ5~20mmの角礫を混入。														
1					埋土	褐く褐灰			2.65mまで雑混じり砂質シルト主体の埋土で成る。 褐色から成る。 φ5~30mmの角礫を混入。 2.35~2.65m、礫の混入量減少し、暗褐色から成る。 2.65m以深、砂礫主体、褐灰色から成り、全体にやや固く締まっている。 礫はφ5~50mmの角~亜角礫主体 マトリックスは極細~中砂主で粒径不均一。														
2					埋土	褐く褐灰																	
3	20.44	2.40	3.15		埋土	褐く褐灰																	
4	19.23	1.15	4.30		雑混じり砂	灰褐			極細~細粒主でφ5~30mmの円礫を混入。 4.10~4.30m、シルトを混入。 暗褐色から成る。														
5	18.59	0.70	5.00		砂礫	褐			平均礫径5mm、最大礫径40mmの円礫主体。 マトリックスは細砂。 所々で多少の水分を含む。														

ボーリング柱状図

調査名 清柳園土壌汚染追加調査委託

ボーリングNo.

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	A2-7-4		調査位置	東京都清瀬市下宿2丁目555番地						北緯			
発注機関	柳泉園組合				調査期間	2022年9月17日～2022年9月17日			東経				
調査業者名	株式会社東テクノロジ		主任技師	水江 安次郎		現場代理人	佐伯 亜由美	コア鑑定者	坂井 禎智	ボーリング責任者	矢澤 克巳		
孔口標高	T.P. +23.32m	角			方			地盤勾配	水平 0°	使用機種	YBM ECO-3V	ハンマー落下用具	
総掘進長	10.00m	度			向			90°		エンジン		ポンプ	

標尺	層高	層厚	層深	柱状図	土質	色	相対密度	相対稠度	相対調度	記	孔内水位 m / 測定月日	標準貫入試験					原位置試験 深度 m	試験名 および結果	試料採取 深度 m	採取 番号	採取 方法	室内試験 ()	掘進 月日						
												10cm毎の 打撃回数	打撃回数 / 貫入量 cm	N 値 - 0 -															
	23.17	0.15	0.15		埋土	褐灰				雑混じり砂主体の埋土で成る。 φ5～50mmの角礫を混入。																			
	22.32	0.85	1.00		埋土	黒灰				焼却灰主体の埋土で成る。 φ2～5mmの燃え殻を含む。																			
1																													
2					埋土	褐く暗褐				1.00～1.50m、改良土を含み、固く締まっている。 1.50～1.70m、40～80mm次のコンクリート層を複数混入。 1.70m以深、雑混じりシルト質砂主体の埋土で成る。 φ5～40mmの亜角～亜円礫を混入。 1.00m以深、改良土を含み、固く締まっている。 1.50～1.70m、40～80mm次のコンクリート層を複数混入。 2.00～2.55m、暗褐色から成る。																			
3	20.22	2.10	3.10		雑混じり砂	褐				細粒主でφ5～30mmの円礫を混入。																			
4	19.72	0.50	3.60		砂礫	褐				平均礫径5～10mm、最大礫径40mmの円礫主体。 マトリックスは極細～細砂。 全体にやや締まっている。 4.35m以深、褐灰色の雑混じりシルトを拱在する。	4.40																		
5	18.72	1.00	4.60																										
6					シルト混じり砂礫	褐く黄褐く褐灰				平均礫径10mm、最大礫径50mmの円礫主体。 マトリックスは細～中砂。 含水中～多い。 5.00～6.00m、黄褐色から成る。 6.60m、コア長50mmの玉石を混入。 7.50m以深、コア長50～60mmの玉石を複数混入し、やや固く締まっている。 褐灰色から成る。																			
7																													
8	15.22	3.50	8.10		シルト質砂	褐				極細～細粒主で、含水中～多い 9.35m以深、中砂を混入。 シルト分やや多く比較的締まっている。																			
9																													
10	13.32	1.90	10.00																										

ボーリング柱状図

調査名 清柳園土壌汚染追加調査委託

ボーリングNo.

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	A2-8	調査位置	東京都清瀬市下宿2丁目555番地						北緯		
発注機関	柳泉園組合			調査期間	2022年6月20日～2022年7月9日			東経			
調査業者名	株式会社東和テクノロジー		主任技師	水江 安次郎		現場代理人	佐伯 亜由美	コア鑑定者	坂井 禎智	ボーリング責任者	上野 真規
孔口標高	T.P. +23.12m	角			地盤勾配	水平 0°	使用機種	YBM ECO-3V		ハンマー	落下用具
総掘進長	10.00m	度			エンジン			ポンプ			

標尺	層厚	深度	柱状図	土質	色	相対密度	相対稠度	記	孔内水位 m / 測定月日	標準貫入試験				原位置試験		試料採取		室内試験 (掘進月日)	
										深	10cm毎の打撃回数		N 値	深	試験名 および結果	深	試料番号		
											0	10							20
1	0.60	0.60		埋土	暗褐色			0.10mまで礫混じり砂主体の埋土で成る。 φ10mmの角礫を混入。 0.10m以深、礫混じり砂主体の埋土で成る。 φ10～40mmの角礫及び少量の焼却灰を混入。											
1	0.45	1.05		埋土	黒灰			焼却灰主体の埋土で成る。 φ2～10mmの燃え殻や角礫を混入。											
2				埋土	暗褐色			礫混じり砂質シルト主体の埋土で成る。 φ5～50mmの角～亜角礫を混入。 2.30mまで所々でやや固く締まっている。 3.00m以深、礫の混入量増加する。											
4	2.55	3.60		砂礫	灰褐色			平均礫径5mm、最大礫径40mmの円礫主体。 マトリックスは細～極細砂。 全体にやや締まっている。											
5	1.50	5.10		砂礫	灰褐色			平均礫径10mm、最大礫径50mmの円礫主体。 マトリックスは細砂。 4.70m以深、含水中～多い。 5.95m付近、コア長60mmの玉石を混入。 6.10m以深、シルトを所々やや多量に混入、暗褐色から成る。											
6				シルト質砂礫	褐色			平均礫径10mm、最大礫径50mmの円礫主体。 マトリックスは細砂。 4.70m以深、含水中～多い。 5.95m付近、コア長60mmの玉石を混入。 6.10m以深、シルトを所々やや多量に混入、暗褐色から成る。											
7	2.60	7.70		シルト混じり砂礫	灰褐色			平均礫径5mm、最大礫径40mmの円礫主体。 マトリックスは細砂。 含水多い。 7.70m以深、シルトの混入量増加する。											
8	1.55	9.25		シルト質砂	褐色			極細粒主で粒径均一。 含水多い。 8.60～8.70m、9.10～9.20m及び9.40～9.50m、中～粗砂を混入。 9.70m以深、シルトの混入量増加する。											
10	0.75	10.00		シルト質砂	褐色			極細粒主で粒径均一。 含水多い。 8.60～8.70m、9.10～9.20m及び9.40～9.50m、中～粗砂を混入。 9.70m以深、シルトの混入量増加する。											

ボーリング柱状図

調査名 清柳園土壌汚染追加調査委託

ボーリングNo.																				
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	A3-1		調査位置	東京都清瀬市下宿2丁目555番地						北緯			
発注機関	柳泉園組合				調査期間	2022年6月20日～2022年7月9日				東経			
調査業者名	株式会社東和テクノロジー		主任技師	水江 安次郎		現場代理人	佐伯 亜由美	コア鑑定者	坂井 禎智	ボーリング責任者	上野 真規		
孔口標高	T.P. +23.36m	角			方			地盤勾配	水平 0°	使用機種	YBM ECO-3V	ハンマー	落下用具
総掘進長	10.00m	度			向			鉛直	90°	エンジン		ポンプ	

標尺	層高	層厚	層深	柱状図	土質	色	相対密度	相対稠度	記	孔内水位 m / 測定月日	標準貫入試験				原位置試験		試料採取		室内試験 ()	掘進 月日
											10cm毎の 打撃回数	打撃回数 / 貫入量 cm	N 値 - O -	深 度 m	深 度 m	深 度 m	採 取 方 法			
	23.26	0.10	0.10		埋土	暗褐色			礫混じりシルト質砂主体の埋土で成る。 φ5～40mmの角礫を混入。 0.10m付近、φ5～40mmのガラス層を複数混入											
	22.91	0.35	0.45		埋土	黒灰			廃却灰主体の埋土で成る。 φ2～5mmの燃え殻を混入。 0.20m付近、50mm大のガラス層を混入											
1	22.26	0.65	1.10		埋土	暗褐色			0.60mまで礫混じりシルト質砂主体の埋土で成る。 φ5～40mmの角礫を混入。 0.60m以深、礫混じり砂質シルト主体。 φ5～40mmの角礫を混入											
	21.66	0.60	1.70		埋土	黒灰～暗褐色			廃却灰及びロームが混在する埋土で成る。											
2																				
3					埋土	暗褐色			礫混じり砂質シルト主体の埋土で成る。 φ5～40mmの角礫を混入。 3.65m付近、コア長60mmの玉石を混入											
	19.71	1.95	3.65							4.52										
4					砂礫	褐色			平均礫径10mm、最大礫径50mmの円礫主体。 マトリックスは細砂。 所々でやや固く締まっている。 4.60m以深、含水多い。 5.20mよりシルト少量を混入 6.20m付近、70mm大の玉石を混入											
	17.16	2.55	6.20																	
5					シルト質砂礫	灰褐色			平均礫径10mm、最大礫径50mmの円礫主体。 マトリックスは極細砂。 含水中～多い。 所々で固く締まっている。											
	15.56	1.60	7.80																	
6					砂質粘土	褐色			極細砂を混入。 8.20mまでφ10～30mmの円礫を混入。 含水中位。											
	14.86	0.70	8.50																	
7					シルト質砂	褐色			極細粒主で含水中～多い。 8.90mまで黄褐色から成る。 9.40m付近、40mm大の円礫を混入 9.70m以深、シルトの混入量増加する。											
	13.36	1.50	10.00																	

ボーリング柱状図

調査名 清柳園土壌汚染追加調査委託

ボーリングNo.										
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	A3-2		調査位置	東京都清瀬市下宿2丁目555番地				北緯				
発注機関	柳泉園組合				調査期間	2022年6月20日～2022年7月9日			東経			
調査業者名	株式会社東テクノロジー		主任技師	水江 安次郎		現場代理人	佐伯 亜由美	コア鑑定者	坂井 禎智		ボーリング責任者	上野 真規
孔口標高	T.P. +23.25m	角			方			地盤勾配	水平 0°		使用機種	YBM ECO-3V
総掘進長	10.00m	度			向			鉛直			エンジン	
											ハンマー	落下用具
											ポンプ	

標尺	標高	層厚	深度	柱状	土質	色	相対	相対	記	孔内水位 m / 測定月日	標準貫入試験				原位置試験	試料採取	室内試験	掘進
											10cm毎の 打撃回数	打撃回数 / 貫入量 cm	N 値					
					埋土	暗褐色			雑混じり砂質シルト主体の埋土で成る。 φ5～50mmの角礫を混入。		0	10	20					
	22.75	0.45	0.50		埋土	黒灰～暗褐色			0.30mまで黒灰色の焼却灰主体の埋土で成る。 0.30m以深、黒灰色の焼却灰、暗褐色の雑混じり砂質シルトが混在する。									
	21.20	1.55	2.05		埋土	暗褐色			雑混じり砂質シルト主体の埋土で成る。 φ5～50mmの角礫を混入。									
	21.15	0.05	2.10		埋土	黒灰			焼却灰主体の埋土で成る。									
	20.45	0.70	2.80		埋土	暗褐色			雑混じり砂質シルト主体の埋土で成る。 φ5～50mmの角礫を混入。 礫の混入量減少する。									
	19.85	0.60	3.40		雑混じり砂	褐色			細～極細粒主で粒径不均一。 φ5～20mmの円礫を混入。									
	18.15	1.70	5.10		砂礫	灰褐色			平均礫径5～10mm、最大礫径40mmの円礫主体。 マトリックスは細砂。 3.50～4.25m、シルト少量を含む雑混じり砂を挟在する。 4.40m以深、含水中～多い。	4.42								
	15.85	2.30	7.40		シルト質砂礫	褐色			平均礫径10mm、最大礫径50mmの円礫主体。 マトリックスは細砂。 含水多い。 5.30m及び6.65m、コア長50mmの玉石を混入。 6.65m以深、やや固く締まっている。									
	15.15	0.70	8.10		シルト質砂	褐色			極細～細粒主で粒径不均一。 φ10～20mmの円礫点在する。 含水中位。									
	13.25	1.90	10.00		シルト混じり砂	灰褐色			極細粒主で含水中～多い。 8.80～9.20m、細砂を所々ブロック状に混入。 9.80m以深、シルトの混入量増加する。									

ボーリング柱状図

調査名 清柳園土壌汚染追加調査委託

ボーリングNo.																				
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	A3-7		調査位置	東京都清瀬市下宿2丁目555番地						北緯	
発注機関	柳園組合				調査期間	2022年9月17日～2022年9月17日			東経		
調査業者名	株式会社東和テクノロジー		主任技師	水江 安次郎		現場代理人	佐伯 亜由美	コア鑑定者	坂井 禎智	ボーリング責任者	田中 篤
孔口標高	T.P. +22.96m	角	180° 上 90° 下 0°	方	北 0° 東 90° 西 270° 南 180°	地盤勾配	水平 0° 鉛直 90°	使用機種	YBM ECO-3V-3	ハンマー 落下用具	
総掘進長	10.00m	度		向				エンジン		ポンプ	

標尺	層高	層厚	層深	柱状図	土質	色	相対密度	相対稠度	記号	孔内水位 m / 測定月日	標準貫入試験					原位置試験 深度 m	試験名 および結果	試料採取 深度 m	試料番号	採取方法	室内試験 ()	掘進 月日			
											10cm毎の 打撃回数	打撃回数 / 貫入量 cm	N 値 - O -												
	22.81	0.15	0.15	埋土	暗褐色				雑混じり砂主体の埋土で成る。 φ5~50mmの角礫を混入。																
1				埋土	黒褐色				焼却灰主体の埋土で成る。 φ5~30mmの燃え殻を含む。 1.65m付近、30mmのがれきりを混入。 2.00m付近、40mm大の赤レンガ層を混入。																
2	20.95	1.85	2.00	埋土	褐色				雑混じり砂質シルト主体の埋土で成る。 2.20mまでφ20~30mmの赤レンガ層を混入。																
3	20.16	0.80	2.80	雑混じり砂	褐色				細粒主体。 φ5~30mmの円礫を混入。																
	19.55	0.60	3.40	砂礫	褐色				平均礫径5mm、最大礫径40mmの円礫主体。 マトリックスは極細砂。																
4	19.15	0.40	3.80																						
5				シルト混じり砂礫	褐色				平均礫径5~10mm、最大礫径50mmの円礫主体。 マトリックスは細~中砂。 4.80m以深、含水中~多い。 6.10m以深、シルト分やや多く、含水中位。 灰褐色から成る。	4.77 9/17															
6																									
7	15.86	3.30	7.10																						
8				シルト質砂	灰褐色				極細粒主で、含水中~多い。 9.10m以深、褐色の細砂を混入。 9.75m以深、シルトやや優位で、含水中位。																
9																									
10	12.95	2.90	10.00																						

ボーリング柱状図

調査名 清柳園土壌汚染追加調査委託

ボーリングNo.

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	B2-4-1	調査位置	東京都清瀬市下宿2丁目555番地								北緯					
発注機関	柳泉園組合				調査期間	2022年6月20日～2022年7月9日				東経						
調査業者名	株式会社東和テクノロジー		主任技師	水江 安次郎		現場代理人	佐伯 亜由美	コア鑑定者	坂井 禎智	ボーリング責任者	高橋 勝也					
孔口標高	T.P. +23.61m	角			方			地盤勾配	水平 0°	使用機種	HILTI TE3000-AVR		ハンマー落下用具			
総掘進長	10.00m	度			向			鉛直	90°	エンジン			ポンプ			

標尺	標高	層厚	深	柱状図	土質	色	相対密度	相対稠度	記	孔内水位	標準貫入試験					原位置試験	試料採取			室内試験	掘進				
											深	10cm毎の打撃回数		打撃回数/貫入量	N値		深	試験名	深			試料番号	採取方法		
												度	0											10	20
m	m	m	m	図	分	調	度	度	事	m	m	0	10	20	30	40	50	60	m	m	m	m	m	日	
					埋土	暗褐色			1.00mまで礫混じり砂主体の埋土で成る。 φ5～30mmの角礫、木根等の植物層を混入。 1.00m以深、礫混じり砂質シルト主体。 φ5～40mmの角～亜角礫を混入。 1.30mまでφ5～10mmのガラス屑を複数混入。 1.40～1.70m、長さ100mmの木屑を複数混入。 3.90m以深、多少の水分を含み、暗褐色から成る。 4.70mまでは所々やや緩い。 5.00mより長さ50～70mmの木屑を所々混入。 含水中～多い。 8.30m以深、灰褐色の10～30mm大の亜円～円礫を混入。	5.12															
	16.81	6.88	6.83		砂礫	褐色			平均礫径5～10mm、最大礫径40mmの円礫主体。マトリックスは細砂。含水多い。																
	15.91	0.90	7.70		礫混じり砂	褐色			極細～細粒主で含水中～多い。シルト少量を含み、φ5～10mmの円礫を混入。																
	14.41	1.50	9.20		シルト質砂	灰			極細粒主で粒径均一。含水中～多い。9.60m付近まで中砂を所々帯状に混入。																
	13.61	0.88	10.00																						

ボーリング柱状図

調査名 清柳園土壌汚染追加調査委託

ボーリングNo.

--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	C2-3	調査位置	東京都清瀬市下宿2丁目555番地						北緯					
発注機関	柳泉園組合			調査期間	2022年6月20日～2022年7月9日				東経					
調査業者名	株式会社東テクノロジー		主任技師	水江 安次郎		現場代理人	佐伯 亜由美	コア鑑定者	坂井 禎智		ボーリング責任者	矢澤 克己		
孔口標高	T.P. +23.65m	角			方			地盤勾配	水平 0°		使用機種	YBM ECO-3V		
総掘進長	10.00m	度			向			鉛直	90°		エンジン	ハンマー落下用具		
											ポンプ			

標尺	層厚	深度	柱状図	土質	色	相対密度	相対稠度	記	孔内水位m / 測定月日	標準貫入試験				原位置試験		試料採取		室内試験 ()	掘進月日	
										10cm毎の打撃回数	打撃回数/貫入量cm	N 値		深度	試験名および結果	深度	採取方法			
	23.45	0.20	0.20	埋土	褐			礫混じり砂主体の埋土で成る。φ5～30mmの角礫混入。												
	23.20	0.25	0.45	埋土	黒灰			焼却灰主体の埋土で成る。φ2～10mmの燃え殻、角礫を混入。												
1				埋土	暗褐灰			1.20mまでシルト質砂主体の埋土で成る。礫はφ5～60mmの角～亜角礫、玉石主体で全体に絡まっている。1.20m以深、礫混じり砂質シルト主体。φ5～40mmの亜角～亜円礫を混入。												
2				埋土	暗褐灰			2.05mまで褐色から成る。2.05m以深、暗褐色から成る。												
3	20.55	2.65	3.10	礫混じり砂	褐			極細～細粒主でφ5～40mmの円礫を混入。												
4	20.15	0.40	3.50	砂礫	褐灰			平均礫径5mm、最大礫径50mmの円礫主体。マトリックスは細砂。4.30m以深、シルト少量混入。												
5	18.95	1.20	4.70	シルト質砂礫	褐			平均礫径10mm、最大礫径50mmの円礫主体。マトリックスは細砂。含水中～多い。6.20～6.90m、及び7.00～7.70m、全体にやや固く絡まっている。8.00m以深、褐灰色から成る。												
9	14.65	4.30	9.00	シルト質砂	褐灰			極細粒主で粒径均一。含水多い。9.90m以深、シルトの混入量増加する。												
10	13.65	1.00	10.00																	

ボーリング柱状図

調査名 清柳園土壌汚染追加調査委託

ボーリングNo.									
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	C3-1	調査位置	東京都清瀬市下宿2丁目555番地				北緯			
発注機関	柳泉園組合			調査期間	2022年9月17日～2022年9月17日		東経			
調査業者名	株式会社東和テクノロジー		主任技師	水江 安次郎	現場代理人	佐伯 亜由美	コア鑑定者	坂井 禎智	ボーリング責任者	上野 真規
孔口標高	T.P. +23.54m	角	180° 上 90° 下 0°	方	北 0° 東 90° 西 270° 南 180°	地盤勾配	水平 0°	使用機種	YBM ECO-3V	ハンマー 落下用具
総掘進長	10.00m	度		向		鉛直		エンジン		ポンプ

標尺	層高	層厚	層深	柱状図	土質	色	相対密度	相対稠度	記	孔内水位 m / 測定月日	標準貫入試験						原位置試験 深度 m	試験名 および結果	試料採取 深度 m	採取 番号	採取 方法	室内試験 ()	掘進 月日				
											10cm毎の 打撃回数		N 値 - ○ -	0	10	20								30	40	50	60
											0	10															
m	m	m	m	図	埋土	褐色			雑混じり砂主体の埋土で成る。 φ5～40mmの角礫を混入。																		
	23.19	0.35	0.33		埋土	黒灰			焼却灰主体の埋土で成る。 φ2～10mmの燃え殻を含む。 φ5～20mmの角礫、ガラス屑を混入。																		
1			21.79	1.40	1.73																						
2									2.25mまで雑混じり砂主体の埋土で成る。 φ5～40mmの角礫を混入。 1.90～2.25m、30～40mmの廃プラスチック類を複数混入。 2.25m以深、雑混じり砂質シルト主体。 φ5～40mmの亜角～亜円礫を混入。																		
3									3.20～3.30m、10～50mmのガラス屑、廃プラスチック類を混入。																		
	19.74	2.05	3.38		粘土質シルト	暗灰			腐植物を混入。 4.00m以深、φ10～20mmの円礫を混入。																		
4			19.33	0.40	4.23																						
5									平均粒径10mm、最大粒径40mmの円礫主体。 マトリックスは細砂。 4.40m以深、含水多い。 5.20～6.00m、所々でやや固く締まっている。 7.00m以深、礫の混入量減少し、シルト分増加する。 含水中位。																		
6																											
7																											
	15.99	3.35	7.53																								
8																											
9									極細粒主で含水多～多い。 8.90m付近、褐色の中砂を帯状に混入。 9.50m以深、シルト分優位で含水中位。																		
10			13.54	2.45	10.00																						

ボーリング柱状図

調査名 清柳園土壌汚染追加調査委託

ボーリングNo.																				
----------	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--	--

事業・工事名

シートNo.

ボーリング名	C3-3		調査位置	東京都清瀬市下宿2丁目555番地							北緯			
発注機関	柳泉園組合					調査期間	2022年9月17日～2022年9月17日				東経			
調査業者名	株式会社東和テクノロジー			主任技師	水江 安次郎		現場代理人	佐伯 亜由美	コア鑑定者	坂井 禎智	ボーリング責任者	高橋 勝也		
孔口標高	T.P. +23.59m	角			方			地盤勾配	水平 0°	使用機種	YBM ECO-1VIV		ハンマー 落下用具	
総掘進長	10.00m	度			向			鉛直	90°	エンジン	ポンプ			

標高 m	層厚 m	深度 m	柱状 図	土質 区	色 対	相 対	相 密	相 調	相 度	相 度	記 事	孔内 水位 m /測定 月日	標準貫入試験					原位置 試験 深度 m	試験名 および結果	試料 採取 番号	室内 試験 方法	掘 進 月 日				
													10cm 毎の 打撃 回数	打撃 回数 /貫入 量 cm	N 値 - 0 -											
23.39	0.20	0.20		埋土	褐						礫混じり砂主体の埋土で成る。 φ5~30mmの角礫を混入。															
22.59	0.80	1.00		埋土	褐						焼却灰主体の埋土で成る。 φ2~10mmの燃え殻を含む。 φ0.85mm付近、針金等の長さ150mm の金属屑を混入。															
20.39	2.20	3.20		埋土	褐						2.80mまでロームを含む礫混じり シルト質砂の埋土で成る。 所々でやや締まっている。 2.80m以深、シルト質砂礫主体。 礫はφ5~30mmの亜角~亜円礫主 体。 マトリックスは細砂。															
19.99	0.40	3.60		礫混じり砂	褐						細粒砂主体。 φ5~30mmの円礫を混入。															
19.04	0.95	4.55		砂礫	褐						平均粒径10mm、最大粒径40mmの 円礫主体。 マトリックスは細砂。 4.40m以深、多少の水分を含む。															
16.59	2.45	7.00		シルト混じり砂礫	褐						平均粒径10mm、最大粒径50mmの 円礫主体。 マトリックスは細~中砂。 5.50m以深、含水中~多い。 6.10~6.60m、コア長40~50mmの 玉石を複数混入。 やや固く締まっている。 6.60m以深、礫の混入量減少する。	5.45														
13.59	3.00	10.00		シルト質砂	灰褐						極細粒主で、含水中~多い。 8.55~9.95m、中砂を所々に少量 混入。 9.80m以深、シルト分優位で含水 中位。															

別紙

都補助対象事業費額以外の事業費額の内訳

(単位円)

工種別	工事別	金額
給じん設備	機械工事	539,015
焼却設備	機械工事	5,758,985
灰出し設備	機械工事	2,400,000
諸経費		350,000
小計		¥9,048,000
地質調査費		205,000
杭打工事		1,600,000
整地工事		2,350,000
用地費		17,571,810
小計		¥21,726,810
合計		¥30,774,810

工事請負契約書

500万円以下	1000〃
1000万円以下	2000〃
5000万円以下	5000〃
5000万円を超える場合10,000〃	

- 1. 工事名 清瀬町いん井処理施設杭打工事
- 1. 工事場所 清瀬町清戸下宿 555
- 1. 契約金額

億	千	百	拾	万	千	百	拾	円
	9	1	6	0	0	0	0	0
- 1. 契約保証金 清瀬町 契約事務規則第47条第2項の規定により免除
- 1. 支払条件 ~~部分払~~ 回及び竣工払 6字
- 1. 工期 昭和43年2月12日から
昭和43年2月24日まで

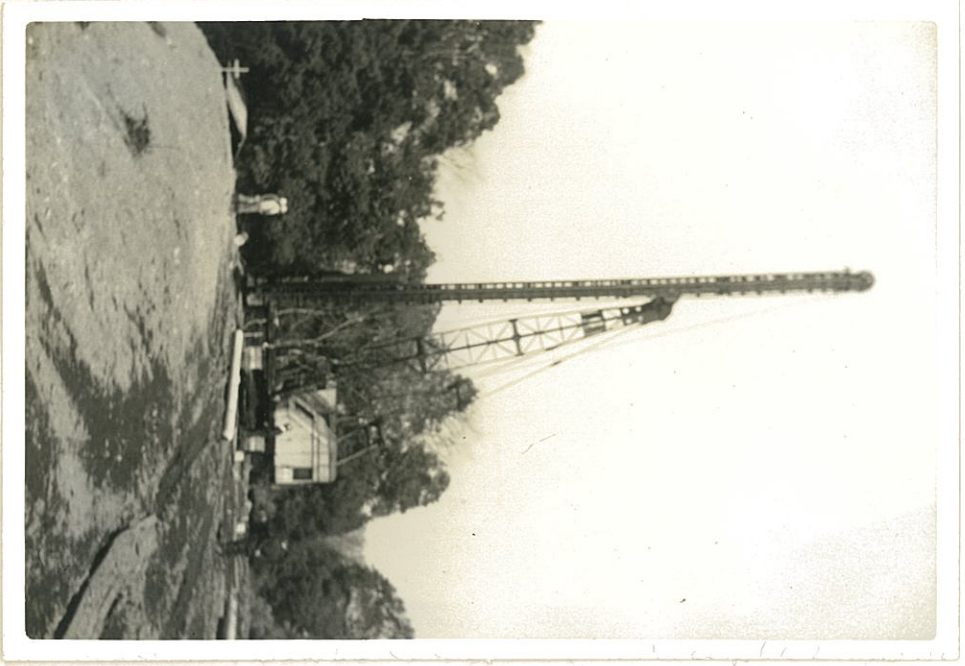
上記の工事について清瀬町長を甲とし請負人
東京都北多摩郡清瀬町10番地 代表取締役 **大前玉男** を乙とし次の条項に
三機工業株式会社 社 長
 よつて工事請負契約を締結する

昭和43年2月12日

甲 東京都北多摩郡清瀬町
 清瀬町 代表取締役 **谷邦彦**

乙 (請負人) 東京都北多摩郡清瀬町10番地
 三機工業株式会社
 代表取締役 **大前玉男**

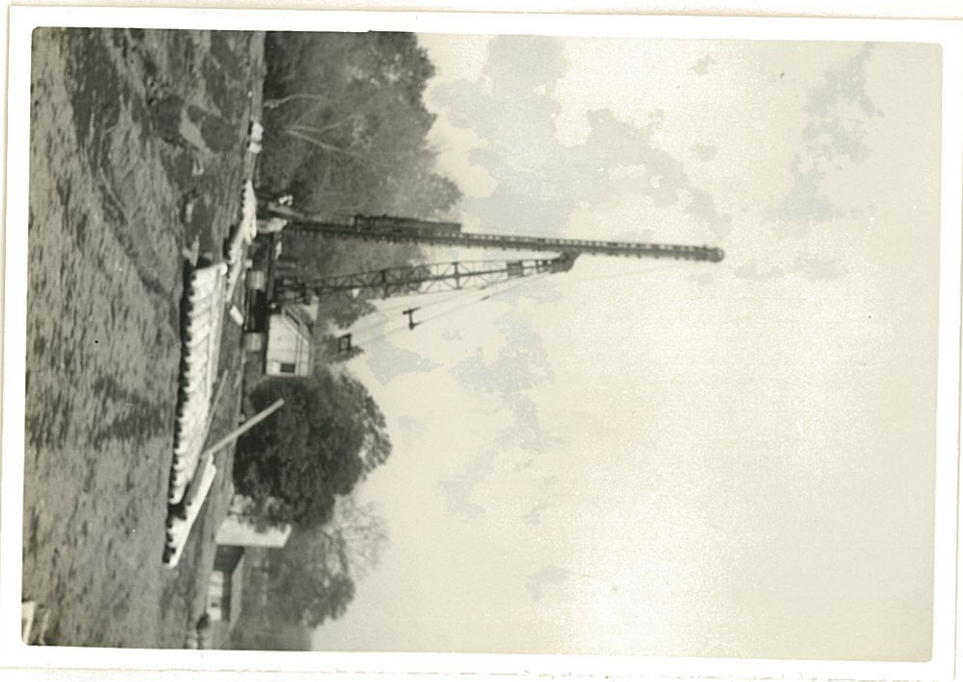
保証人



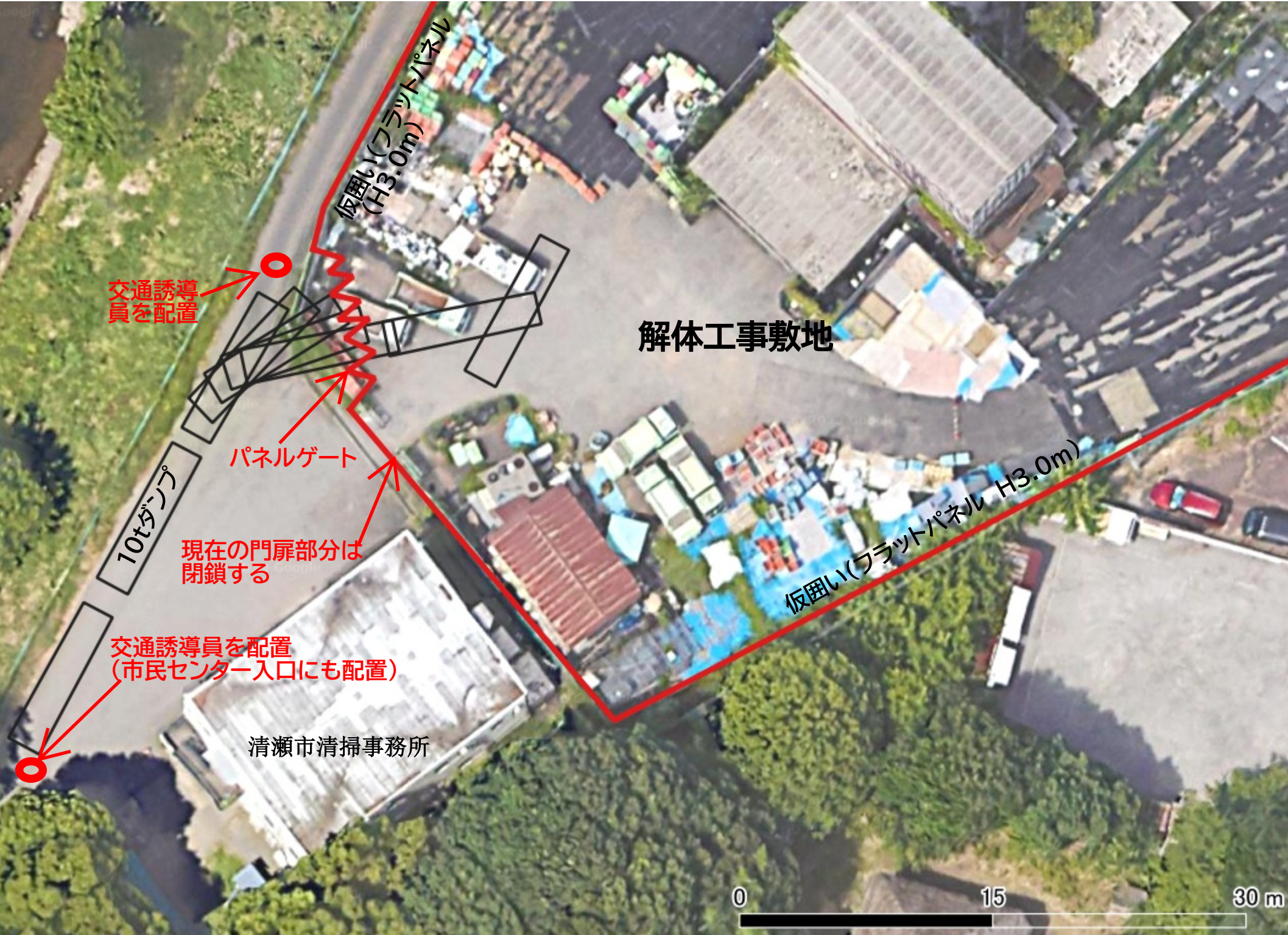
杭打5



杭打5



梳打5.



仮囲い(フラットパネル)
(H3.0m)

交通誘導員を配置

解体工事敷地

10tダンク

パネルゲート

現在の門扉部分は
閉鎖する

仮囲い(フラットパネル H3.0m)

交通誘導員を配置
(市民センター入口にも配置)

清瀬市清掃事務所

